

高知県立大学  
University of Kochi

# 社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 2 1 号

2 0 1 9 年

(2018年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>



# 学部理念・目的・ポリシー

---

## 【理念・目的】

### 教育理念

福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的实践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

### 教育目的

#### (1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

#### (2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

#### (3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

## 【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

### (知識・理解)

- 1 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
- 2 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

### (汎用的・実践的技能)

- 3 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
- 4 コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

- 5 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
- 6 ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

- 7 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
- 8 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

## 【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

### 1 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

### 2 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだどこの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における

相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

#### （教育方法）

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

#### （評価）

学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

## 【アドミッション・ポリシー】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

### 求める学生像

- 1 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
- 2 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔理解力・洞察力・表現力〕
- 3 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔理解力・洞察力・表現力〕
- 4 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
- 5 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲・協働性〕

### 入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般入試（前期日程・後期日程）、推薦入試（県内・全国）、社会人入試、私費外国人留学生入試があります。

- ・一般入試（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入試センター試験教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行

い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・一般入試（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入試センター試験教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・推薦入試（県内・全国）

高等学校からの推薦者を対象として、基礎学力を把握する観点から調査書の評定平均値を点数化するとともに面接を行います。面接は、志望動機書及び推薦書を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・社会人入試

社会人の経験を有する者を対象として、小論文を課すとともに面接を行います。小論文は、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

・私費外国人留学生入試

日本国籍を有しない者を対象として、日本学生支援機構が実施する日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行い、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の理解力・洞察力・表現力等の様々な能力を総合的に点数化し評価します。

# 目 次

## I. 2018年度を振り返る

1. 2018年度 社会福祉学部活動概括 ..... 1
2. 2018年度 社会福祉学部の主要行事 ..... 3
3. 2018年度 社会福祉学部時間割 ..... 4

## II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2018年度）	6
1. 杉 原 俊 二	8
2. 田 中 き よ む	11
3. 長 澤 紀 美 子	15
4. 西 内 章	18
5. 丸 山 裕 子	21
6. 宮 上 多 加 子	23
7. 横 井 輝 夫	25
8. 鈴 木 孝 典	27
9. 中 嶋 洋	30
10. 西 梅 幸 治	33
11. 三 好 弥 生	35
12. 河 内 康 文	37
13. 遠 山 真 世	39
14. 福 間 隆 康	41
15. 稲 垣 佳 代	43
16. 大 熊 絵 理 菜	45
17. 片 岡 妙 子	47
18. 加 藤 由 衣	49
19. 雑 賀 正 彦	51
20. 田 中 眞 希	53
21. 玉 利 麻 紀	55
22. 福 田 敏 秀	57

### Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2018年度）	59
1. 教 務 委 員 会	60
2. 入 試 委 員 会	62
3. 学 生 委 員 会	64
4. 実 習 委 員 会	65
5. 就 職 委 員 会	67
6. 広 報 委 員 会	68
7. 介 護 人 材 確 保 部 会	69
8. キャリア支援委員会	76
9. 健康長寿センター	78
10. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	79
11. 災害対策プロジェクト	83
12. 総務・予算委員会	84
13. 国試対策支援委員会	85

### Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	87
2. 国 際 交 流	88
3. 学 外 イ ベ ン ト へ の 参 加	89
4. 太 鼓 部	90
5. 池 手 話 サ ー ク ル	91
6. イ ケ あ い	92
7. ハ モ ☆ イ ケ	93
8. か ん き も ん	94
9. P シ ス タ ー ズ	95
10. Society For Everyone	96
11. ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	97
12. 修学旅行ボランティア	100

### Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2018年度）

編 集 後 記



I

2018年度を振り返る



# 2018年度 社会福祉学部活動概括

学部長 宮上多加子

## 1. 教員体制

- ・2018年度は8月末に退職1名、10月に新採用1名が加わり教員数21名。  
職位構成は教授7名、准教授4-1名、講師3名、助教7+1名。  
担当分野構成は福祉基礎4名、社会福祉8名、介護福祉5名、精神保健福祉4名。

## 2. 教育

- ・授業評価および学部独自のアンケートを実施し、結果を分析したうえで、担当教員の授業方法改善に取り組んだ。
- ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づいた学修成果の評価指標を作成し、指標に対応させた学習到達度評価を4回生に実施。これらのポリシーは、新年度の学部ガイダンス資料で周知。
- ・8月から10月にかけて3回生が相談援助実習を、精神・社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行い、2月に実習報告会、3月に実習先担当者を招いて実習連絡協議会を開催。
- ・介護・社会福祉コース4回生が2017年度に実施した介護実習Ⅲの介護福祉事例研究報告会を7月に開催、実習先担当者を招いての実習連絡協議会を7月に開催。2回生の介護実習Ⅱを8月から9月にかけて行い、10月に実習報告会を開催。1回生の介護実習Ⅰと3回生の介護実習Ⅲを2月から3月にかけて実施。
- ・4回生の卒業研究では、4月に構想発表会、10月にポスター形式による中間報告会を経て、12月20日締切りで論文提出、卒論発表会を2月に開催。

## 3. 研究

- ・研究成果としては著書3編、査読付論文18編、その他論文等16編、学会発表等19件。
- ・「高知県立大学紀要(社会福祉学部編)」第68巻に7編掲載。
- ・科学研究費は平成30年度9件応募、5件採択で採択率55.6%、平成31年度は10件応募。
- ・科研費での他大学教員との共同研究は、研究分担者4名。

## 4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- ・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第20号を作成・公表。
- ・研究・教育面での学部FD研修会を2回開催。

## 5. 2018年度入学生と2019年度入学試験

- ・4月に第21期生73名(県内出身32名、男子8名、社会人1名)が入学。
- ・推薦入試では、県内枠への志願者が28名(-9)で志願倍率1.4倍、全国枠は29名(同数)で2.9倍。県内出願者は昨年度より減少。
- ・一般入試の志願者数は、前期日程で減少、後期日程で増加し、総数では若干減少となった。前期日程が88名(-40)で志願倍率2.5倍、合格倍率2.1倍、後期日程が138名(+33)で志願倍率27.6倍、合格倍率8.4倍。
- ・私費外国人入試に3名の応募があり、2名合格し入学者1名。
- ・社会人入試には応募者なし。

## 6. 卒業生と就職状況

- ・3月に第18期生70名（男子14名）が卒業。
- ・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
- ・就職・進学希望者68名の内67名(99%)の就職が3月末までに決定。
- ・就職先・進路の内訳は、福祉施設等41%、医療機関21%、社会福祉協議会9%、公務員等12%、一般企業15%、進学1%、未定1%。

## 7. 3 福祉士資格と国家試験

- ・国試対策支援委員会が4回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、日本ソーシャルワーク教育学校連盟の模擬試験を実施。
- ・国試合宿勉強会を1月に2泊3日で実施。いの町の高知県立高知青少年の家を利用し、4回生47名が参加。
- ・1月末に実施された第31回介護福祉士国家試験に22名が受験して22名が合格(合格率100.0%/平均73.7%)。2月初めに実施された第31回社会福祉士国家試験に64名受験して53名合格(合格率82.8%/平均29.9%)、第21回精神保健福祉士国家試験に26名受験して25名合格(合格率96.2%/平均62.7%)。
- ・新卒の合格率は、社会福祉士(受験者50人以上の福祉系大学等)が59校中1位、精神保健福祉士は91校中16位。

## 8. 地域貢献活動・卒業生への支援

- ・「社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座を11月から12月にかけて開催、延べ123名の福祉関係者等が参加。
- ・オープンキャンパスを8月5日(日)に開催し、社会福祉学部の参加者212名（うち高校生133名）。
- ・高知県との連携事業（補助金）として「高知県キャリア教育推進事業」を実施。7月28日と11月11日、3月25日に開催した「高校生と保護者のための公開講座」には合計264名参加。学部提案型出前講座を高知南高校、嶺北高校、丸の内高校、岡豊高校、山田高校、高知商業高校、清水高校、中村高校で実施し、参加者数は合計108名。
- ・健康長寿センター体験型セミナーを看護学部・健康栄養学部と協働して実施。
- ・卒業生に対する支援として2015年度より実施している領域別リカレント研究会は、継続的に3分野で実施し、のべ40名が参加。

## 9. 広報活動

- ・学部広報に活用する社会福祉学部のパンフレット2018版を作成。
- ・学部の広報委員会に入試広報部会を設置し、入試広報担当者を中心に高知県内の高校15校、県外の高校2校に訪問。学部の説明を行うとともに、各校の進路希望状況について情報収集。
- ・3福祉士国家資格への対応や全国卒の推薦入試などを高校にPRするため、県外出身の学生7名が夏休み期間中に出身高校を訪問。

## 10. 国際交流活動

- ・韓国短期研修（慶南科学技術大学校）に1回生2名が参加。
- ・アメリカ エルムズカレッジ短期研修に1回生1名、2回生1名が参加。

2018年度社会福祉学部の主要行事

4月	4日(水)	入学式(県民文化ホール、21期生73名)
	5-6日(木-金)	学生ガイダンス
	9日(月)	前期授業開始(～8月7日)
	21日(土)	新入生バスハイク(県立香北青少年の家)
	23日(月)	第1回連絡会・教授会
	25日(水)	卒業研究構想発表会
5月	7日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会
	28日(月)	第2回連絡会・教授会
6月	2日(土)	学年間交流会
	25日(月)	第3回連絡会・教授会
7月	11日(水)	第4回連絡会・教授会
	23日(月)	第5回連絡会・教授会
	28日(土)	県大生と行く!職場見学ツアー
	30日(月)	介護福祉実習連絡協議会/介護福祉実習(介護実習Ⅲ)報告会
8月	5日(日)	オープンキャンパス
	21日(火)	第6回連絡会・教授会
	29日(水)	第7回連絡会・教授会
9月	7日(金)	第8回連絡会・教授会
	25日(月)	第9回連絡会・教授会
10月	1日(月)	後期授業開始(～2月20日)
	22日(月)	第10回連絡会・教授会/第1回FD研修会
	24日(水)	卒業研究中間発表会
	30日(火)	介護福祉実習(介護実習Ⅱ)報告会
11月	3日(土)	第1回リカレント教育講座
	11日(日)	高校生と保護者のための公開講座/第2回リカレント教育講座
	18-19日(土-日)	推薦入学試験・社会人入学試験
	26日(月)	第11回連絡会・教授会/第12回連絡会・教授会
12月	6日(木)	第2回FD研修会
	8日(土)	第3回リカレント教育講座
	15日(土)	第4回リカレント教育講座
	25日(火)	第13回連絡会・教授会
1月	7-9日(月-水)	国家試験合宿勉強会(高知青少年の家:いの町)
	18日(金)	第14回連絡会・教授会
	27日(日)	第31回介護福祉士国家試験
	28日(月)	第15回連絡会・教授会/人権研修
	31日(木)	相談援助実習報告会
2月	2-3日(土-日)	第31回社会福祉士国家試験・第21回精神保健福祉士国家試験
	8日(金)	卒業研究発表会/4回生を送る会
	18日(月)	第16回連絡会・教授会
	25-26日(月-火)	前期日程入学試験/私費外国人入学試験
	27日(水)	第17回連絡会・教授会
3月	4日(月)	第18回連絡会・教授会
	5日(火)	相談援助実習連絡協議会
	6日(水)	精神保健福祉援助実習連絡協議会
	12日(火)	後期日程入学試験
	19日(月)	第19回連絡会・教授会
	19日(火)	卒業式(県民文化ホール、18期生70名卒業)
	25日(月)	第20回連絡会・教授会
	25日(月)	新2・3年生のための入門講座

平成30年度 社会福祉学部 時間割 <前期>

月	1時限			2時限			3時限			4時限			5時限		
	8:50~10:20	教員	教室	10:30~12:00	教員	教室	13:00~14:30	教員	教室	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
1	英語コミニエーション 地域学概論	(別途記載) 宇都宮	教室 大講義室	英語コミュニケーションA	(別途記載)	教室	土佐の食と健康 土佐の経済とまちづくり	廣内 福原・宇都宮・小泉・大井	A306 A318	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
2	英語コミュニケーション	(別途記載)		英語コミュニケーションB	(別途記載)	E102・103・204 F110・207	(介護)介護総合演習Ⅰ 相談援助演習Ⅲ	長澤 岩倉 福間 福間 三好・田中風・榎	D222 E102・103・204 F110・207 大講義室	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
3	生活と社会福祉	中島 大井	D221 A318	社会調査基礎論 (介護)介護の基本Ⅰ	大井 河内	A318 E103	現代社会と福祉Ⅰ	長澤	E103	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
4	経済学	玉里	大講義室	(介護)介護過程Ⅱ	宮上	F110	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中風・片岡	F110	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
火	2 相談援助演習Ⅰ	西梅・福間・遠山・大熊	E102・103・204 F110・207	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	丸山・鈴木孝・榎垣	E102・F207	(介護)発達と老化の理解Ⅱ	榎井	D222	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
3	精神保健学Ⅰ	榎井	D222	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	丸山・鈴木孝・榎垣	E102・F207	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	丸山・鈴木孝・榎垣	E102・F207	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
4	健康スポーツ科学Ⅰ(社福)	清原	体育館	権利擁護論	田中き	大講義室	精神保健福祉援助実習指導Ⅳ	丸山・鈴木孝・榎垣	E102・F207	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
1	健康スポーツ科学Ⅱ(社福)	堂行	体育館	社会保険論Ⅰ	田中き	大講義室	福祉対象入門 福祉援助入門(*)	岩倉 福間	F110	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
2	虐待防止論	加藤・西内	E102	相談援助の理論と方法Ⅰ	加藤	E103	高齢者福祉論Ⅱ	三好・田中風・榎	E102	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
3	英語コミニエーションA	(別途記載)	大講義室	相談援助の理論と方法Ⅳ	西梅	E102	精神保健福祉援助技術各論	榎垣	E103	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
4	基礎シエンター学	野辺	大講義室	社会福祉史	中島	F110	実践記録法	杉原	E204	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
1	英語コミニエーションB	(別途記載)	大講義室	英語コミュニケーションA	(別途記載)	教室	基礎統計学	風間	A204・319	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
2	介護介護の基本Ⅱ	田中風・三好・榎井	F110	英語コミュニケーションB	(別途記載)	教室	児童・家庭福祉論	池添	大講義室	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
3	(介護)介護の基本Ⅲ	河内	E103	(介護)介護の基本Ⅲ	河内	E103	(介護)障害の理解Ⅰ	中島	E102	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
4	介護介護の基本Ⅳ	河内	E103	介護技術 子育て支援論	片岡 中島	F110 E204	精神保健福祉論Ⅱ	田中風・榎井 鈴木孝	F110 E103	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
1	物理と自然法則	風間	A204・318	物理と自然法則	風間	A204・318	地域メディア論	竹下	A306	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
2	地域福祉論Ⅰ	田中き	大講義室	地域福祉論Ⅱ	田中き	大講義室	介護総合演習Ⅳ	三好・田中風・片岡	E102	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
3	医療ソーシャルワーク論	大熊	E103	社会調査の基礎	遠山	E102	介護総合演習Ⅴ	三好・田中風・片岡	E102	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
4	医療的ケアⅡ	片岡・三好	F110	医療的ケアⅡ	片岡・三好	F110	介護総合演習Ⅵ	三好・田中風・片岡	F110	14:40~16:10	教員	教室	16:20~17:50	教員	教室
科目名等	開講月日														
地域学実習Ⅰ	通年														
地域学実習Ⅱ	通年														
地域学共生実習	通年														
現代生活論	開講時期未定(水国寺)														
風文化理解海外フィールドワーク	未定														
介護実習Ⅰ	通年(掲示)														
介護実習Ⅱ	通年(掲示)														
介護実習Ⅲ	通年(掲示)														
相談援助実習	通年(掲示)														
精神保健福祉援助実習Ⅰ	通年(掲示)														
精神保健福祉援助実習Ⅱ	通年(掲示)														
国際福祉論	掲示														
医療福祉論	掲示														
保健医療サージェス	掲示														
ケアプラン策定法	掲示														
精神医学Ⅰ	掲示														
精神医学Ⅱ	掲示														

[備考]  
\*1 受講登録は、前期集中です  
(※1)社会福祉学部学生履修不可  
健康栄養学部開講科目  
月曜日 2限 保健医療福祉論(田中きよむ)

未開講:チームアプローチ、スバービジョン

平成30年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

月	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限	
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	教室	教員	教室	教員	教室
1	英語コミュニケーション (別途記載)	英語コミュニケーションB (別途記載)	土佐の自然と暮らし	教員 一色・大村・非高動	教室 A319	教室	教員	教室	教員	教室
2	英語コミュニケーション (別途記載)	英語コミュニケーションB (別途記載)	福祉研究入門	丸山	E103	E103				
3	英語コミュニケーション (別途記載)	福祉財助と福祉計画	コミュニケーションワーク	丸山	E102	E102				
4	英語コミュニケーション (別途記載)	事例研究法	平和論	澤・神原	A318	A318	一色・大村	A318	宮本・木間	体育館 A318
1	相談援助の基礎と専門職	現代社会と福祉II	心理学理論と心理的支援	杉原	E103	E103	西内・西梅・加藤	大講義室	相談援助の基礎と専門職	相談援助実習指導II
2	(介護)介護過程III	(介護)発達と老化の理解I	地域福祉論II	杉原	E102	E102	福岡	E102	相談援助実習指導II	相談援助実習指導II
3	(介護)介護過程III	(介護)介護総合演習III	(介護)介護過程IV	福岡	E104	F104	三好・片岡	F104	(介護)介護過程IV	D221・222
4	対人関係とメンタルヘルス	栄養と健康	精神保健福祉援助実習指導I	丸山・鈴木孝・稲垣	F110・207	F110・207	丸山・鈴木孝・稲垣	F110・207	精神保健福祉援助実習	E102・D222
1	相談援助の理論と方法III	社会保障論II	情報リテラシー	風間	A318	A318	稲垣	A318	心理学	E204
2	相談援助の理論と方法III	相談援助の理論と方法II	健康とヘルスプロモーション	清原・他	E103	E103	谷口	E103	(介護)生活支援技術II	F110
3	(介護)医療的ケアI	(介護)医療的ケアI	精神保健福祉援助技術総論	丸山	E204	E204	丸山	E204	(介護)生活支援技術II	---
4	精神科リハビリテーション学	精神科リハビリテーション学	(介護)介護の基本II	福岡	E102	E102	福岡	E102	社会福祉専門演習II	---
1	英語コミュニケーション	英語コミュニケーションB	倫理学	吉川	A306	A306	吉川	A306	哲学	A306
2	日本語表現法	日本語表現法	地域とグローバル化セッション	細野	A318	A318	細野	A318	現代人権論	A318
3	英語コミュニケーション	英語コミュニケーションB	(介護)介護総合演習I	片岡・田中真・河内・三好	F110	F110	田中真	F110	社会福祉専門演習IV	---
4	英語コミュニケーション	英語コミュニケーションB	福祉NPO論	田中真	大講義室	大講義室	田中真	大講義室	社会福祉専門演習IV	---
1	(介護)コミュニケーション技術	(介護)コミュニケーション技術	ケアマネジメント演習	榎賀	E103	E103	榎賀	E103	相談援助演習IV	E102・103・E204・D222
2	(介護)生活支援技術IV	(介護)生活支援技術IV	(介護)認知度の理解II	榎賀	F110	F110	榎賀	F110	(介護)介護過程I	F110
3	精神保健福祉論I	精神保健福祉論I	(介護)認知度の理解II	宮上	F110	F110	宮上	F110	公的扶助論	大講義室
4	精神保健福祉論I	精神保健福祉論I	精神保健福祉論I	鈴木孝	E102	E102	鈴木孝	E102	精神医学I・IIが入ることもある	E102
1	文化理解海外フィールドワーク	閉講月日	閉講月日							
2	地球学実習I	地球学実習I	地球学実習I	一色・他						
3	地球学実習II	地球学実習II	地球学実習II	一色・他						
4	地球学実習III	地球学実習III	地球学実習III	一色・他						
1	専門職連携論	専門職連携論	12月開講予定	西内・他						
2	チーム形成論	チーム形成論	2月開講予定	山中・他						
3	介護実習I	介護実習I	連年(祐示)	田中真・三好・河内・片岡						
4	介護実習II	介護実習II	連年(祐示)	田中真・三好・河内・片岡						
1	介護実習III	介護実習III	連年(祐示)	田中真・三好・河内・片岡						
2	相談援助実習	相談援助実習	連年(祐示)	丸山・鈴木孝・稲垣						
3	女性福祉論	女性福祉論	祐示	長澤						
4	高齢者福祉論I	高齢者福祉論I	祐示	丸山						
1	精神医学I	精神医学I	祐示	丸山						
2	精神医学II	精神医学II	祐示	丸山						
3	精神保健福祉援助実習I	精神保健福祉援助実習I	連年(祐示)	丸山・鈴木孝・稲垣						
4	精神保健福祉援助実習II	精神保健福祉援助実習II	連年(祐示)	丸山・鈴木孝・稲垣						
1	地域福祉活動	地域福祉活動	祐示	田中真						

【備考】  
 (※)社会福祉学部学生履修不可

永国寺開講 火曜日 1限 生活と社会福祉(田中真)  
 池開講 水曜日 2限 介護論(三好)

看護学部開講科目  
 金曜日 2限 社会保険と看護(田中真)





# II

社会福祉学部教員の教育研究活動  
(教育研究活動報告書)



## 2018年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児童・家族福祉論／心理療法
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	福 祉 行 財 政 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福祉政策論／国際比較研究
教 授	西 内 章	博 士（臨床福祉学）	社会福祉援助技術論
教 授	丸 山 裕 子	博 士（社会福祉学）	ソーシャルワーク論
教 授	宮 上 多 加 子	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
教 授	横 井 輝 夫	博 士（保 健 学）	リハビリテーション科学
准教授	鈴 木 孝 典	博 士（人 間 学）	精 神 保 健 福 祉 論
准教授	中 嶋 洋	博 士（医療福祉学）	児 童 ・ 家 庭 福 祉 論
准教授	西 梅 幸 治	博 士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
准教授	三 好 弥 生	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
講 師	河 内 康 文	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
講 師	遠 山 真 世	博 士（社会福祉学）	障 害 者 福 祉 論
講 師	福 間 隆 康	博 士（マネジメント）	社 会 福 祉 運 営 論
助 教	稲 垣 佳 代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	大 熊 絵 理 菜	修 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
助 教	片 岡 妙 子	修 士（看 護 学）	介 護 福 祉 論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助 教	加 藤 由 衣	博 士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
助 教	雑 賀 正 彦	修 士（社会福祉学）	地 域 福 祉 論
助 教	田 中 眞 希	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	玉 利 麻 紀	修 士（人間科学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	福 田 敏 秀	博 士（保 健 学）	高 齡 者 福 祉 論

○研究活動

（研究ノート、事例報告など）（10件）

（1）研究ノート

1. 杉原俊二「友人のことを通して語られた自分史（V）－A牧師の大学時代（中篇）－」『人間科学』74. 2-7.（2018年5月）
2. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」事例（18）－ある軍事愛好家たちの空母『鳳翔』を巡る話－」『リハビリテーションと心理療法』1, 2-7.（2018年6月）
3. 杉原俊二「友人のことを通して語られた自分史（VI）－A牧師の大学時代（後篇）－」『人間科学』75. 2-7.（2018年7月）
4. 杉原俊二「友人のことを通して語られた自分史（VII）－A牧師の大学院時代（前篇）－」『人間科学』76. 2-7.（2018年9月）
5. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」事例（19）－ある軍事愛好家たちの商船改装空母を巡る話－」『リハビリテーションと心理療法』2, 2-7.（2018年9月）
6. 杉原俊二「友人のことを通して語られた自分史（VIII）－A牧師の大学院時代（後篇）－」『人間科学』77. 8-13.（2018年11月）
7. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」事例（20）－ある軍事愛好家たちの商船改装空母を巡る話（その2）－」『リハビリテーションと心理療法』3, 2-7.（2018年12月）
8. 杉原俊二「友人のことを通して語られた自分史（IX）－A牧師の伝道師時代（前篇）－」『人間科学』78. 2-7.（2019年1月）
9. 杉原俊二「友人のことを通して語られた自分史（X）－A牧師の伝道師時代（後篇）－」『人間科学』79. 8-13.（2019年3月）
10. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討（21）－ある軍事愛好家の対潜コルベットを巡る話－」『リハビリテーションと心理療法』4, 2-7.（2019年3月）

（2）学会発表等（5件）

1. 杉原俊二「大学院教育で使用するKJ法－インタビュー調査を中心として－」第42回KJ法経験交流会（川喜田研究所）2018年5月12日
2. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた虐待予防－改良4T法によるマニュアル作成のヒント」日本家族研究・家族療法学会第35回ぐんま大会（高崎ホテル）2018年8月11日
3. 杉原俊二「児童虐待のリスクへの支援方法－保護者の育ちを振り返る自分史－」2018年第4回学術的交流サロン（高知県立大学池キャンパス）2018年10月15日
4. 「4テーマ分析法を用いた地域での虐待予防の研究構想－虐待リスクを抱える保護者への支援法－」第41回KJ法学会（川喜田研究所）2018年11月10日
5. 杉原俊二「大学院教育で使用するKJ法（II）－KJ法用語をどのように教えるか－」（呈示発表）第41回KJ法学会（川喜田研究所）2018年11月10日

## ○教育活動

- (1) 学部：「心理学理論と心理的支援」（1年後期、看護学科とも）、「発達と老化の理解Ⅰ」（2年後期）、「面接技法」（3年前期）、「実践記録法」（4年前期）、「相談援助実習指導Ⅱ」（2年後期）、「相談援助実習指導Ⅲ」（3年前期）、「相談援助実習」（3年集中）、「相談援助演習Ⅳ」（3年後期）、「社会福祉基礎演習Ⅱ」（3年3名）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（4年3名）
- (2) 大学院 人間生活学研究科（博士前期課程）：「児童・家庭福祉論Ⅰ・Ⅱ」、「児童福祉演習」（各15コマ）、「データ解析論（7コマ分）」「課題研究演習」（主指導2名、副指導3名）
- (3) 大学院 人間生活学研究科（博士後期課程）：「社会福祉学特別研究Ⅲ」（主指導2名）

## ○委員会活動

- (1) 全学「人権委員長」
- (2) 学部「キャリア支援委員長」「紀要委員長」「人事関係検討会委員」「自己点検委員」
- (3) 大学院「博士後期課程入試実施委員」

## ○社会的活動

- (1) 社会活動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー、高知県教育委員会高知県いじめ問題調査委員（副委員長）、高知県社会福祉協議会理事選考委員

- (2) 学会など

日本人間科学研究会中国四国地域担当理事、KJ法学会運営委員・編集委員、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック運営委員（監事）、所属学会などの学会誌編集協力（査読者）

- (3) 講演など

1. 香美市教育委員会スクールソーシャルワーカー研修（単独事業）（7月27日、1月18日各3時間）。香美市役所
2. 高知県教育委員会人権教育課チーム学校研修会（8月20日、21日各4時間）20日田野町ふれあいセンター、21日香我美市民会館
3. 2018 域学共生れんけい拡大会議（9月5日）本学永国寺キャンパス

## ○総合評価及び今後の課題

人間生活学研究科長を4年で退任し、今年度からヒラ教授に戻った。木曜日の部局長会議、教育研究審議会や、研究科長としての当て職が一気に減ったこともあり、もう少し教育と研究に目が届くようになったと思っていた。しかし、学内では学長指名の人権委員長となり、学外では高知県いじめ問題調査委員会の副委員長、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック高知大会実行委員長となつて、今までにない会議が増えるようになった。難しい案件が多く、学内外の皆様のお助けがあり、何とか務めることができた。

教育に関しては赴任10年目になり、第十八期生を卒業させることができた。授業では、「心理学理論と心理的支援」「実践記録法」「面接技法」「発達と老化の理解Ⅰ」を担当したうえ、実習に関する科目も2年ぶりに持たせてもらった。講義科目については1回ごとのレジュメの配布や、

## 教育研究活動報告書（杉原 俊二）

受講生同士（2～4名）討論を入れるなど、以前から導入した方法を継続すると同時に、例年通り学生の意見聴取にできるだけ務めた。ゼミでは、例年通り全体ゼミ（3、4年）に3年ゼミ（講読）と4年個別指導を組み合わせおこなった。学内外の業務のため、昨年度ほどではないが、しわ寄せがゼミ学生の指導に及んだことは否めず、卒論や就職指導の時間はなんとか確保できた状態であった。

研究に関しては、昨年度から科学研究費補助金基盤研究（C）「4テーマ分析法を用いた虐待予防－「虐待リスク」を抱える保護者支援法（2）－」が採択され継続中である。ただ、2017年度に入院をし、その後も通院をしたため、1年目の研究の遅れがまだ十分に取り戻せていない。これは事務担当者によく相談をする必要がある。

委員会等については、研究科長を退任したため会議が減り、その分、学部での負担を少しでも増やしてもらった。学部の紀要委員長としては、昨年度の15編と比べ、今年度は7編と半減した。原因分析はこれからだが、できるだけ積極的な投稿を望む。今年度も査読委員として学部の先生方にはご活躍いただいた。キャリア支援委員長としては、来年度開催の学会と、再来年度からの開催を目指す学内学会の準備に奔走した。皆様のご協力が必要なので、是非ともお願いした。

大学院の教育として、博士後期課程2名の学生を指導していた。ゼミとして50回分の指導をおこなった。年度末で1人が退学となったが、彼の復学を目指して指導を続けたい。博士前期課程では主指導2名、副指導4名がおり、授業を37コマ、ゼミをのべ40回分、合同指導会は5回開催した。長時間労働となることも多く、これからの「働き方改革」とどう折り合いをつけていくのが問題である。来年度は博士前期課程2名、博士後期課程1名の修了を目指して指導をする。

社会的な活動については、地域貢献として高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）をおこなった。また、いじめ問題調査委員も深刻な事態（1件）のため、多くの会議に出席した。さらに難病連から「ピアサポーター」の講義も担当した。学会では、これまでの活動に加えて日本社会福祉学会中国四国地域ブロック高知大会の実行委員長となった。できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。

学会等の活動では、ここ数年、所属学会だけでなく、他の学会（研究会）からも研究論文の査読や講演依頼が来るようになった。研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、今年度も他大学の修士・博士の教育にもかかわっている。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

# 田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

## ○研究活動

### （1）論説

- ・田中きよむ「高齢者の生活保障施策の動向と行財政」日本地方自治学会編『地方創生と自治体』（敬文堂）地方自治叢書 29Ⅲ、2018年11月（103～135頁）
- ・田中きよむ・霜田博史「地域福祉（活動）計画とその持続性に関する一考察」『高知論叢』第115号、2018年10月（87～115頁）
- ・田中きよむ「生きづらさを支え、生き抜く力を育む地域支援ネットワークを考える」『消費者法ニュース』No.118、2019年1月（41～42頁）
- ・田中きよむ「貧困と社会保障・地域福祉をめぐる動向と本質」『クレサラ・生活再建白書』第38回全国クレサラ・生活再建問題被害者交流集会、2018年10月（159～164頁）

### （2）研究報告

- ・田中きよむ「アジア型高齢者・障害者福祉システムと地域づくりの動向と特徴—台湾・韓国の取り組み状況を事例として—」『Humanismus』第30号、2019年3月（36～67頁）
- ・田中きよむ「居住支援のための借家保証の現状と課題—あまやどり依頼者の個票から見られる特徴・傾向について—」（NPO法人「あまやどり高知」高知県社会福祉事業補助研究事業報告書）2019年3月（1～6頁）

### （3）学会報告

- ・田中きよむ「地域福祉（活動）計画とその持続性に関する一考察—高知県佐川町・日高村・四万十町を事例として—」第65回四国財政学会（香川大学経済学部交友会館）2018年12月

### （4）研究助成（研究代表者 田中きよむ）

- ・「『小さな拠点』を軸とする共生型地域づくり—その形成要因の分析と持続モデルの構築—」（文部科学省科学研究費基盤研究（C）一般：平成27～30年度）

## ○教育活動

### （1）学部

（専門教育）

- |             |               |                |
|-------------|---------------|----------------|
| 1. 社会保障論Ⅰ・Ⅱ | 2. 福祉行財政と福祉計画 | 3. 公的扶助論       |
| 4. 権利擁護論    | 5. 福祉NPO論     | 6. 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ |
| 7. 福祉研究演習ⅢD | 8. 社会保障と看護    | 9. 保健医療福祉論     |

（共通教育）

1. 社会保障と生活 2. 地域学概論

### （2）大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論 2. 社会保障論 3. 社会福祉課題研究演習

## ○委員会活動

- ・（学部）教務委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員長、人事委員会委員、
- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、入試監査委員会委員長（大学院入試）、



## 教育研究活動報告書（田中 きよむ）

地域教育研究センター地域課題研究部会部会長

- ・（大学院）学位審査委員会委員

### ○社会的活動

（委員等）

- ・ 社会政策学会秋期企画委員会委員
- ・ 高知県運営適正化委員会委員
- ・ 高知県老人クラブ連合会理事
- ・ 高知県地域年金事業運営調整会議委員長
- ・ 高知県青年農業士認定委員会委員長
- ・ 高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
- ・ 高知県介護ケア研究会会長
- ・ 全国障害者問題研究会高知支部長
- ・ 高知県社会保障推進協議会会長
- ・ 高知県保育運動連絡会会長
- ・ 「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・ 高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・ 高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・ 高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・ 高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・ 高知市生活困窮者支援運営委員会委員、セーフティネット連絡会委員
- ・ 高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
- ・ 公益財団法人ひかり協会救済対策委員
- ・ 学校法人太平洋学園高校「多様な学習検討委員会」委員
- ・ 社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「ファミリーユ高知」各第三者委員
- ・ NPO 法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO 法人「未来予想図」副理事長  
NPO 法人「あさひ会」理事長、NPO 法人「あまやどり高知」理事、NPO 法人「ムッターシューレ」副理事長、社会福祉法人「さんかく広場」理事

（講演等）

- ・ 仁淀川町地域福祉計画アドバイザー（2018年4月・7月・9月・12月）
- ・ 高知市社会福祉協議会主催研修講演「地域共生社会の実現に向けて 一 個別支援・地域拠点・地域福祉計画一」（2018年4月）
- ・ 地方自治研究全国集会高知プレ大会助言者（2018年5月）
- ・ 高齢期運動連絡会「私たちのいのちと暮らしは守られているのか—憲法第9条と25条—」（2018年5月）
- ・ 高知県立大学国際交流課「留学生池デイ」講座「高知県における住民主体と域学共生の地域づくり」（2018年5月）
- ・ 四国合同保育研究集会分科会「新制度と保育運動」助言者（2018年5月）
- ・ 四万十町社会福祉協議会地域福祉計画アドバイザー（2018年6月・2019年2月）
- ・ 本山町社会福祉協議会地域福祉計画アドバイザー（2018年6月）
- ・ 香南市立野市小学校出前講座「地域をいきいき！元気にするために」（2018年6月）
- ・ 高知県社会保障推進協議会主催「貧困問題を考えるシンポジウム」コーディネーター（2018年6月）

## 教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・愛媛県保健福祉課民生委員児童委員研修講師「生活困窮者支援と住民主体のまちづくり」（2018年6月）
- ・高知市民の大学講師「今日の社会保障制度の現状と改革方向」（2018年7月）
- ・高知県立大学社会福祉学部オープンキャンパス体験授業講師「住民主体のまちづくりと域学共生」（2018年8月）
- ・日本母親大会（全国大会）医療介護福祉部会助言者（2018年8月）
- ・四国保育所合同研究集会講師「貧困・社会保障の動向と保育所制度」（2018年9月）
- ・徳島県社会福祉協議会研修講師「住民主体のまち・むらづくりー個別支援・地域拠点地域福祉計画ー」（2018年10月）
- ・地方自治研究全国集会ナイター講座講師「人間らしく生きるために、社会保障を充実する」（2018年10月）
- ・全国クレサラ・生活再建問題被害者交流集会全体会コーディネーター（2018年10月）
- ・高知市社会福祉協議会「市民後見人講座」講師（2018年10月）
- ・土佐清水市社会福祉大会シンポジウム「障害をもつ子どもと歩む～支えあいの地域づくりについて考える～」コーディネーター（2018年10月）
- ・高知県立中村中学校出前講座講師「地域福祉のおもしろさー住民主体の幸せのまち・むらづくり」（2018年10月）
- ・こうちネットホップ「子どもの貧困問題を考える」湯浅誠氏講演＋パネルディスカッション・コーディネーター（2018年11月）
- ・滋賀県市町保健師協議会研修講師「多様な人々をつなぐ地域共生社会づくり」（2018年11月）
- ・労働者福祉中央協議会主催講演会「生活困窮者支援と地域共生社会」（2018年11月）
- ・高次脳機能障害リハビリテーション講習会「経験者から（当事者家族から専門職へ）の申し送り」コーディネーター（2018年11月）
- ・NPO 法人日本・デンマーク生活研究所主催福祉交流研修講師「日本の社会保障制度の現状と今後」（2018年11月）
- ・佐川町社会福祉協議会地域福祉計画アドバイザー（2018年11月）
- ・本山町社会福祉大会地域福祉計画シンポジウム・コーディネーター（2018年11月）
- ・社会福祉士会四国ブロック研修会分科会「貧困と生活困窮者支援」総括講義（2018年12月）
- ・介護ケア研究会講演「生活困窮者支援と共生型地域づくり」（2018年12月）
- ・居住支援セミナーシンポジウム・パネルディスカッションコーディネーター（2018年12月）
- ・土佐清水市社会福祉協議会「市民後見人講座」講師（2018年12月）
- ・高知県社会福祉協議会「地域福祉計画」研修講師・コーディネーター（2019年1月）
- ・高知市地区社会福祉協議会連合会「地域共生社会」シンポジウム・コーディネーター（2019年1月）
- ・高知市秦地区社会福祉協議会地域福祉計画アドバイザー（2019年1月）
- ・地域生活定着支援センター主催パネルディスカッション「誰もが安心して暮らすために地域でできること」コーディネーター（2019年1月）
- ・徳島県牟岐町社会福祉協議会研修「地域福祉（活動）計画と住民主体のまちづくり」（2019年2月）
- ・こうちネットホップ主催生活保護学習会コーディネーター（2019年3月）
- ・四万十市社会福祉大会講演「地域でとりくむ見守りと支えあいのまちづくり」（2019年3月）

- ・三原村社会福祉協議会研修「地域でとりくむ見守りと支えあいのまちづくり」（2019年3月）
- ・「若者と高知市政を考える集い」コーディネーター（2019年3月）

### ○総合評価及び今後の課題

- ・研究面では、2018年度は、これまでの研究を継続・発展させる方向で、①社会保障制度改革の構造と本質に関する近年の動向分析、②地域福祉（活動）計画の持続性要因、③小さな拠点を軸とする地域づくりの形成・持続要因、④生活困窮者自立支援施策の有効性を検討する研究を進めた。
- ・教育面では、講義に関しては、地域福祉論、社会保障論、公的扶助論、福祉行財政と福祉計画、権利擁護論などを担当しているが、国家資格との関連もあり、学生の受講態度はまじめである。ただ、それらの科目に関する学生の理解力、関心や主体的取り組みを喚起する授業の工夫が求められており、それらに対する意識的な取り組みを進めていきたい。地域福祉論と福祉NPO論は理論的な側面と実践的な側面から構成されるが、とくに福祉NPO論の成績は良い。理論的な側面をきちんとおさえながら、実践的な側面では具体的な内容を盛り込みつつ、学生の興味・関心を高めていきたい。とくに福祉NPO論の後半は、ゲストスピーカーによるオムニバス講義とそれをふまえたグループワークであるが、学生の関心・反応は良いので、今後も学生のニーズを考慮しながらコーディネートを工夫していきたい。

専門演習に関しては、ゼミ生は主として地域福祉研究に関心をもっており、実態調査に基づき理論化してゆく調査研究能力と地域の現実課題に応えられる課題解決能力が身につけられるように配慮した指導を心がけている。文献研究の基本を身につけつつも、様々な地域福祉領域の中で自分の問題関心を焦点化させ、地域の具体的な生活課題に応じたテーマを設定し、課題解決実践に資する基礎研究となる卒論作成ができるような指導を心がけてきた。2019年度のゼミ4回生は個別研究を希望していることから、単独研究のテーマの焦点化、リサーチ・クエスチョンの深まりをふまえて、個々のテーマにふさわしい調査対象の確保、方法の明確化に配慮した個別指導を進めていく。ゼミ3回生に対しても、知的関心が深まっていくよう具体的な地域や現場と結びつく調査研究のおもしろさを感じ取れるような配慮を心がけたい。

- ・社会的活動は、今年度も地域福祉・地域づくりや社会保障・社会福祉に関連して、自治体、社会福祉協議会、住民組織、非営利組織等との協力関係を持たせていただいた。それに合わせて、学生にも、地域との接点を持ち住民の現実の生活課題を学びつつも、各地域ならではの固有価値を実感してもらえるような関係づくりを意識的に進めた。今後、地域と大学の「域学共生」を進める教育体系の進展、学生による主体的な「立志社中」等の地域活動、自治体と大学の包括協定、国際的な大学間連携も視野に入れながら、学生と共に積極的な地域アプローチを進め、持続的な地域福祉活動、地域づくりの形成に研究・教育・実践面から寄与していきたい。

# 長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

## ○研究活動

### （１）論文（１件）

- ・長澤紀美子（2019）「社会福祉専門職養成教育における「性的指向」「性自認」に関する教育内容の検討ーアメリカの専門職教育における指針等を参考にー」、『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』, Vol. 68, pp. 81-94.

### （２）競争的資金等の獲得状況（１件）

- ・科学研究費補助金 基盤（B）（課題番号：15H03427）「福祉・介護サービスの市場化とガバナンスの変容に関する国際比較研究」（平成27年度～平成30年度）（研究代表者：お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 平岡公一教授）分担研究者

### （３）資料（２件）

- ・長澤紀美子（2018）「性的少数者の人権」『公益財団法人高知県人権啓発センター季刊誌「こころんだより」』, Vol. 7, pp. 1-2.
- ・長澤紀美子（2018）「多様な性を認め合う「高知家」に～ソーシャルアライ・コナツハットの居場所づくり」, 『こうち男女共同参画センター「ソーレ・スコープ」』, 第84号, pp. 3-4.

## ○教育活動

### （１）学部

講義科目：「現代社会と福祉Ⅰ」「現代社会と福祉Ⅱ」「女性福祉論」「国際福祉論」

実習科目：「相談援助実習指導Ⅱ（中途より）」「相談援助実習指導Ⅲ」「相談援助実習」「相談援助演習」

卒業研究指導：「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」（受講者7名）

「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」（受講者5名）

○サークル顧問：いけとべ！、中国語サークル

### （２）大学院人間生活学研究科（博士前期課程）

・「研究方法論Ⅱ」（オムニバス）（受講者6名）／「国際福祉論Ⅰ」（受講者8名）

・研究指導：副指導教員として4名（M1生3名、M2生1名）を担当した。

## ○委員会活動

【全学】 【大学院】 人間生活学研究科長\*

\* 部局長会議、教育研究審議会、高大接続を軸とする大学改革プロジェクト、入学試験委員会、研究倫理委員会、自己点検評価運営委員会、非常勤講師審査委員会、学術研究戦略委員会、学術研究戦略委員会審査・評価部会、動物実験委員会の委員、全学紀要委員会委員長

【学 部】 実習委員長

学部防災委員、人事関係検討委員、自己点検評価委員

## ○社会的活動

### （1）委員等

高知市 行政改革推進委員／高知市 指定管理者業務評価委員会外部委員

高知県社会福祉協議会 地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員

高知県 女性の自立支援促進事業委託業務プロポーザル審査委員会

### （2）講演等

## ○学内研修

2019年3月6日第9回学際的交流サロン「エルムズ大学大学院研修について」

## ○性的指向・性自認（Sexual Orientation and Gender Identity）に関わる啓発研修

2019年3月15日 香美市ふれあい交流センター ふれあいじんけん学習会

2019年2月16日 「人間と性」教育研究協議会（性教協） 高知サークル研修会

2019年2月15日 高知県人権教育研究協議会 第2回人権問題課題別研修会

2019年1月30日 高知市人権教育研究協議会 春野支部人権教育研修会

2018年12月19日 平成30年度 幡多児童相談所人権研修及び公務員倫理研修

2018年12月14日 高知県隣保館連絡協議会 人権課題別研修Ⅱ

2018年11月29日 室戸市行当地区 人権講演会

2018年11月16日 平成30年度第42回 高知県高等学校生徒保健委員研修会

2018年11月10日 室戸市佐喜浜町「しみんかんフェスタ」人権講演会

2018年10月19日 土佐市 人権教育及び人権啓発事業

2018年9月28日 平成30年度第1回四国人権擁護委員連合会男女共同参画委員研修会

2018年8月26日 全国母親大会第18分科会「多様な性を認め合う社会へーLGBTのことなど」

2018年6月5日・6日 2018年度高知県職場研修支援 人権問題指導者研修会

2018年5月17日 2018年度香南市人権教育研究協議会

2018年4月6日 UA ゼンセン四国ブロック スプリングセミナーin高知

## ○主催研究会

「ジェンダー・アイデンティティについて、考えてみませんか？」 平成31年3月21日（池キャンパス）における司会・コーディネート

内容：デール・ソイヤ氏（一橋大学専任講師）を話題提供者としたジェンダー研究会（本学学生、高知大学教員・学生、医療・社会福祉専門職ら18名参加）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

- ・学部の授業では、学生一人ひとりに（倫理的なジレンマ状況等に関する）問いを投げ掛け、意見を記述するリアクションペーパー（教員との往復用）を配布し、次週にコメントを返すと共に、学生の意見を整理して授業で紹介し、フィードバックを行っている。学生の主体的な参加を促す工夫や効果的な事前学習の内容について、引き続き毎回の授業の中で取り組みたい。

## 教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

- ・女性福祉論では、こうち男女共同参画センター訪問や第一線で支援を行っている相談員の外部講師を招き、ひとり親家庭の母親やデートDV・DVの被害者、またLGBT等セクシュアル・マイノリティ等の相談内容や当事者が置かれた現状および、それらの背景にある社会構造を学ぶと共に、ロールプレイを通じて実践的な支援技術を身に付けられるように試みた。
- ・大学院「研究方法論Ⅱ」において、図書館データベースを活用した英文論文レビューの方法を扱い、要約の課題を課している。一方で院生が自身の修士論文に英文論文を引用・参照するまでには個々に応じた支援が課題である。

### 2. 研究活動について

- ・分担研究者として研究会に参加し、テーマに関するイギリスの政策動向や現状での課題について報告し、意見交換を行った。また年度末にイギリスを訪問し、福祉専門職にヒアリングを行うと共に文献収集を行った。英語でのコミュニケーション力の向上と、近年変化の多い、イギリスの政策動向の追跡と分析が課題である。

### 3. 学内業務について

- ・大学院人間生活研究科長の任期一年目として、カリキュラム・ポリシーの改正をはじめとして、三領域（学部）にまたがる研究科の運営に日々取り組んだ。授業評価アンケート、DPに基づく学修成果アンケート（試行版）、研究交流会のもちかたに関するアンケート等を行い、学生の意見をヒアリングし、可能な限り学生の意向を反映するよう努めた。とりわけ、三領域の学務委員の教員が尽力して下さり、各領域の院生室の教育研究環境が整備され、研究交流会を自由で多様な意見交換の場とすることができた。また、社会人入試説明会等の広報による募集人員の確保に努めた。
- ・大学院（看護学研究科・人間生活学研究科）合同の初の海外短期研修である「エルムズ大学大学院研修」のプログラムの企画に関わり、看護学研究科の畦地教授と共に引率した。その成果と課題について、看護学研究科の畦地教授・高谷講師と共に、「学術交流サロン」で報告した。エルムズ大学院での教育内容に関連して、ソーシャルワーク教育に関するアメリカの職能団体（NASW）やグローバルスタンダード（IFSW, IASSW）における Cultural Competency「多文化対応能力」の定義・概念およびその能力を獲得するための条件や教育内容について分析を行った。

### 4. 社会貢献について

- ・県内の大学生や大学教員、現場の支援者によって構成されるLGBT啓発団体「ソーシャルアライ・コナツハット（通称サワチ）」の共同代表として、性の多様性に関する啓発活動を行った。具体的には人権擁護委員や隣保館等の相談員・人権教育関係者、小・中・高等学校教員（養護教諭含む）、児童相談所職員、行政職員、事業者労働組合員等に対する人権研修を実施するとともに、ジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティに関わる研究会を開催した。また、高知県県民生活・男女共同参画課の職員と、国内外のジェンダー施策に関わる情報交換の機会を持った。

# 西 内 章

Akira NISHIUCHI

## ○ 研究活動

### 1. 論説

西内章・大熊絵理菜(2019)「ソーシャルワークにおける多職種連携の位置付けと実践課題」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』68, 71-80.

### 2. 研究発表

御前由美子・小榮住まゆ子・安井理夫・西内章・伊藤佳代子・溝渕淳・長澤真由子  
(2018)「独立型社会福祉士スーパービジョン方法への提案－独立型社会福祉士スーパービジョン支援ツールを用いたセルフ・スーパービジョン」(日本社会福祉学会第66回：2018年9月9日 金城学院大学)

### 3. 科学研究費助成事業

研究種目 基盤研究 (C) :2018 ～2020年度

研究代表者 西内章

研究課題 『ソーシャルワークにおける ICT を活用した多職種連携モデルの構築』

### 4. 研究会

ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授、関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰）」に所属し，コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行った。

## ○ 教育活動

[ 共通教育科目 ]

- ①「専門職連携論」
- ②「チーム形成論」

[ 学部専門科目 ]

- ①「事例研究法」
- ②「相談援助の基盤と専門職」
- ③「虐待防止論」
- ④「相談援助演習Ⅲ」
- ⑤「相談援助演習Ⅳ」
- ⑥「相談援助実習指導Ⅰ」
- ⑦「相談援助実習指導Ⅱ」
- ⑧「相談援助実習指導Ⅲ」
- ⑨「相談援助実習」
- ⑩「社会福祉専門演習Ⅰ」
- ⑪「社会福祉専門演習Ⅱ」
- ⑫「社会福祉専門演習Ⅲ」
- ⑬「社会福祉専門演習Ⅳ」

## 教育研究活動報告書（西内 章）

[大学院人間生活学研究科]

- ①研究方法論Ⅱ
- ②ソーシャルワーク論
- ③高齢者福祉論
- ④課題研究演習

### ○委員会活動

- ①学部教務委員長
- ②自己点検評価委員
- ③大学院入試実施委員
- ④入試広報部会委員
- ⑤退院支援事業委員（健康長寿センター）

### ○社会的活動

[委員等]

- ・高知県行政不服審査会委員
- ・高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・高知県共同募金会評議員・高知県共同募金会配分委員
- ・高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長
- ・高知市社会福祉協議会評議員
- ・高知市成年後見サポートセンター運営委員
- ・津野町地域包括支援センター・津野町地域密着型サービス運営協議会委員

[研修会講師・講演等]

- ・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅲ講師「対人援助と事例研究」，「事例研究の基本枠組み」，「事例研究の方法としてのケースカンファレンス」（5月19日）
- ・平成30年度市町村社協職員基礎研修講師「はじめてでも分かる相談援助技術の基本」（5月29日）
- ・平成30年度高知県退院支援事業研修講師「多職種協働研修」第2・3・5回（西部地区7月12日，高知地区7月28日，西部地区12月6日）
- ・教育相談の充実（チーム学校）に向けた連絡協議会講師（高吾ブロック8月27日，幡多ブロック8月28日）
- ・高知県相談支援従事者研修講師「ケアマネジメントの展開①」担当（9月12日）
- ・あったふれあいセンターテーマ別研修会研修講師「利用者理解から課題解決へ－訪問・アセスメント・つなぎ－」（9月25日）
- ・平成30年度高知県法人後見担当者研修講師「成年後見制度対象者の理解」（9月27日）
- ・須崎市地域包括支援センター・須崎市社会福祉協議会認知症ケア実務研修講師「事例検討を通じた認知症理解」（9月27日）
- ・高知市成年後見センター市民後見人養成講座講師「権利擁護（虐待予防）について」（10月18日）
- ・平成30年度高知県退院支援事業研修講師「退院支援コーディネート能力習得研修」第2回（西部地区11月15日，高知地区11月18日）



## 教育研究活動報告書（西内 章）

- ・平成 30 年度公益社団法人日本介護福祉士会第24回中国・四国ブロック研修会高知大会第1分科会座長・講演「多職種・次世代に伝えたいもの」（11月25日）
- ・土佐清水市社会福祉協議会市民後見人養成講座講師「権利擁護（虐待予防）について」（12月16日）
- ・高知県隣保館職員等研修事業研修講師「人権課題別研修Ⅰ 高齢者保健福祉制度と相談支援」（11月29日）
- ・平成 30 年度福祉サービス第三者委員ブロック別研修会研修講師「当事者・家族からの苦情をどう受け止め、組織としてどう活かしていくか」（3月11日）

### ○総合評価及び今後の課題

#### 1. 教育活動

担当科目では新たに「虐待防止論」を分担することになったため、教材を検討し授業を行った。また例年同様「専門職連携概論」と「チーム形成論」は、看護学部山中福子講師、健康栄養学部廣内智子講師とIPW（Inter-Professional Work）の基礎的理解を中心に授業を実施した。社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳでは、4回生7名の卒業研究論文指導を行った。大学院では大学院生の主指導を担当している。次年度、修士論文を執筆できるように研究指導を継続したい。

教育活動では、特に各授業において授業の目標を鑑みながら、学生の授業への取り組み姿勢やリアクションペーパーなどから学生の理解度を確認して授業内容の改善を継続的に実施したい。

#### 2. 研究活動

研究活動では、科研費に申請していた研究が今年度から3年間の研究計画として採用された。研究内容は、昨年度までの研究を基盤にして、ICTを活用したソーシャルワークを展開する多職種支援モデルを構築することである。次年度も文献の検討と調査に計画的に取り組むと考えている。

#### 3. 委員会活動

委員会活動では、学部教務委員長としてディプロマポリシーにもとづく学修成果評価について一覧表の作成などについて教務委員会のメンバーとともに日々取り組んだ。また、高知県から高知県立大学健康長寿センターに委託されている高知県退院支援事業の委員として活動した。特に本事業の責任者である久保田聡美教授や乾看護師他担当教職員、医療機関や地域包括支援センター、保健所、市町村担当者等と一緒に高知県の医療・介護連携の課題を明確化し方策を考えることができた。

#### 4. 社会的活動

社会的活動では、高知県内における医療福祉、高齢者福祉、地域福祉、児童福祉、障害者福祉などの分野において、ソーシャルワーク研修や権利擁護研修、事例検討等を行った。それぞれの研修において、社会福祉士や精神保健福祉士、医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、教員等の多職種方々が直面している課題について協議することができ、自らも学ぶ機会となった。

#### 5. 今後の課題

授業では授業に有用な教材の検討を行い、自らの教育を見直したいと考えている。研究では、これまで以上に文献検討を丁寧に行いたいと考えている。次年度も教育活動及び研究活動、委員会活動、社会的活動に継続的かつ積極的に取り組み、現在の自分を見つめ直し、気づきを得ながら改善に取り組み、尽力したいと考えている。

## ○研究活動

- 1 研究会参加（現在休会中）  
エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加
- 2 論文等  
なし

## ○教育活動

（学部）

- ・福祉研究法入門
- ・精神保健援助技術総論
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
- ・精神保健福祉援助演習

## ○委員会活動

- 1 学部
  - ・社会福祉研究倫理審査会委員
  - ・入試監査委員
  - ・全学FD委員
  - ・医療センター連携委員
  - ・入試広報部会
- 2 大学院
  - ・学生生活委員

## ○社会的活動

高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

## ○総合評価及び今後の課題

今年度は、教員の複数の欠員発生に伴い、多面的に影響を受けることになった1年となった。卒業論文指導やゼミ運営などにエネルギーを傾注した。また、精神保健福祉援助実習においては、実習の動機と課題、実習計画書（案）の作成の際には、グループでの指導とともに個別指導に力を入れ、現場実習へとつなげることを意識的に行った。履修生の人数が多かったこともあり、夏季休暇期間のほとんどが、実習巡回指導や帰校日など実習指導に時間をとられる結果になっている。

演習・実習指導に限らず、授業においては、学生の実習体験を素材にしたグループ学習やDVDなどの視覚教材の活用など、わかりやすい授業というよりは「学生が参加し、主体的に考えてもらうための素材を提供する授業」を基本姿勢としているつもりである。

## 教育研究活動報告書（丸山 裕子）

研究活動については、27年度採択になった科学研究費補助金基盤（B）「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」が一昨年最終年度をむかえた。新たなソフト開発への業者への支払い方法に関して、契約窓口の大学事務の検討が進まず、最終的には不本意ながら補助金の返還という結果に至った。研究者としては遺憾の念に耐えない。実用化に向けては、ツール開発にかなりの資金を要することから数年にわたり、再三チャレンジしてようやく採択にこぎつけたテーマだったため、いまだ失意からたちなおれずにいるというのが実情である。

次年度こそは、教育活動と同様に、上記ライフワークでもある研究の継続に向けて、多様な方法を模索したいと考えている。

社会的活動との関連では、スーパーバイザーとしての力量の向上をめざし、スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程専門科目群担当教員講習会に参加した。

# 宮上 多加子

Takako MIYAUE

## ○研究活動

### （１）論文

- ・宮上多加子・田中眞希(2019) 中堅介護職員の経験を通じた学びと職場における支援関係『高知県立大学紀要社会福祉学部編』68, 1-13.
- ・田中眞希・宮上多加子・西岡睦子(2019) 介護保険施設における人材育成の現状—中堅介護職員と指導職員への聞き取り調査に基づく分析—『高知県立大学紀要社会福祉学部編』68, 41-53.
- ・笹村聡・大塚貴英・平松真奈美・金久雅史・宮上多加子(2018)通所介護による個別機能訓練で行われる情報共有の構造：混合研究法による知見統合『四国公衆衛生学会誌』64(1).

### （２）学会発表

- ・荒川泰士・宮上多加子：「ケアコラボ」導入による訪問介護員の利用者に関する観察の視点の変化—インタビュー調査に基づく分析から—, ナイチンゲール KOMI ケア学会第9回学術集会（東京），2018年6月.
- ・田中眞希・宮上多加子・河内康文：高齢者福祉施設における人材育成の特徴—施設管理者および指導的職員へのインタビュー調査から—, 第26回日本介護福祉学会大会（大阪），2018年9月.

## ○教育活動

[ 学部 ]

### （１）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース1回生（後期）の授業を担当した。ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI ケア理論」の基礎と、事例を用いた介護過程の概要について講義した。教材は、介護福祉コース教員と学生が協同で制作したイラスト入り事例を用いた。

### （２）「介護過程Ⅱ」

介護コース2回生（前期）配当科目で、今年度より新たに担当した科目である。

### （３）「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」

「認知症の理解Ⅰ」「認知症の理解Ⅱ」ともに本年度は単独で担当した。昨年度と同様に介護コース以外の学生も履修したため、医学的知識の基礎的理解や、当事者からの発信、地域社会における認知症をもった人への支援などを重点的に取り上げた。

### （４）「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」

3回生のゼミ生は7名、4回生のゼミ生は6名であった。ゼミの活動内容については、例年通りゼミ記録として冊子にまとめた。

[ 大学院（人間生活学研究科博士前期課程） ]

### （１）「介護福祉論Ⅰ」を学部専任教員とオムニバスで担当した。

### （２）論文指導

正指導教員としてM1生2名とM2生2名、副指導教員としてM1生1名とM2生1名を担当した。研究を進めるためのディスカッションの場として、大学院ゼミを毎月1～2回継続的に開催した。

[ 大学院（博士後期課程） ]

(1) 論文指導

正指導教員として院生 1 名，副指導教員として院生 2 名を担当した。

○委員会活動

[ 全学 ]

社会福祉学部長(教育研究審議会/部局長会議/入学試験委員会/自己点検評価運営委員会/研究活動不正防止委員会/教員評価委員会/非常勤講師審査委員会/学術研究戦略委員会/人事委員会/広大接続を軸とする大学改革プロジェクト委員会/高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会)

[ 学部 ]

学部総務・予算委員会/学部人事関係検討会/自己点検評価委員会

[ 大学院（人間生活学研究科博士後期課程） ]

学務委員

○社会的活動

高知県社会福祉審議会委員/高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員

高知県福祉活動支援基金運営委員会委員/高知市民生委員推薦会委員

高知県社会福祉協議会理事/日常生活自立支援事業契約締結審査会委員（委員長）

○総合評価と今後の課題

(1) 教育活動

本年度より介護過程と認知症に関する科目を単独で担当することになった。ⅠとⅡという科目の関係性や、他の科目の内容との整合性を検討する点など、本年度は試行錯誤の中で行ったが、次年度以降は新採用教員との分担を含めて改善をしていく予定である。

(2) 研究活動

科学研究費補助金(基盤(C))「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」(研究期間：平成 29～31 年度)の 2 年目として、在宅介護事業所への調査を実施するとともに、昨年度に実施した中堅介護職員とその指導者を対象とした調査研究を論文として公表した。調査を通じて、人材確保が予想以上に厳しい状況が明らかになった。

(3) 学内業務

昨年度に引き続いて入試広報担当教員を中心に高知県全域の高等学校への訪問を継続して実施するとともに、「高知県キャリア教育推進事業」を引き続き実施し、社会福祉学部の広報を積極的に展開した。平成 31 年度入試の志願者数は、全体的にはやや減少したが、年度による変動の範囲内であったと考えられる。事業展開の中で、保護者への広報の重要性も明確になった。また、学部ホームページを充実させるため、広報委員会や予算委員会との連携により、学部長管理分の経費を活用した。

学部長としての業務に関しては、教員の欠員補充が大きな課題であった。順次公募を開始し、4 月および 10 月に助教各 1 名が着任したが、8 月末に准教授 1 名が退職して、学部運営としては厳しい状況が続いた。平成 31 年度には准教授 1 名と講師 2 名を迎えることになり、教員体制は一応整うことになったと言える。この間、学生にもゼミ担当教員や学年担当教員の変更、また集中講義での対応などで多大な迷惑をかけた。しかし、このような中で社会福祉士国家試験合格率が 70 人定員となって初めて 80%を超え、新卒合格率 82.8%（全国平均 29.9%）となったことは特筆に値する。

# 横井 輝夫

Teruo YOKOI

## ○研究活動

### （1）論文

- ・ Hayashida Masahiro, Tokoi Teruo: Meaning and Potential of Interview Data in Depiction of Life Stories, *Journal of Physical Therapy Science*, 30(8), 1095-1098, 2018.

### （2）書籍

- ・ 横井輝夫：運動発達障害の療育体系と療育指導、「小児理学療法学テキスト 改定第3版（田原弘幸・他編）」、南江堂、pp.242-254、2018.

### （3）競争的資金

- ・ 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「ことばと自己認識の喪失過程で認知症者の認識世界に何が起きているのか？」 研究期間：2016年4月～2020年3月  
研究代表者：横井輝夫

## ○教育活動

### （学部）

- ・ 精神保健学Ⅰ
- ・ 精神科リハビリテーション学
- ・ こころとからだのしくみⅠ
- ・ 障害の理解Ⅰ
- ・ 精神保健学Ⅱ
- ・ 発達と老化の理解Ⅱ
- ・ こころとからだのしくみⅡ
- ・ 介護の基本Ⅱ

### （大学院）

- ・ 健康リハビリテーション論

## ○委員会活動

### （全学）

- ・ 学生委員会
- ・ 総合情報センター委員会

### （学部）

- ・ 人事関係検討会
- ・ 介護人材確保事業部会
- ・ 倫理審査委員会
- ・ 学年担当

### （大学院）

- ・ 学務委員

## ○社会的活動

### （研修会講師・講演等）

- ・ 医工連携交流会  
「指輪をはめると認知症の女性の怒りや攻撃に向かう傾向が減少した —そこから私たちが学んだこと」（平成30年7月9日）
- ・ 高校生と保護者のための公開講座

## 教育研究活動報告書（横井 輝夫）

「人生の過程を考える」（平成 30 年 11 月 11 日）

- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会月例会  
「認知症をもつ人ともたない人の今」（平成 31 年 1 月 27 日）

（学外非常勤講師）

- ・吉備国際大学（「運動発達学」「理学療法技術実習」担当）
- ・吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程（通信制）（「臨床保健学特論」担当）

### ○総合評価及び今後の課題

#### （1）教育活動について

介護福祉士指定科目については、病気のことなど学生は多くの新たな知識を獲得する必要があるため、毎回確認テストを行いながら進めた。精神保健福祉士指定科目については、毎回興味深い資料を配布しながら進めた。反省点は、めりはりをもう少しさせた授業にすること。

#### （2）研究活動について

科学研究費補助金（基盤研究 C）「ことばと自己認識の喪失過程で認知症者の認識世界に何が起きているのか？」が、少しずつ形になってきた。現在、研究成果をジャーナルへ投稿中である。

#### （3）学内業務について

全学の学生委員会と学部の学年担当では、戸惑うこともあったが、様々な課題が見えてきた。この経験を次年度に活かし、学部へ貢献したい。

#### （4）社会貢献について

特に、研究での新たな知見を発表することを通して社会に貢献していきたい。

# 鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

## ○研究活動

### （1）学術論文

- ・鈴木孝典、北川裕道「内科的疾患と精神障害のある高齢者のセルフケアを促進する支援過程-グループホーム拠点とした生活支援からの考察」『精神保健福祉学』vol.6、No.1、2019.1、pp.30-46.

### （2）著書

- ・なし

### （3）学会発表等

- ・垣内佐智子、鈴木孝典「社会復帰調整官の専門性に関する研究-精神保健福祉士資格を有する社会復帰調整官の視座からの考察」、第15回日本司法精神医学会大会（山口）、2018.6.
- ・藤井しのぶ、鈴木孝典「発達障害児の復学支援におけるPSWと学校の連携に関する研究-児童精神科病棟退院時に着目して」、一般社団法人日本精神保健福祉学会第7回学術研究集会（長崎）、2018.9.

### （4）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤(C)、課題番号:16K04169、平成28年度-30年度）  
研究代表者：鈴木孝典  
研究課題名：「内科的管理を要する疾患をもつ高齢精神障害者のセルフケア機能評価支援ツールの開発」
- ・厚生労働科学研究費補助金（障害者総合政策研究事業）（H30-身体・一般-006）  
研究代表者：田村綾子  
研究分担者：藤井千代、行實志津子、鈴木孝典  
研究課題名：「障害者の地域移行及び地域生活支援のサービスの実態調査及び活用推進のためのガイドライン開発に資する研究」

## ○教育活動

### （1）講義

#### [学部]

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1. 「精神保健福祉論Ⅰ」   | 7. 「精神保健福祉援助実習Ⅰ」    |
| 2. 「精神保健福祉論Ⅱ」   | 8. 「精神保健福祉援助実習Ⅱ」    |
| 3. 「社会福祉専門演習Ⅰ」  | 9. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」  |
| 4. 「社会福祉専門演習Ⅱ」  | 10. 「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」 |
| 5. 「社会福祉専門演習Ⅲ」  | 11. 「精神保健福祉援助演習」    |
| 6. 「社会福祉専門演習Ⅳd」 |                     |

#### [大学院]

1. 「研究方法論Ⅱ」
2. 「精神保健福祉論」
3. 「社会福祉課題研究演習」



## 教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

### （2）講義以外

#### ・実習支援

精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

## ○委員会活動等

### （1）学部

1. 精神・社会福祉コース主担当
2. 実習委員
3. 入試委員
4. 入試広報ワーキンググループ主担当

### （2）全学

1. 学部入試実施委員
2. 総合情報センター運営委員（人間生活学研究科選出委員）

## ○社会的活動

### （1）委員等

1. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
2. 高知県自立支援協議会 副会長（2009年2月～、副会長2014年7月～）
3. 高知県自立支援協議会人材育成部会 部会長（2013年9月～）
4. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
5. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
6. 高知市障害者計画等推進協議会 会長（2014年11月～）
7. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
8. 社会福祉法人ファミリーユ高知 評議員（2015年4月～）
9. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 理事（2016年6月～）
10. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 機関誌査読委員（2015年4月～）
11. 公益社団法人日本精神保健福祉士協会 機関誌査読委員（2015年4月～）
12. 高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会 副委員長（2015年4月～、副委員長2018年3月～）
13. 精神保健福祉士試験委員（2018年5月～）
14. 高知大学研究拠点プロジェクト中間評価委員会委員（2018年4月～）

### （2）講演等

1. 平成30年度高知県相談支援従事者研修会「障害者ケアマネジメント概論」講師（7月18日）
2. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（厚生労働省補助金事業）「実習分野講習会」講師（8月25日～26日（東京））
3. （公財）訪問看護財団「精神障がい者の在宅看護セミナー」講師（9月1日（愛媛））
4. 平成30年度高知県相談支援従事者専門コース研修会「ファシリテーターに必要なスキル」講師（11月1日）
5. 高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「障害のある人のキャリア形成を考える-ピアサポーターに関心をもつ“あなた”へ向けて」講師（12月8日）

### （3）学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）
3. 大正大学大学院人間学研究科博士前期課程（「Mソーシャルワーク研究法Ⅱ」担当）
4. 日本福祉教育専門学校通信課程（「精神保健福祉の基盤と専門職」担当）

## ○総合評価及び今後の課題

### （1）教育活動について

今年度は、昨年度に引き続き、実習事後指導における実習評価のための個別面接を実

## 教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

施することができた。また、学生の授業評価を精査し、次年度に向けて精神保健福祉援助実習指導及び演習のプログラムを見直した。次年度は、新たな実習指導・演習プログラムを展開するとともに、更なる教育プログラムの充実に向けた評価を行いたい。また、講義科目については、moodleを導入し、アクティブ・ラーニングを含む新たな授業プログラムを展開した。新たな授業展開については、受講生より一定の評価を受けることができた。引き続き、学生の授業評価を精査しながら、授業プログラムの充実を図りたい。

### （2）研究活動について

今年度は、科研費に係る調査研究を中心に活動した。昨年度の遅れを取り戻すために、予備的調査を中心に研究活動を展開したが、予定していた統計的調査研究を実施することができなかった。そのため、次年度は、科研費の執行を延長し、当初計画に基づく調査を全うできるよう研究活動を進めたい。また、厚生労働科学研究の分担研究者として、他機関の研究者、実践者との共同研究を展開した。その結果、新たな知識交流の機会を得ると共に、障害保健福祉施策の実践評価に関連した貴重な研究成果を得ることができた。この研究成果について、学会発表及び学術誌への論文投稿に向けた準備を進めているところである。

### （3）学内業務及び社会貢献活動について

入試実施委員として、昨年度に引き続き、福間講師、遠山講師とともに、全学及び学部における入試の運営を担った。また、昨年度に引き続き、入試広報ワーキンググループの主担当として、学部教員と協働しながら、高校訪問を実施し、入試広報とあわせて高校の進路指導の実態把握等に努めた。次年度は、今年度に引き続き、県内外での進学ガイダンスへの参加や高校の訪問などの入試広報について、入試課と連携を図りながら進めたい。

## ○研究活動

### 1 著書（図書）

- ・『実習指導必携 プロソーシアルワーク入門』八千代出版、2018年11月（編著）。（編者は中 鳶 洋、第1～7, 17, 18, 21, 22, 24～26, 29, 39, 41, 50, 64, 79～81項目を担当）。
- ・『コミュニティ・プロファイリング——地域のニーズと資源を描く技法』川島書店、2018年12月（分担執筆）（監訳は清水隆則、付録2「社会調査法の詳細」を担当）。

### 2 論文（原著論文）

- ・「岡上菊栄の児童養護実践と”ねぐら”構想——児童福祉法成立以前の高知博愛園を事例として」『社会事業史学会第46回大会報告要旨・論文集』167-179頁、社会事業史学会、2018年5月（単著）。

### 3 発表（学会）

- ・「岡上菊栄の児童養護実践と”ねぐら”構想——児童福祉法成立以前の高知博愛園を事例として」（第46回社会事業史学会全国大会、於 東洋大学、2018年5月12日）（単独）

- ・「**소지역복지활동의 촉진요인 - 코치현 및 시마네현의 홈 헬프 사업사를 사례로**」

（2018年度韓国社会福祉学会、於 新韓大学〔大韓民国ソウル市〕、2018年4月21日）  
（単独）

#### （研修・セミナー）

- ・2018年度石井十次記念セミナー（於 石井十次記念館、宮崎県高鍋町、2018年8月25日～26日）

### 4 外部獲得資金状況（科研費）

- ・「長野県社会部厚生課長としての原崎秀司の職務内容とホームヘルプ事業化との関連」（平成28年度～平成30年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究C、課題番号16K04179）（研究代表者）
- ・「厚生行政のオーラルヒストリー——終戦後の制度再建から介護保険の創設まで」（平成28年度～平成30年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究B、課題番号16H03718）（研究分担者）（研究代表者は、菅沼 隆、共同研究者は百瀬 優、森田慎二郎、中尾友紀、土田武史、山田篤裕、田中総一郎、深田耕一郎、浅井亜希、岩永理恵、新田秀樹、松本由美）

## ○教育活動

[共通教育科目]

生活と社会福祉

[学部専門科目]

児童家庭福祉論、社会福祉史、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅰ、相談援助実習指導Ⅲ、社会福祉専門演習Ⅰ、社会福祉専門演習Ⅲ、対人関係論、子育て支援論

## ○委員会活動

学部学生委員、学部災害対策委員、学部倫理審査委員  
学部広報委員（介護人材確保事業部会）  
健康長寿土佐市連携事業「地域ケア会議推進プロジェクト」委員

## ○社会的活動

[委員等]

- ・生涯教育・社会教育研究促進機構（IPSLA）編集委員会幹事（2006年～）
- ・日本介護福祉学会機関誌『介護福祉学』査読委員（2009年～）
- ・全日本大学開放推進機構（UEJ）理事（2014年～）
- ・日本介護福祉学会評議員（2015年～）
- ・福祉哲学研究所研究員（2016年～）
- ・日本福祉文化学会理事（2018年～）
- ・日本福祉文化学会機関誌『福祉文化研究』編集委員長（2018年～）
- ・平成30年度第1回日本福祉文化学会理事会（2018年6月17日、於 日本福祉文化学会事務局、大阪市中央区）
- ・平成30年度第1回日本福祉文化学会機関誌『福祉文化研究』編集委員会（2018年6月17日、於 日本福祉文化学会事務局、大阪市中央区）

[研修会講師・講演等]

- ・平成30年度高知県立大学高校生と保護者のための公開講座「“ダブルケア”の観点から見た子育て困難とその支援」（2018年11月11日、於 高知県立大学池キャンパス）
- ・日高市生涯学習まちづくり出前講座「歴史から介護問題を学ぶ」講師（2015年～）
- ・秩父まちづくり出前講座講師（2015年～）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

上半期は高知県立大学において、社会福祉史、児童家庭福祉論、相談援助実習指導、相談援助演習、生活と社会福祉などを担当し、社会福祉士養成を中心としながらも、他学部学生との関わりを見られ、幅広く教授した。特に、少人数の授業では、教員と学生とのコミュニケーションを大切にし、理解の深化を促した。また、時折、視聴覚映像も取り入れることで、飽きない授業の工夫をした。

一方、相談援助演習・実習指導では、実習や実践面に関する知識や情報の習得に留まらず、心構えや精神的側面の成長を促すように配慮した。時にはストレートな表現で注意したりしたが、それが学生に響いていることを望む。また、高知県立大学社会福祉学部2回生の担任を半期（前期）行い、個々の特徴把握や指導に努めた。学年が上がるごとに、学生の成長ぶりを実感している。卒業まで担当できなかったことに悔いは残るが、後任の先生のご指導の下、立派なソーシャルワーカー並びに社会人になってくれることを祈念する。

### 2. 研究活動について

戦後日本のホームヘルプ事業史研究に関し、原著論文（査読付）1本、学会発表（口

## 教育研究活動報告書（中嶋 洋）

頭）2回、などの成果を挙げた。これらは【平成28年度～平成30年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究C、課題番号16K04179、研究代表者】及び【平成28年度～平成30年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金、基盤研究B、課題番号16H03718、研究分担者】の助成によるものであり、ホームヘルプ事業の先覚者である原崎秀司に関する人物史研究の一環でもある。また、これら以外にも、高知県内最初の児童養護施設である高知博愛園（初代園長 岡上菊栄）をとり上げ、研究成果を挙げた。

次年度も引き続き、ホームヘルプ事業史研究を行い、とくに日誌分析を中心とし、同事業の推進者である竹内吉正の思想史研究を進めていきたい。併せて、海外比較研究の一步として、世界のホームヘルプ事業の起源とされるスイスの事例を探究していきたい。

### 3. 社会活動について

高知県立大学防災委員、学生委員として論議を重ね、学生の安全・安心できる学生生活の保障と維持に腐心した。また、健康長寿委員及び広報委員（介護人材確保事業部会）としては、学内で公開講座（高校生と保護者のための公開講座）講師を1回務め、好評を博した。一方、学会関係では、日本社会福祉学会全国大会歴史1部会で司会者を務めたほか、下半期では、日本福祉文化学会理事、日本福祉文化学会機関誌『福祉文化研究』編集委員長として、同誌第28号の編纂に尽力した。さらに、次年度（2019年度）の第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会（於 中京大学名古屋キャンパス）の大会実行委員長に選出され、その準備会や実行委員会開催などに奮闘した。その他、日本介護福祉学会評議員・査読委員、日本社会福祉学会査読委員として委員会活動にも積極的に参加した。次年度は、日本福祉文化学会全国大会東海大会の実行委員長としての重責を果たしつつ、幅広く尽力していきたい。

# 西梅 幸治

Koji NISHIUME

## ○研究活動

- (1) 研究会参加
  - 1) エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加
- (2) 研究資金の導入
  - 1) 挑戦的萌芽研究「分担研究：日本式ソーシャルワーカー教育プログラムの発信」（平成28～30年度）

## ○教育活動

- (1) 担当科目  
(学部)
  - 「相談援助の理論と方法Ⅱ」「相談援助の理論と方法Ⅳ」「相談援助の基盤と専門職」
  - 「社会福祉専門演習Ⅰ」「社会福祉専門演習Ⅱ」「社会福祉専門演習Ⅲ」
  - 「社会福祉専門演習Ⅳ」「相談援助実習」「相談援助演習Ⅰ」
  - 「相談援助演習Ⅱ」「相談援助演習Ⅳ」「相談援助実習指導Ⅰ」
  - 「相談援助実習指導Ⅱ」「相談援助実習指導Ⅲ」「社会福祉入門演習」
  - 「社会福祉基礎演習」
- (大学院)
  - 「研究方法論Ⅱ」
- (2) クラブ活動
  - ・グローバルクラブ顧問
  - ・手話サークル顧問

## ○委員会活動

全学

- ・健康管理センター運営委員会

学部

- ・実習委員会（社士主担当）
- ・総務予算委員会（長）
- ・自己点検評価委員
- ・研究倫理審査委員
- ・国試対策支援委員会（長）
- ・大学院広報担当

## ○社会的活動

- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 社会福祉主事研修・相談援助演習講師
- ・エコシステム研究会 副代表
- ・高知県社会福祉協議会 講師「先輩職員研修」（2018年7月13日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」（2018年8月5日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「高知県中堅民生委員児童委員研修会」（2018年8月23日、10月12日）
- ・香川スクールソーシャルワーカー協会 講師「スクールソーシャルワーク概論」（2018年9月8日）

## 教育研究活動報告書（西梅 幸治）

- ・SSW-Net Sanbashi 講師「ソーシャルワーク方法論の近年の動向」（2018年10月13日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人援助」（2018年11月4日）
- ・高知県隣保館職員等研修事業 講師「人権課題別研修Ⅰ」（2018年11月29日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「相談援助応用研修」（2018年12月14日）
- ・介護支援専門員実務研修 講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」（2018年12月21日）
- ・高知市高齢者支援課 講師「社会福祉士育成研修」（2019年2月22日、3月15日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「新任職員フォローアップ研修」（2019年3月8日）
- ・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク研究会」（4月～3月：計7回）
- ・学部リカレント研究会事業「ソーシャルワーク学習会」（3月：計3回）

### ○総合評価及び今後の課題

#### （1）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが、継続的に研究を行ってきた。今年度は、研究会で開発しているコンピュータ支援ツールの機能改善を図った。しかし一方で共同研究で進めている実習教育に関する研究成果や、自身の主たる研究テーマについては公表できなかった。今後は、科研費の取得や研究成果をコンスタントに公表していきたい。

#### （2）教育活動について

授業では、毎回の授業開始時に、前回の復習や学習手法などを取り入れ、知識の定着を図った。また授業のなかでは、学生からのフィードバック・コメントに応じて、授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。今後も、理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むための工夫を重ねていきたい。実習科目では、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度も積極的にグループ・スーパービジョンを取り入れ、その過程で自省を深め、社会性や専門職としての姿勢が身につくような指導に努めた。

また今年度は、6名の学生の卒論指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は特に、文章構成と分析・考察を深められるように指導を行い、個々に応じた成果を出すことができた。

#### （3）委員会活動・社会的活動について

相談援助実習（社会福祉士）主担当としては、関連授業の効果・効率的、および統合的な授業運営に、総務委員長としては、学部棟などの設備管理や予算執行に、国試対策支援委員長としては、4回生の国試対策に少なからず貢献できたと感じている。今年度は、また高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ならびに高知県社会福祉協議会での研修についても尽力することができたと感じている。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、より貢献できるように取り組んでいきたい。

## ○研究活動

### 1. 論文

- ・三好弥生・片岡妙子・浅沼高志・武富純子・杉原優子（2019）「終末期に至る食事摂取困難事例の類型案」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』68、15-24.

### 2. 著書

- ・久保田トミ子・三好弥生・横山孝子（2019）編集委員及び執筆担当「介護過程の実践的展開」介護福祉士養成講座編集委員会編『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程』中央法規出版、2019. 3. pp124-133.

### 3. 学会発表

- ・三好弥生・片岡妙子「高齢者の脆弱性を知るための用語の整理」第25回日本介護福祉教育学会発表（宮城）2018年8月.

### 4. 競争的資金の獲得

- ・平成28年度～31年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C））「介護者による高齢者の看取り期食事ケアモデル構築に向けた実証的研究」（研究代表者）

## ○教育活動

### 1. 学部担当科目

- ・高齢者福祉論Ⅱ
- ・介護過程Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅴ
- ・社会福祉専門演習Ⅱ
- ・社会福祉専門演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅲ
- ・医療的ケアⅡ
- ・介護過程Ⅳ
- ・社会福祉専門演習Ⅰ
- ・社会福祉専門演習Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護論（健康栄養学部）

### 2. 大学院担当科目

- ・介護福祉論、介護福祉論Ⅰ

## ○委員会活動

### 1. 全学

- ・共通教育部会員

### 2. 学部

- ・介護コース主担当、教務委員、実習委員

### 3. 大学院

- ・人権委員



## ○社会的活動

### 1. 委員等

- ・平成 30 年度 厚生労働省委託事業 高知県ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会 協議会構成員

### 2. 研修会講師・講演等

- ・高知工科大学講師「介護等体験事前指導」永国寺キャンパス及び香美キャンパス（4月）
- ・高知県立大学講師「介護等体験事前指導」永国寺キャンパス（4月）
- ・いのちの電話相談員養成講座講師「コミュニケーション技術－『聞く力』を伸ばす－」高知市保健福祉センター（4月）
- ・特別養護老人ホーム土佐清風園職員研修講師「特別養護老人ホームにおける看取りの現状と課題」南国市（5月）
- ・特別養護老人ホーム土佐清風園職員研修講師「介護職員による医療的ケアに関する基礎知識」南国市（5月）
- ・高知県社会福祉法人経営青年会セミナー講師「就職先を選ぶ学生の観点」高知共済会館（8月）
- ・特別養護老人ホーム土佐清風園職員研修講師「要介護高齢者の看取り介護」南国市（9月）
- ・介護労働安定センター研修講師「介護現場でのターミナルケア」高知市（12月）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

介護実習Ⅰは1回生の終わり春休みに実施しているが、介護保険施設利用者の重度化により、利用者とのコミュニケーションに躓く学生が増えていた。これについて、ケアハウスを実習先に加えるなどし、一定の効果が認められた。また、新カリキュラムにおいて「地域における生活支援の実践」が重視されているが、訪問介護の実習先確保が難しくなっている。次年度は、この課題を解決していく必要があると考えている。

### 2. 研究活動について

科研費助成を受けている高齢者の看取り期食事ケアモデル構築に関する研究は、食事困難事例の類型案として、論文にまとめて公表することができた。次年度は、食事ケアモデルの構築に向けて、それぞれのタイプに対する標準的なケア抽出し、考察していきたい。

### 3. その他

平成 31 年度入学生より、介護福祉士養成課程では新カリキュラムが適用されることとなった。これまで、新カリキュラム移行に向けてシラバスを作成するなど、諸々の準備を行ってきた。次年度より、4 年間は移行期間となるため、過誤のないように注意したい。

# 河内 康文

Yasufumi KOCHI

## ○研究活動

### 1. 論文

河内康文「Economic Partnership Agreement 介護福祉士候補者の介護現場における認識の変容」. 『介護福祉教育』第23巻2号. pp.81-91. 2018年12月.

### 2. 著書

荒川泰士・河内康文「事例3 在宅における脳血管疾患のある女性の事例」久保田トミ子・三好弥生・横山孝子編『介護過程』中央法規出版, pp.112-123. 2019年3月.

### 3. 学会発表

河内康文「Economic Partnership Agreement 介護福祉士の介護現場における経験—経験学習論に基づく質的分析—」(発表). 日本社会福祉学会中国・四国部会, 第50回大会. 2018年7月14日. (於: 四国学院大学)

田中眞希・宮上多加子・河内康文「高齢者福祉施設における人材育成の特徴—施設管理者および指導的職員へのインタビュー調査から—」(発表). 第26回日本介護福祉学会大会. 2018年9月2日. (於: 桃山学院大学)

### 4. 競争的資金の獲得

- (1) 科学研究費基盤研究(C) [平成28年度～平成30年度]「EPA 介護福祉士の介護現場における経験からの学びに関する研究」(代表者: 河内康文)
- (2) 科学研究費基盤研究(C) [平成29年度～平成31年度]「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」(代表者: 宮上多加子)(研究分担者)

## ○教育活動

- |               |               |                |
|---------------|---------------|----------------|
| 1. 介護の基本Ⅰ     | 2. 介護の基本Ⅲ     | 3. コミュニケーション技術 |
| 4. 介護総合演習Ⅰ    | 5. 介護総合演習Ⅱ    | 6. 介護総合演習Ⅲ     |
| 7. 介護実習Ⅰ      | 8. 介護実習Ⅱ      | 9. 介護実習Ⅲ       |
| 10. 障害の理解Ⅱ    | 11. 社会福祉専門演習Ⅰ | 12. 社会福祉専門演習Ⅱ  |
| 13. 社会福祉専門演習Ⅲ | 14. 社会福祉専門演習Ⅳ | 15. 社会福祉入門演習   |
| 16. 社会福祉基礎演習  |               |                |

## ○委員会活動

### 1. 学部

- (1) 学生委員 (1 回生学年担当)
- (2) 広報委員
- (3) 介護人材確保事業部会委員長
- (4) 国際委員
- (5) 健康長寿センター委員

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- (1) いの町社会福祉協議会成年後見運営委員
- (2) 南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員
- (3) 高知県介護人材確保推進協議会委員

## 2. 講演等

- (1) 高校生と保護者のための公開講座講師（2018年7月28日,11月11日,3月25日）
- (2) 高知県キャリア教育推進事業高校生講座（高知南高等学校：2018年10月19日，岡豊高等学校：2018年10月29日，清水高等学校：2018年11月2日）
- (3) 高知県社会福祉協議会 新人職員研修ステップ1 講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」（両日高知市：2018年5月21日,6月18日）
- (4) 高知県社会福祉協議会 新人職員研修ステップ2 講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」（四万十市:2018年9月20日,高知市:10月16日，香南市：10月23日）
- (5) 高知県社会福祉協議会 人材育成推進セミナー 講師「人材育成研究から育成のポイントを学ぶ」（高知市：2019年3月7日）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

担当科目については、タブレット端末等を用いて、視覚的にわかりやすい授業になるように心がけた。加えて、ゲストスピーカーによる講義をしたり、実際に福祉現場を体験したりして、理論と実際が結びつきやすいように意識した。

1回生担当科目である「社会福祉入門演習」「社会福祉基礎演習」では、「当事者から学ぶ」をテーマに学年担当教員の玉利麻紀助教と連携をしつつ LGBT 当事者や脳卒中当事者をゲストスピーカーとして招いた。

また、担当授業科目のほとんどは、介護福祉士国家試験の科目である。そのため、授業は受験対策にも対応できるように意識をした。授業評価を見てみると、これらの取り組みは受講生から概ね支持をされていた。この取り組みを継続するとともに、プレゼンテーションやディスカッションなど、内容をより充実させていきたいと考えている。

### 2. 研究活動について

本年度は、科学研究費の研究（代表者）として取り組んでいる外国人介護福祉士が介護現場でどのような経験をしているのかを、質的調査結果としてまとめ学会誌に投稿をした。次年度は、これまでの研究を包括しながら、日本人も含めた介護人材の育成についての研究を進めたいと考えている。

### 3. 社会活動について

科学研究費で取り組んでいる研究成果を反映する場として、高知県社会福祉協議会が主催する「新人職員研修」「福祉人材確保セミナー」「人材育成推進セミナー」で講師をする機会が得られた。いの町社会福祉協議会成年後見運営委員や南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員、高知県介護人材確保推進協議会委を継続しつつ、高知県の福祉介護の課題に対して、少しでも貢献ができるように取り組んでいきたい。

## ○研究活動

### （1）学会発表

- ・遠山真世（2018）「障害者就労継続支援B型事業所における現状と課題－A県内5事業所でのインタビュー調査から－」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第50回記念香川大会（於：四国学院大学）。

### （2）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤研究（C）, 課題番号 18K02112, 2018年度－2020年度）  
研究代表者：遠山真世  
研究課題名：重度障害者の就労支援における工賃向上のための「高知モデル」の構築

## ○教育活動

### （1）担当科目

- ・相談援助演習Ⅰ・相談援助演習Ⅱ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ・相談援助実習指導Ⅱ・相談援助実習指導Ⅲ・相談援助実習
- ・福祉研究演習Ⅰ・福祉研究演習Ⅱ・福祉研究演習Ⅲ
- ・障害者福祉論・社会調査の基礎・社会福祉入門演習（補助）・社会福祉基礎演習（補助）

### （2）学生支援

- ・池吹奏楽部顧問

## ○委員会活動

### （1）全学

- ・広報委員会
- ・入試実施委員会・センター試験実施委員会

### （2）学部

- ・広報委員会（委員長）
- ・入試広報部会・キャリア支援委員会
- ・実習委員会

## ○社会的活動

- ・高知県社会福祉士会理事（国家試験対策委員会）
- ・第28回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（高知大会）実行委員
- ・高知県要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当（8月26日）  
主催：高知県地域福祉部 障害保健福祉課  
特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも  
場所：高知市障害者福祉センター
- ・高知県社会福祉士会 基礎研修Ⅲ 講師「事例研究のための事例のまとめ方」担当（6月16日）

## 教育研究活動報告書（遠山 真世）

主催：高知県社会福祉士会

場所：高知県立大学 池キャンパス

- ・高知県隣保館職員等研修事業 人権課題別研修Ⅱ 講師  
「障害のある人の相談支援」担当（12月14日）

場所：高知県立ふくし交流プラザ

### ○総合評価及び今後の課題

#### （1）研究活動について

科学研究費補助金を受け、重度障害者の雇用・就労における問題整理と課題抽出に取り組んできた。本年度は、これまで5か所の障害者就労継続支援B型事業所でのインタビュー調査の分析結果をまとめ、論文を執筆するとともに、日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第50回記念香川大会で発表を行った。また、B型事業所の平均工賃が高い都道府県と低い都道府県の違いや背景を分析するため、各都道府県から公表されている各事業所の平均工賃や作業内容等のデータを収集しているところである。次年度は、これらのデータを分析するとともに、これまでの研究成果をもとにB型事業所を対象としたアンケート調査の企画も進めていきたい。

#### （2）教育活動について

講義では、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。課題や小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。演習では、グループでのディスカッションや発表、ロールプレイを取り入れ、自ら考えたり意見を出し合ったりして議論を深める機会を多く設けた。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。また4回生のゼミでは、学生どうしで意欲を高めつつ勉強に集中して取り組めるよう、10月には卒論合宿、1月には国試合宿を学内で3日間ずつ行った。今後も引き続き多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

#### （3）委員会活動・社会活動等について

新たに入試実施委員・センター試験実施委員・キャリア支援委員となって活動した。入試関連の委員会では一連の業務を経験し理解することができた。キャリア支援委員会では、次年度7月に開催される日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック大会の準備を行った。

学外では高知県要約筆記者養成講座・高知県社会福祉士会基礎研修・隣保館職員等研修で講師を担当し、地域の人材育成に携わることができた。また、第28回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（高知大会）実行委員として、2020年6月に開催される大会の準備に携わった。

# 福 間 隆 康

Takayasu FUKUMA

## ○研究活動

### 1 論文

- ・福間隆康「職場定着を促進する人的資源管理施策—特例子会社の障がい者を対象とした定量的分析」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第 68 巻, 25-40 頁, 2019 年 3 月。

### 2 学会発表

- ・福間隆康「職場定着を促進する人的資源管理施策—特例子会社の障がい者を対象とした定量的分析」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第 50 回香川大会（四国学院大学），2018 年 7 月。

### 3 外部資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究「障がいのある従業員の組織適応プロセスに関する研究」（2018 年度～2021 年度）

## ○教育活動

- ・福祉対象入門
- ・福祉援助入門
- ・福祉サービスの組織と経営
- ・社会福祉専門演習Ⅰ
- ・社会福祉専門演習Ⅱ
- ・社会福祉専門演習Ⅲ
- ・社会福祉専門演習Ⅳ
- ・相談援助演習Ⅰ
- ・相談援助演習Ⅱ
- ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ
- ・相談援助実習指導Ⅱ
- ・相談援助実習指導Ⅲ
- ・相談援助実習
- ・地域学実習Ⅰ

## ○委員会活動

### 1 全学

- ・地域教育研究センター地域連携部会委員
- ・職業実践力育成プログラム（BP）実施委員会委員
- ・入試実施委員会委員

### 2 学部

- ・学生委員会委員（第 20 期生学年担当）

## ○社会的活動

### 1 委員等

- ・特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク 地域連携事業部委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国ネットワーク連絡会委員

### 2 研修会講師・講演等

- ・平成 30 年度四国地区社会福祉士合同研修会 in 高知 分科会助言者（こうち男女共同参画センター『ソーレ』, 2018 年 12 月 9 日）
- ・平成 30 年度ジョブコーチ アドバンスト研修 基調講演講師（エル・おおさか, 2019 年 1 月 11 日）
- ・生活困窮者自立支援事業フォーラム助言者（南国市社会福祉センター, 2019 年 3 月 23 日）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1 研究活動

科学研究費助成事業（基盤研究(C)）の研究成果の一部を学会報告するとともに、研究紀要に掲載することができた。公益財団法人ひと・健康・未来研究財団助成研究発表会において、研究成果をポスター発表することができた。次年度は、科学研究費助成事業（若手研究）の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し、研究成果の一部を学会で報告するとともに、学術雑誌に投稿する予定である。

### 2 教育活動

授業では、アクティブ・ラーニングや協働学習に重点を置き、学生に主体性をもって答えのない問題に答えを見いだしていくよう努めた。また、視聴覚教材を活用した授業を実施し、学生により発展した疑問を考えさせたり、自分の意見を発表させたりするよう思考の可視化を行った。次年度は、課題解決型学習や学外での実践活動を取り入れ、学生の主体性を引き出せる産学共同授業を実施していきたい。

### 3 委員会・社会的活動

入試実施委員会委員（学部委員長）として、入試業務を円滑に実施することができた。学生委員会委員（第 20 期生学年担当）として学生支援を行い、学生の様子を把握することができた。四国地区社会福祉士合同研修会 in 高知において分科会助言者を務め、参加者とのつながりをつくることができた。南国ネットワーク連絡会および総合相談会において機関・団体と関係をつくることができた。今後は、高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ、産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

## ○研究活動

### （１）論文・報告書・著書・発表

- ・なし

### （２）学内外の競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費補助金（若手研究(B)、課題番号 26780315、平成 26 年度—30 年度)

研究代表者：稲垣佳代

研究課題名：「精神保健福祉士がもつ就労イメージの変容プロセスと支援への影響に関する研究」

## ○教育活動

### （１）講義

- ・精神保健福祉援助技術各論
- ・精神保健福祉援助演習
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
- ・就労支援サービス

### （２）講義以外

- ・国家試験受験生への学習支援
- ・太鼓部顧問

## ○委員会活動

- ・実習委員会
- ・入試委員会
- ・就職委員会
- ・学生委員会
- ・国試対策支援委員会

## ○社会的活動

- ・高知県立大学オープンキャンパス 体験授業  
「あなたの知らない(!?)世界 ～精神保健福祉領域を中心に～」



## ○総合評価と今後の課題

### （1）教育活動について

今年度は、担当している科目のなかでも「精神保健福祉援助技術各論」（以下、各論と略す）に焦点を当てたい。

各論では、アクティブラーニングの手法である ILAT・GLAT を取り入れて授業を展開してきた。教員になったばかりの頃に、FD（教員のための研修）で学んだ手法である。ILAT は、教科書の内容をもとに国家試験形式の 5 択 10 問を教員が事前に作成し、学生は指定された教科書の範囲を予習して授業に臨む。授業開始とともに、まず学生が個人で問題を解き、その後同じ問題をグループで解いていく。この時、スクラッチカードを用いてゲーム的な要素を取り入れることにより、学生たちは楽しみながら学習を進めることができる。

ただ、このやり方を数年間取り入れて教育してくるなかで、学生が教科書の内容を暗記することに注力していることに違和感をもつようになった。大学は“学問”をすするところであり、教科書に書かれていることや社会の常識を疑うなどの批判的検討能力、問題を発見して新たな解決法や対処法を見つけ出していくという問題発見—解決能力を育む場所である。学生に主体的に学んでほしいと取り入れた方法であったが、工夫・改善が必要であると痛感し、今年度は講義の内容や方法を今一度見直しながら進めてきた。今後も、学生の声や授業評価アンケートの内容をもとに改善していきたい。

### （2）研究活動について

研究を進めていくうえで、調査協力者の確保やネットワーク構築が課題としてあった。そこで今年度は、精神障害者への就労支援を展開する障害福祉サービス事業所に勤務するソーシャルワーカー数名から、現行制度の影響や今後の課題などについて聞き取った。また、その過程で自分自身の問題意識や研究テーマをより明確化することができた。

### （3）今後の課題

次年度より、日本精神保健福祉士協会の就労・雇用支援の在り方検討委員会に委員として参加することとなった。第一線で活躍している PSW の方々と精神障害者の就労・雇用支援を取り巻くさまざまな課題について議論する機会が得られる。研究テーマとも関連が深いため、研究者として少しでも貢献できるよう尽力したい。

また、次年度が科研費の最終年度となるため、タイムマネジメントを意識し、教育や学内業務だけでなく研究にも時間を取りながら研究を進めたい。

## ○研究活動

### 1. 論文

- ・大熊絵理菜(2018)「医療社会事業」『急性期病院・病棟の医療ソーシャルワーカーによる情報収集・認識に関する研究—援助を決定するまでの過程分析—』57, 94-99.
- ・西内章・大熊絵理菜(2019)「ソーシャルワークにおける多職種連携の位置付けと実践課題」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』68, 71-79.

### 2. 学会発表

- ・なし

## ○教育活動

- ・相談援助演習Ⅰ
- ・相談援助演習Ⅱ
- ・相談援助演習Ⅲ
- ・相談援助演習Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ
- ・相談援助実習指導Ⅱ
- ・相談援助実習指導Ⅲ
- ・相談援助実習
- ・医療ソーシャルワーク論

## ○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部キャリア支援委員会
- ・学部広報支援委員会
- ・医療センター連携事業

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会理事
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会月例部会担当理事
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会生涯研修部会担当理事

### 2. 学外講師等

- ・平成30年度 高知県医療ソーシャルワーカー協会基礎研修会Bコース「専門的援助関係」講師（2018年9月9日）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

講義・演習では、医療ソーシャルワーカーとしての現場経験の話を用いて、学生が興味や関心をもてるように工夫した。また、リアクションペーパーを用いて授業の理解度などを確認し、授業内容や教授方法の改善を図った。来年度も学生の主体的な学習へとつながるように心がけたい。

今年度は、初めて担当する講義ばかりで、専門性と臨床をどのように結びつけるか、それをどのように学生に講義するかを悩み、試行錯誤しながらであった。これは研究活動にも繋がるが、次年度は研究活動に取り組み、そこで得たことを授業で講義できるように取り組んでいきたい。

また、相談援助実習では、県内の沢山の医療機関で実習をさせて頂いた。学生一人ひとりに応じた実習指導を、実習指導者と相談しながら行えたことは学生の学びに繋がったと考えている。次年度は、高知県医療ソーシャルワーカー協会と連携し実習医療機関の開拓を行いたい。

### 2. 研究活動について

高知県立大学大学院人間生活学研究科博士前期課程で研究した、急性期病院・病棟の医療ソーシャルワーカーの情報収集と認識の過程について、次年度は病院の機能に応じて、医療ソーシャルワーカーが行う情報収集と認識の過程について調査を行いたいと考えている。

### 3. 社会活動について

今年度は、高知県医療ソーシャルワーカー協会の理事を通して、現任者の研修会の講師や、学生の実習指導、就職等で沢山の現場の方と関わることができた。次年度も高知県医療ソーシャルワーカー協会の理事を担うことが、学生の実習指導や就職等に繋がると考えている。

# 片岡 妙子

Taeko KATAOKA

## ○研究活動

### 1. 論文

三好弥生・片岡妙子（2019）「終末期に至る食事摂取困難事例の類型案」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』

### 2. 学会発表

三好弥生・片岡妙子：重度要介護高齢者の脆弱性を知る指標の検討，第25回日本介護福祉教育学会（仙台）2018年8月

## ○教育活動

- ・生活支援技術Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護実習Ⅲ
- ・医療的ケアⅠ
- ・医療的ケアⅡ
- ・介護過程Ⅳ
- ・介護技術

## ○委員会活動

- ・学部実習委員
- ・学部健康長寿センター委員
- ・学部入試委員
- ・学部学生委員会（20期生学年担当）
- ・学部介護人材確保事業部会委員

## ○社会的活動

- ・平成30年度 高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業  
指導看護師研修 講師（7月21日：高知県福祉交流プラザ）  
介護職員研修 講師（8月26日～9月12日：高知県福祉交流プラザ）
- ・平成30年度 高知工科大学「介護等体験事前指導」講師  
香美キャンパス（2018年4月28日）  
永国寺キャンパス（2018年5月19日）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

#### （1）介護福祉士養成課程について

介護総合演習Ⅰ～Ⅳ，介護実習Ⅰ～Ⅲの全てに関わり，入職3年目にして介護福祉実習の全体がつかめてきたように感じている。介護総合演習Ⅰでは，前年度授業を担当された先生の教授方法を参考に進めたが，実習に入ってから必要な内容が学生に十分伝えられていないことが分かった。次年度は，学生の傾向や学生の理解度を授業の中で把握し，コース内の先生方とも相談を密に行いながら授業を進めていきたい。

医療的ケアの授業に関しては，介護福祉実践科目であるが生活支援と直接つながりづらい科目であるため，できるだけ教材の工夫を行いながら進めた。学生へのアンケートでは授業内容が教材の説明が中心であり，あまり関心が持てなかったとの声も聞かれている。授業の方法を検討していくことが今後の課題だと考えている。

#### （2）学年担当について

昨年に引き続き，20期生（2回生）の学年担当となった。予定していた学生の個人面談の実施が後半にずれ，学生の状況把握が十分にできていなかったことが反省点である。退職された中畠先生に代わり学年担当となった福間先生と相談しながら学生のサポートを進めていきたい。

### 2. 研究活動について

今年度は三好先生と共同研究を行い，高知県立大学紀要社会福祉学部編に投稿と，介護福祉教育学会での発表を行った。来年度も，高齢者の脆弱性に関することをテーマに研究を進めていきたいと考えている。

### 3. 委員会活動

委員会活動については，介護人材確保事業部会の委員として，高知県内の高校訪問を在學生と共にやったことが今年度の新たな活動内容であった。在學生と共に，福祉を学ぶ魅力を高校生に発信できるよう，今後も取り組みを行っていきたい。

### 4. 社会活動について

昨年度に引き続き，高知県介護職員等喀痰吸引等研修事業に参加し，企画会議から研修講師まで担当している。喀痰吸引等研修は，学内で担当している医療的ケアの授業と同様の内容であるが，研修対象者は現場の介護職員であり，教育背景や職場経験も多様である。その点に留意しながら研修内容を検討していきたいと考えている。

# 加藤 由衣

Yui KATO

## ○研究活動

### （1）論文・著書

- ・山口真里・西梅幸治・加藤由衣「コンピテンスを涵養する実習スーパービジョンーソーシャルワーク教育におけるコンピテンス概念の検討をとおしてー」『広島国際大学医療福祉学科紀要』第14号, 29-44, 2018年3月.
- ・加藤由衣「省察的実践の実践モデル構築に関する一考察ーソーシャルワーク実践の構成要素からの検討ー」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第68号, 56-69, 2019年3月.

### （2）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

### （3）競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（若手研究）「省察的実践の理論に基づくソーシャルワーク実践方法と省察ツールの開発」（平成30～32年度），研究代表者
- ・科学研究費助成事業（挑戦的萌芽研究）「日本式ソーシャルワーカー教育プログラムの発信ー中国・韓国・台湾を中心にー」（平成28年～30年度），研究分担者（研究代表者：中村佐織）

### （4）その他

- ・日本社会福祉士養成校協会編（2018）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2019』中央法規

## ○教育活動

### （1）担当科目

- ・「相談援助の基盤と専門職」
- ・「相談援助の理論と方法Ⅰ」
- ・「相談援助の理論と方法Ⅲ」
- ・「虐待防止論」
- ・「相談援助実習」
- ・「相談援助演習Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅳ」
- ・「相談援助実習指導Ⅰ」
- ・「相談援助実習指導Ⅱ」
- ・「相談援助実習指導Ⅲ」

### （2）クラブ活動

- ・バスケットボール部顧問
- ・ハモ☆いけ顧問
- ・こどもみらい塾顧問

## ○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部教務委員会
- ・学部総務・予算委員会
- ・学部情報処理委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部入試広報部会

## ○社会的活動

### （1）学外講師等

- ・南国市スクールソーシャルワーカー
- ・社会福祉法人南少 再発防止委員

## 教育研究活動報告書（加藤 由衣）

- ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
- ・学校法人高知学園 高知学園短期大学非常勤講師（「社会的養護」「児童家庭福祉」担当）
- ・高知県福祉研修センター事業 講師「相談援助技術基礎研修」（2018/7/27、10/4）
- ・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅲ 講師「模擬事例検討会（演習）」（2018/7/22）
- ・高知市高齢者支援課 ケアマネジメント研修 講師「相談援助職としての基本姿勢と視点について」（2018/8/24）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉従事者としての専門性」（2018/11/11）
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会 自己啓発研修 講師「思考しながら実践するソーシャルワーク」（2019/1/27）

### ○総合評価及び今後の課題

#### （1）研究活動について

本年度は、新たに採択された科研費（若手研究）の研究期間1年目のため、研究課題の基礎となる理論研究を中心に研究を進めた。具体的には、先行研究から省察的実践の理論の特徴を整理・分析してまとめ、紀要に投稿した。今後は、引き続き理論研究を行いながら、調査研究を実施し、省察的実践の実践モデル構築にむけて計画的に研究を進めていきたい。

またエコシステム研究会では、エコシステム理論に基づく実践支援ツールの開発にむけて、ソフトウェア開発業者と協議しながら、ツールの機能や活用方法に関して検討を重ねてきた。次年度は、実践支援ツールの実用化を目指し、引き続きツールの開発と活用の方法を探究していきたい。

#### （2）教育活動について

講義・演習では、事例・視聴覚教材の活用やグループワーク等により、学生が実感をもってソーシャルワーク概念を理解できるように取り組んだ。また、授業評価結果をふまえて、授業への意識を高める導入の工夫や学生同士の相互評価など、学生の主体的な参加と動機づけを高める授業を検討・実施した。今後も、学生からのフィードバックをもとに授業内容を改善し、学生の理解を促進できるよう努めていきたい。

実習教育では、福祉実習支援室での学生支援と実習科目での指導に携わった。今年度は、実習前から実習後までの一連の実習スーパービジョンを意識して、実習後の事例検討などを進めてきた。しかし、実習計画にそって実習が展開しづらい実習先もあるため、次年度は学生・実習指導者との協議をより丁寧に行うことで、実習計画に基づく柔軟な実習の展開と、学生のフォローを重視していきたい。また、ソーシャルワークの知識・技術だけでなく、ソーシャルマナーの指導など、実習生に求められる資質や姿勢を高めていくことができるよう、今後も教育内容の改善に取り組んでいきたい。

国家試験対策の支援では、昨年度に引き続き、学内模試の実施や個別面談など、年間を通して学生の動機づけを高められるよう支援に携わった。また、学生が効率的に学習できるように、福祉実習支援室における支援内容の充実を図った。今後も学生の受験に対する早期の意識づけを行いながら、全体と個別の状況の把握と支援を心がけ、国家試験合格率の維持・向上に貢献していきたい。

## ○研究活動

(1) 論文・報告書・学会発表

- ・なし

(2) 学内外の競争的資金獲得状況

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「地域を基盤とした住民・専門職協働による【地域福祉実践】参加型評価法の開発（平成29年～平成31年）  
研究分担者（研究代表：佐藤哲郎）

## ○教育活動

(1) 担当科目

- ・「ケアマネジメント論」・「ケアマネジメント演習」・「高齢者福祉論Ⅱ」
- ・「コミュニティソーシャルワーク」・「地域学実習Ⅰ」
- ・「相談援助実習指導Ⅰ」・「相談援助実習指導Ⅱ」・「相談援助実習指導Ⅲ」
- ・「相談援助演習Ⅲ」・「相談援助演習Ⅳ」・「相談援助実習」

(2) クラブ活動

- ・映像製作サークル「CUBE」顧問

## ○委員会活動

- ・学部実習委員　・国家試験対策委員
- ・学部キャリア支援委員・学部広報委員・学部防災委員

## ○社会的活動

(1) 委員等

- ・日本地域福祉学会 地方委員
- ・和歌山県社会福祉士会 監事
- ・和歌山県介護支援専門員 指導者、研修部企画員

(2) 学外講師等

- ・学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校 非常勤講師（「現在社会と福祉」）
- ・高知県社会福祉協議会 介護支援専門員専門課程Ⅰ研修 講師  
「対人個別援助技術と地域援助技術」  
高知県立ふくし交流プラザ，2018年6月8日
- ・和歌山県社会福祉士会 高齢者虐待防止市町村職員研修 講師  
「高齢者虐待事例を通して」  
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛，2018年7月13日・11月14日
- ・和歌山県介護支援専門員協会 主任介護支援専門員更新研修 ファシリテーター  
「状態に応じた多様なサービス」「社会資源の活用に向けた関係機関との連携」  
「リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例」  
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛，2018年7月31日・8月1日・10月2日～3日



## 教育研究活動報告書（雑賀 正彦）

- ・生活支援体制整備事業研修会 講師  
「地域づくりを視点においたケアマネジメントについて」  
みなべ町保健福祉センター，2018年9月28日・2019年2月15日
- ・須崎市社会福祉大会 講師  
「住民主体の地域づくり活動～地域包括ケアシステムの視点から～」  
須崎市立市民文化会館，2018年11月23日
- ・和歌山県介護支援専門員協会 主任介護支援専門員研修 講師  
「地域福祉援助技術」  
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛，2018年11月30日
- ・あったかふれあいセンター職員研修 講師  
「地域の課題解決に向けた2つの視点」  
高知県立福祉交流プラザ，2019年2月6日
- ・田辺圏域医療と介護の連携を進める会 講師  
「住み慣れた地域で、最期まで安心して暮らすために知っておく事」  
みなべ町保健福祉センター，2019年2月15日

### ○総合評価及び今後の課題

#### 1. 教育活動について

講義・演習科目については、新たに担当した科目もあったが、事例を活用し理解が促進できるよう工夫した。また、グループワークやリアクションペーパーを活用し、主体的に学べるよう心掛けた。来年度はより学生が主体的に学習できよう映像教材を用い「見える化」することで理解を深める工夫を行いたい。

#### 2. 研究活動について

今年度はフィールド調査のみであり十分な研究活動を行うことができなかった。次年度は、フィールド調査分析及び共同研究を進めるとともに、個人研究にも積極的に取り組むたい。

#### 3. 委員会活動

委員会活動について、防災委員としては、避難所運営の総括を担当した。それに伴い、事前会議及びマニュアル修正を行ったが、訓練は中止であった。次に、広報委員としては、学部行事等の撮影及びホームページへの掲載を担当した。最後に、国家試験対策委員としては、模試・国試合宿・個別面談を担当した。次年度に向けて、各委員として役割遂行をスムーズに行えるようにしたい。

また、相談援助実習のコース助教主担当として円滑な実習が行えるよう十分な役割が担えなかったため、次年度は計画的に業務遂行できるよう工夫したい。

#### 4. 社会活動について

実習巡回を通して、高知県内社協とのつながりができた。そのため、福祉大会での講演などに参画することができた。また、和歌山県内3市町での生活支援体制整備事業への参画及び事例検討会でのアドバイザーなど専門領域におけるネットワークがさらに広がった。次年度も引き続き研究活動の社会活動をリンクさせるためネットワークをより拡大できるようにしたい。

## ○研究活動

### 1. 論文

- ・宮上多加子・田中眞希(2019)「中堅介護職員の経験を通じた学びと職場における支援関係」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』68, 1-13.
- ・田中眞希・宮上多加子・西岡睦子(2019)「介護保険施設における人材育成の現状－中堅介護職員と指導職員への聞き取り調査に基づく分析－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』68, 41-53.

### 2. 著書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会編（2019）『最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程』中央法規出版，2019.3.31，pp99-111.

### 3. 学会発表

- ・田中眞希・宮上多加子・河内康文「高齢者福祉施設における人材育成の特徴－施設管理者および指導的職員へのインタビュー調査から－」第 26 回日本介護福祉学会発表（大阪）2018 年 9 月.

### 4. 競争資金の獲得

- ・平成 30 年度～32 年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C））『演じる行為』に着目した介護の実践価値生成と共有化－職場学習論に基づく分析－（研究代表者）

## ○教育活動

- ・介護の基本Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅲ
- ・障害の理解Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅱ
- ・高齢者福祉論Ⅱ

## ○委員会活動

- ・学部総務・予算委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部学生委員会（18 期生学年担当）
- ・学部国試対策委員会
- ・学部就職委員会

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニウム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・高知県介護福祉士会 介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員

### 2. 学外講師等

- ・平成 30 年度 介護福祉士実習指導者講習会「実習指導の理論と実際」講師（2018 年 11 月 9 日）
- ・高知県隣保館職員等研修事業「人権課題別研修Ⅲ」講師（2019 年 1 月 10 日）
- ・本山町・高知県立大学・高知短期大学公開講座「夜学 2018」『持ち上げない介護』講師（2019 年 2 月 20 日）
- ・学部リカレント研究会事業「介護コース卒業生を対象とした事例検討と情報交換会」（2019 年 3 月 9 日）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

講義・演習では、事例を用いた説明や視聴覚教材の使用など、学生が主体的に取り組めるように工夫した。また、リアクションペーパーを用いて授業の理解度などを確認し、授業内容や教授方法の改善を図った。今後も、学生の主体的な学習へとつながるように心がけて取り組みたい。

介護福祉士国家試験 2 年目である本年度は、受験に対する不安や主体的に取り組めない悩みなど、学生個別に対応した。また、国試対策委員やコースの教員と情報を共有し、国試対策の環境を整えた。今年度介護福祉士国家試験合格率は 100%で、この結果に安心した。次年度以降もこの調子で取り組みたい。

昨年度に引き続き 18 期生の学年担当を行った。18 期生一人ひとりが希望の進路へ進めるよう、田中きよむ先生や他の先生方のご助言を得ながら、就職活動を中心に学生生活のサポートを行った。毎日学生の相談に乗り、多忙な 1 年であったが、学生のような思いを聞くことができた貴重な体験であった。

### 2. 研究活動について

昨年度行った調査結果を踏まえ、論文として公表することができた。今年度は科学研究費助成事業の研究代表者として、障害者支援施設の介護職員に対して調査を行った。次年度は、追加の調査とこれらの分析を進め、結果の公表を行うなど、計画的に進めたいと考えている。

### 3. 社会活動について

今年度は、介護福祉士の実習指導者講習会の講師として、受講生や介護福祉士会とかかわることができた。また、高知県隣保館職員等研修会の講師や住民に向けての講座を担当し、介護福祉分野以外の方々とかかわることができ、福祉を広くとらえるよい機会となった。

## ○研究活動

論文・報告書・著書・学会発表・競争的資金の獲得

なし

## ○教育活動

### （1）担当科目

- ・対人関係とメンタルヘルス（前期）（4回）
- ・対人関係とメンタルヘルス（後期）（4回）
- ・就労支援サービス（3回）
- ・地域学実習Ⅰ
- ・社会福祉入門演習
- ・社会福祉基礎演習
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
- ・精神保健福祉援助演習

### （2）学生支援

- ・第21期生 学年担当
- ・実習支援（精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの配属実習に向けた個別指導や、配属実習における情報集約の担当を行った。）
- ・国家試験受験生への学習支援

## ○委員会活動等

### 1) 全学

- ・総合情報センター情報処理部会 委員

### 2) 学部

- ・図書・情報委員
- ・教務委員
- ・実習委員
- ・国試対策支援委員
- ・国際委員会

## ○社会的活動

### 1) 委員等

- ・高知県精神保健福祉協会 研修委員
- ・介護労働安定センター 高知支部 ヘルスカウンセラー

### 2) 講演等

- ・第29回 全国キリスト教学校人権教育セミナー 第4分科会（「発達障がい者」貸

## 教育研究活動報告書（玉利 麻紀）

- し出します！（当事者の視点から、支援や社会を考えよう）講師（8月18日）  
主催：全国キリスト教学校人権教育研究協議会、第29回キリスト教学校人権教育セミナー実行委員会  
場所：清和女子中高等学校
- ・高知県立大学 出前講座「ストレスとつきあうコツ」講師（10月13日）  
場所：香長小学校
  - ・高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座「ストレスとつきあうコツ」講師（11月11日）  
場所：高知県立大学
  - ・第21回 精神保健福祉従事者リフレッシュ研修「まぜこぜダイアログ ―社会的マイノリティ当事者との対話を通して多様性を考える―」（1月9日）  
主催：高知県精神保健福祉協会・研修委員会  
場所：高知県民文化ホール
  - ・「夜学」2018 第35回本山町・高知県立大学・高知短期大学公開講座「ストレスとつきあうコツ」講師（1月18日）  
場所：本山町プラチナセンター
  - ・メンタルヘルス研修 ヘルスカウンセラー（1月30日）2回  
主催：公益財団法人介護労働安定センター  
場所：デイサービスかもべ

### ○総合評価及び今後の課題

#### 1) 教育活動について

今年度は「対人関係とメンタルヘルス」、「就労支援サービス」、「地域学実習Ⅰ」、「社会福祉入門演習」、「社会福祉基礎演習」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」、「精神保健福祉援助演習」の計8講義を初めて担当することとなった。これらの担当科目に関しては、ICTの活用や視覚的なスライドの作成等に工夫を重ね、学生たちが主体的に理解を図れるよう心がけた。

また、第21期生の学年担当や、地域学実習Ⅰ、共通教養科目等、1回生との関わりの多い年であった。そこで、学生が早い段階から「当事者」と出会う機会を作ること重視した。それは、社会的マイノリティ当事者から直接話を聴き、交流することによって、学生が様々な背景を有する当事者に関心を抱き、当事者への理解のきっかけを作りたい、と考えたためである。そこで、12月にトランスジェンダー当事者の土肥いつき氏をゲストスピーカーとして招き、社会福祉学部生を対象に、講演会を開催した。この講演会は社会福祉学部の教員を対象としたFDとしても採用されることとなった。

ところで、今年度後期からは精神保健福祉士の実習演習担当教員としての資格を得た。そのため、精神・社会福祉コースの科目を担当したことも大きな変化であった。

#### 2) 研究活動について

1)でも述べたが、今年度は計8講義を初めて担当することとなった。したがって、講義準備に多くの時間とエネルギーを要し、研究に時間を費やすことができなかった。次年度はこれを課題とし、研究活動の割合を増して行きたい。研究テーマは引き続き、精神障がい者等、マイノリティへの偏見の軽減に効果的なアプローチの開発と検証とする。尚、次年度の研究資金獲得のため、新たな科学研究費補助金（若手研究C）の獲得にむけて申請を行った。

## ○研究活動

### 1. 学会発表

- ・福田敏秀・浦上克哉「在宅高齢者の認知機能と ADL、家族介護負担感の関連分析から得られた支援に対する示唆－9年間の TDAS による追跡事例を用いて－」第 19 回日本認知症ケア学会大会（新潟）2018 年 6 月.
- ・福田敏秀・浦上克哉「特別養護老人ホーム入居者の認知症疾患に関する実態からケアを考える－認知症診断時期に焦点をあてて－」第 8 回日本認知症予防学会学術集会（東京）2018 年 9 月.

## ○教育活動

- ・対人関係とメンタルヘルス
- ・相談援助実習指導 II
- ・相談援助演習 II
- ・相談援助演習 IV
- ・相談援助実習

## ○委員会活動

- ・学部教務委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部災害対策委員会
- ・学部健康長寿委員会
- ・学部介護人材確保事業部会

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- ・日本認知症ケア学会 代議員
- ・日本認知症予防学会 評議員
- ・鳥取県介護支援員協会西部支部理事

### 2. 学外講師等

- ・平成 30 年度 高知県福祉研修センター人材育成推進セミナー講師
- ・鳥取県介護支援専門員実務研修講師
- ・鳥取県初任段階介護支援専門員マニュアル策定アドバイザー
- ・平成 30 年度 認定認知症領域検査技師制度日本認知症予防学会併設 JSDP 技師講座講師
- ・島根総合福祉専門学校非常勤講師

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

#### （1）社会福祉士養成課程について

演習では、事例を用いたグループワークを中心におこなった。学生が互いに刺激しあい、主体的に答えを見つけ出して行けるような授業を心がけた。少人数クラスを活かし、学生が感じたこと、気づいたことを発言する機会を多く設け対話を重視した。また、学生が事例をより鮮明に捉えられるよう、実践を基にした具体的説明を加えた。学生の積極的な取り組み姿勢がみられ、理解を促すことができたと考える。今後、彼らの主体性をより引き出し、理解が深まるよう授業内容を検討して行きたい。

今年度の配属実習については、年度途中の着任であったため、実習後から指導に加わった。実際の実習期間を学生と共有してはいないが、面談などを通してできる限り実習場面の把握に努め指導にあたった。実習を終えた学生の声から、実習先での充実した学びが感じられた。今後、配属実習に臨む学生たちも、このように実習が学び多いものになるよう、指導に取り組んで行きたい。

#### （2）共通教養教育科目について

「対人関係とメンタルヘルス」はオムニバスでおこない、「現代社会の対人関係」について講義した。ワークシートを用いた演習等も取り入れ、このテーマのもつ課題の中に学生が自身との関連を捉え、自ら解決策を見出して行けるようプログラムを考えた。リアクションペーパーなどから、このテーマに対する学生の関心の高さが感じられた。今後、より学生の理解が深まるよう講義内容の精度を上げて行きたい。

#### （3）国家試験対策支援について

国家試験対策講座として「高齢者に対する支援と介護保険制度」を受けもった。また、個別指導では、学習課題を学生と一緒に検討し、それぞれが持つ傾向について話し合い国家試験合格を目指した。今後も各学生にあった支援がおこなえるよう努めて行きたい。

### 2. 研究活動について

これまで行ってきた在宅高齢者の認知機能と家族介護負担感に関する継続研究について、今年度データを追加し学会発表に向けて報告をまとめた。今後、より研究精度を上げ、研究結果から実践に活かせる支援方法を導き、発信して行きたいと考えている。次年度は、論文投稿に向けて計画的に研究活動おこなって行きたい。

### 3. 社会活動について

高知県において、福祉職場の人材育成推進セミナーの講師としてOJTおよび介護プロフェッショナル・キャリア段位制度について講演した。また、鳥取県にて介護支援専門員実務研修講師やマニュアル策定委員会アドバイザーといった専門職教育に加わった。今後、このような専門職教育や実践現場の課題検討に対して、より貢献できるよう自分を磨いて行きたい。





# Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動  
(委員会活動年度報告書)



2018年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー						
地域教育研究センター		三好 弥生 (共通教育部会)	福間 隆康 (地域連携部会)					
全学 プロジェクト	災害対策	雑賀 正彦	長澤 紀美子	福田 敏秀				
	大学改革(高大接続)	宮上 多加子	長澤 紀美子					
	職業実践育成 プログラム(BP)	福間 隆康						
	人事関係検討会	宮上 多加子	杉原 俊二	田中 きよむ	長澤 紀美子	丸山 裕子	横井 輝夫	
		西内 章						
	自己点検・評価運営委員会	宮上 多加子	杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章	西梅 幸治		
	倫理審査委員会	杉原 俊二	丸山 裕子	横井 輝夫	西梅 幸治			
	実習委員会	長澤 紀美子 (実習委員長)	西梅 幸治 (社会福祉士コース 主担当)	鈴木 孝典 (精神保健福祉士 コース主担当)	三好 弥生 (介護福祉士コース 主担当)	雑賀 正彦 (社福 助教リーダー)	稲垣 佳代 (精神 助教リーダー)	
		田中 眞希 (介護 助教リーダー)	大熊 絵理菜	片岡 妙子	加藤 由衣	玉利 麻紀	福田 敏秀	
	総務・予算委員会	西梅 幸治	宮上 多加子	田中 眞希 (助教リーダー)	加藤 由衣			
国試対策支援委員会	西梅 幸治	加藤 由衣 (助教リーダー)	稲垣 佳代	大熊 絵理菜	雑賀 正彦	田中 眞希		
	玉利 麻紀	福田 敏秀						
教務委員会	西内 章	田中 きよむ	三好 弥生	加藤 由衣 (助教リーダー)	玉利 麻紀	福田 敏秀		
FD委員会	丸山 裕子							
キャリア支援委員会	杉原 俊二	遠山 真世	雑賀 正彦					
研究倫理委員会		宮上 多加子						
研究活動 不正防止委員会		宮上 多加子						
入学試験委員会	入学試験委員会	宮上 多加子	長澤 紀美子					
	入学試験実施委員会	福間 隆康	鈴木 孝典	遠山 真世	稲垣 佳代 (学部入試委員)	片岡 妙子 (学部入試委員)		
	大学入試センター試験実施委員会	遠山 真世						
	入学試験監査委員会	田中 きよむ	丸山 裕子					
学生委員会		横井 輝夫	田中 きよむ	福間 隆康	河内 康文	稲垣 佳代	片岡 妙子	
		田中 眞希	玉利 麻紀 (ポランティア担当)					
就職委員会	田中 きよむ	稲垣 佳代	田中 眞希					
広報委員会	広報委員会	遠山 真世	河内 康文	大熊 絵理菜 (助教リーダー)	雑賀 正彦			
	入試広報部会	鈴木 孝典	丸山 裕子	西内 章	加藤 由衣			
総合情報センター	図書部会 情報処理部会	横井 輝夫	玉利 麻紀 (助教リーダー)	加藤 由衣				
国際交流センター 運営委員会	田中 きよむ	河内 康文	玉利 麻紀					
人権委員会		杉原 俊二						
紀要委員会		杉原 俊二						
健康長寿センター 運営委員会	河内 康文	福田 敏秀	片岡 妙子 (助教リーダー)	大熊 絵理菜				
退院支援事業	西内 章							
介護人材確保事業部会	河内 康文	横井 輝夫	片岡 妙子	福田 敏秀				
医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会	宮上 多加子							
医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会	宮上 多加子	丸山 裕子	大熊 絵理菜					
健康管理センター運営委員会	西梅 幸治							
大学院(M)	講義	宮上 多加子 (講義+主査)	田中 きよむ (講義+主査)	杉原 俊二 (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)	丸山 裕子 (講義+主査)	横井 輝夫 (講義+主査)	
		西内 章 (講義+主査)	鈴木 孝典 (講義+主査)	西梅 幸治 (講義+副査)	三好 弥生 (講義+副査)			
	委員会	杉原 俊二 (学位審査)	長澤 紀美子 (研究科長)	丸山 裕子 (学生)	横井 輝夫 (学務)	西内 章 (入試)	鈴木 孝典 (情報)	
大学院(D)	講義	宮上 多加子 (講義+主査)	杉原 俊二 (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)				
	委員会	宮上 多加子 (学務)	杉原 俊二 (入試)	長澤 紀美子 (研究科長)				

: 全学委員  
 一重下線 : 学部委員長

# 教 務 委 員 会

## 西 内 章

2018年度の教務委員会は、田中きよむ教授、三好弥生准教授、加藤由衣助教、玉利麻紀助教、福田俊秀助教、西内の6名体制であった。1年間の活動内容は次の通りである。

### 1. 教務委員会の開催

2018年度は、通常の審議・協議事項である非常勤講師や予算の審議など教務関連の検討の他、以下の2～7に記載している項目および英語外部試験の単位認定手続き等の教務に関連する業務について審議・協議を行い、学部教務委員会を2018年4月から2019年3月までに、計11回開催した。

### 2. ディプロマポリシーに基づく学修成果評価の一覧表作成

ディプロマポリシーにもとづく学修成果評価について、カリキュラムポリシーに基づく共通教養教育科目、専門教育科目の関連性を学部教務委員会にて検討し、一覧表を作成した。2019年度はカリキュラムマップ、ナンバリング、シラバスへの記載方法を検討し、学修成果評価と各授業科目の関連性を可視化するように作業を進める予定である。

### 3. 専門教育科目の科目配置の変更

2019年度に向けて学部専門教育科目の科目配置を検討し、変更した。社会理論と社会システム、心理学理論と心理的支援障害者、医療福祉論、チームアプローチ、スーパービジョン、子育て支援論の開講時期を再検討し2019年度から変更した。そして変更点を2019年度4月の教務委員会オリエンテーション資料として、改正した履修モデルを1～4回生に配布し、次年度の改正点と履修上の留意点を周知することにした。

### 4. 2019年度科目担当者の検討

2018年度未開講科目に加えて2019年度に着任する教員の担当科目について、教務委員会で協議・検討した。例年同様、教員の教育歴と研究領域等をだけでなく、担当科目数と担当時間を検討材料とした。次年度の状況をみながら、今後も教務委員会において引き続き検討する予定である。

### 5. 卒業研究論文発表会の開催

卒論構想発表会を4月25日（水）、卒論中間発表会を10月24日（水）、卒論発表会を2月8日（金）に実施した。例年同様、2019年1月に3回生に①卒業研究論文の「仮テーマ」と②卒論指導教員の希望（学部教員、学部外教員）を提出させたが、社会福祉学部以外の教員を希望する学生は0名であった。また3回生に『卒業研究論文執筆のてびき』を2019年2月に作成・配布した。

### 6. 2019年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12月に『社会福祉専門演習選択資料』を作成し、2回生へ配布とゼミの説明、ゼミ希望の集計を実施した。2019年度の「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」は15人の教員が担当することになり、1ゼミあたり上限6名を目安として調整した。

## 7. 学習到達度調査の実施

2月に卒業予定者（18期生）を対象とした「学習到達度調査」を実施した。今年度は学修成果評価の指標をもとに調査票を作成し、卒業予定者全員から回答（70名：回収率100%）を得た。結果はおおむね良好な結果であった。社会福祉の思想・視点，ニーズ理解，多職種連携等4年間で修得した知識や技能，態度が明らかになった。また、共通教養科目からも社会福祉の実践に必要な知識や態度を修得していることを確認した。

## 8. 今後の課題

まず前述したように、2019年度はカリキュラムマップ，ナンバリング，シラバスへの記載方法を検討し、学修成果評価と各授業科目の関連性を可視化できるように作業を実施する必要がある。

また例年同様、引き続き履修モデルを検討する必要がある。具体的には授業科目の配置について、継続した検討・改善を行う必要がある。特に授業評価アンケートや学習到達度調査をもとにした検討を実施したい。

2019年度は、社会福祉学部の教員と学生が、韓国の慶南科学技術大学校を訪問予定である。今後、両大学間において社会福祉学領域の交流を深めることが可能になれば、継続的に実施できる研修プログラムの策定に向けて、国際交流委員会と連携して単位認定可能な内容を具体的に検討したい。

# 入 試 委 員 会

福 間 隆 康

## ○委員会の体制

全学入試委員を宮上多加子学部長，全学入試実施委員を福間隆康（学部委員長），鈴木孝典准教授，遠山真世講師（センター試験部会委員），学部入試委員を稲垣佳代助教，片岡妙子助教が担当した。入試問題作問部会と入試問題点検部会において，社会人入試問題の作成と点検を行った。また，入試広報部会と連携し，進学ガイダンス，高校訪問をはじめとする入試広報を展開した。

## ○平成 31 年度入試の概況

区 分	募集人員 A	男 女 別	志願者数 B		受験者数 C		合格者数 D		入学手続者数		入学者数		志願 倍率 B/A	合格 倍率 C/D
			全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)		
推薦	一般 県内	男	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	-	1.0
		女	25	25	25	25	17	17	17	17	17	17	-	1.5
		計	28	28	28	28	20	20	20	20	20	20	1.4	1.4
	一般 全国	男	4	0	4	0	1	0	1	0	1	0	-	4.0
		女	25	1	25	1	11	0	11	0	11	0	-	2.3
		計	29	1	29	1	12	0	12	0	12	0	2.9	2.4
計	男	7	3	7	3	4	3	4	3	4	3	-	1.8	
	女	50	26	50	26	28	17	28	17	28	17	-	1.8	
	計	57	29	57	29	32	20	32	20	32	20	1.9	1.8	
個別	前期	男	21	5	19	5	7	2	5	2	5	2	-	2.7
		女	67	23	63	21	33	10	30	9	30	9	-	1.9
		計	88	28	82	26	40	12	35	11	35	11	2.5	2.1
	後期	男	35	5	18	4	0	0	0	0	0	0	-	-
		女	103	25	49	12	8	1	8	1	8	1	-	6.1
		計	138	30	67	16	8	1	8	1	8	1	27.6	8.4
計	男	56	10	37	9	7	2	5	2	5	2	-	5.3	
	女	170	48	112	33	41	11	38	10	38	10	-	2.7	
	計	226	58	149	42	48	13	43	12	43	12	5.7	3.1	
社会人	若干人	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
私費外国 人留学生	若干人	男	2		2		1		0		0		-	2.0
		女	1		1		1		1		1		-	1.0
		計	3		3		2		1		1		-	1.5
合計	70	男	65	13	46	12	12	5	9	5	9	5	-	3.8
		女	221	74	163	59	70	28	67	27	67	27	-	2.3
		計	286	87	209	71	82	33	76	32	76	32	4.1	2.5

- ・前期試験の課題図書：菅野仁（2008）『友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える（ちくまプリマー新書）』筑摩書房
- ・入学手続者の県内率：42.1%

## 委員会活動年度報告書（入試委員会）

### ○平成 31 年度入試の特徴

1. 前年度と比べ志願倍率、合格倍率ともに低下した。入学手続き者の県内率は、年度ごとに増減を繰り返しているものの、前年度と比べ減少している（下表）。

	平成 31 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度
志願倍率	4.1	4.4	3.2	4.7	4.4
合格倍率	2.5	3.0	2.3	2.9	3.2
入学手続き者の県内率(%)	42.1	43.8	47.3	42.1	39.7

2. 推薦入試の全国枠への県内からの出願（平成 23 年度から実施）については、昨年度に引き続き 1 名の出願があった。
3. 平成 26 年度入試より開始した社会人入試については、出願がなかった。
4. 私費外国人留学生入試については、3 名の出願および受験があり、うち 2 名を合格とした。

### ○課題

1. 本学部の志願者数は、昨年度と比較し減少した。その背景として、昨年度の志願倍率、合格倍率の反動があると推察される。今後は県内外の高校を対象とした入試広報が課題である。入試広報部会と連携し、高校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集する。あわせて、学部広報委員会、介護人材確保部会、地域連携部会と協力し、公開講座、出前講座、キャンパス訪問の受け入れなど、志願者の増加に向けた取り組みを行う。
2. 2020 年度から実施する学校推薦型選抜の実施体制（当日の運営体制など）と選抜方法（学力の 3 要素の評価など）に係る課題を検討する。
3. 入試の実施体制（当日の運営体制など）に係る課題を検討し、受験者に不利益が生じないように、引き続き改善を図る。
4. 私費外国人留学生入試の実施体制（当日の運営体制など）と選抜方法（面接試験の評価基準など）について、引き続き検討する。
5. 障害を有する受験者への受験上の配慮について、受験者に不利益が生じないように引き続き検討し、入学後の受け入れ体制の整備につなげる。

# 学 生 委 員 会

横 井 輝 夫

## ○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

## ○ 活 動 内 容

### 1. 相談活動

学生の精神面や身体面の不調、友人間の悩み、その他生活上の悩みに対して、学年担当教員を中心に、実習担当教員、ゼミ担当教員、健康管理センター、学生・就職支援課と連携し、解決に取り組んだ。

健康管理センターが実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師による専門相談について、ガイダンスや掲示を通して学生に利用形態や利用時間等の情報を提供した。また必要に応じて、個別に健康管理センターへ相談に行くことを促した。

### 2. 経済的支援に関する対応

ガイダンスの際に授業料の免除や各種奨学金の申請について説明した。また、授業料の免除や各種奨学金の申請に関する学生からの個別相談に対し、学生・就職支援課と連携しながら、情報提供及び手続き支援を行った。

### 3. 事故・事件への対応

交通事故があとを絶たない。今年度は、交通安全講習会以外にデートDVのためのセミナーが全学的に開催された。また学部では、看護学部、健康栄養学部と合同で、8月に2度目の交通安全講習会を開催した。

### 4. 障害のある学生への支援

障害のある学生に対して、ご本人、ご家族と学年担当教員、健康管理センター、学生・就職支援課が密に連絡をとり、学生生活を支援した。

### 5. 学生の活動への支援

バスハイク（1回生）、学年間交流会（1・2回生）、4回生を送る会（3回生）では、学年担当教員が企画・運営をサポートした。

## ○今後の課題

当然であるが、学生は様々な課題をかかえながら学生生活を送っている。学生が個々人の課題を乗り越え健全に学業を継続するためには、大学側が学生のかかえる課題に早期に気づき対応することが必要になってくる。そのためには、学年担当教員を中心に、学部教員、健康管理センター、学生・就職支援課との日頃からの連携が求められる。これまでもこれらの部署間の密な連携がはかられてきたが、このことは継続的な課題である。また交通事故があとを絶たない。学生に責任がなく、事故に巻き込まれるケースもあるが、より現実感と危機感をもてる内容に交通安全講習会をしていくことも必要である。さらには個人情報取り扱いについても学生の良識を高める必要がある。



# 実 習 委 員 会

長 澤 紀 美 子

## 1. 実習委員会の活動の特徴

3福祉士（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士）の資格取得に係る各コースの運営及び教育内容については、コース責任者（コース長）を代表とする各コースの実習・演習担当教員に委託しつつ、実習委員会は、3福祉士の実習及び実習関連科目が円滑に実施できるよう、実習に関わる予算の計画や執行、コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を行うことを目的としている。

## 2. 配属実習の内訳

本年度の配属実習は、相談援助実習で72名（昨年度70名）、精神保健福祉援助実習が26名（昨年度18名）、介護実習Ⅰは23名（昨年度18名）、介護実習Ⅱが17名（同13名）、介護実習Ⅲが12名（同22名）であった。

相談援助実習72名（内、児童2カ所実習者4名）の内訳は、社会福祉協議会20名、病院（精神科除く）19名、児童相談所7名、児童養護施設8名、児童自立支援施設4名、児童家庭支援センター2名、軽費老人ホーム1名、養護老人ホーム3名、小規模多機能型居宅介護1名、相談支援事業所3名、療養介護事業所・医療療養型障害児入所施設1名、障害児通所支援事業所2名、障害福祉サービス事業所4名、障害者支援施設1名であった。

精神保健福祉援助実習の26名の内訳は、精神科病院22名、精神科病床を有する一般病院4名、精神保健福祉センター2名、市役所1名、地域活動支援センター5名、障害福祉サービス事業所17名、相談支援事業所2名であった。

介護実習の内訳は、以下のとおりである。

介護実習Ⅰの23名では、特別養護老人ホーム17名、軽費老人ホーム6名、障害者支援施設12名、生活介護11名、通所介護12名、通所リハビリテーション6名、訪問介護18名、小規模多機能型居宅介護5名であった。

介護実習Ⅱの17名では、特別養護老人ホーム10名、障害者支援施設4名、療養介護／医療型障害児入所施設3名であった。

介護実習Ⅲの12名については、特別養護老人ホーム9名、療養介護／医療型障害児入所施設3名であった。

## 3. 実習連絡協議会

各実習先の実習指導者より配属実習に関する要望や意見を聴取し、率直な意見交換を通じてより良い実習指導体制を整えるために、今年度も下記のとおり、コースごとに実習連絡協議会を開催した。

- |          |                 |            |             |
|----------|-----------------|------------|-------------|
| 7月30日（月） | 介護実習連絡協議会       | 参加施設数：11施設 | 参加実習指導者：17名 |
| 3月5日（火）  | 相談援助実習連絡協議会     | 参加施設数：42施設 | 参加実習指導者：45名 |
| 3月6日（水）  | 精神保健福祉援助実習連絡協議会 | 参加施設数：8施設  | 参加実習指導者：8名  |

#### 4. 成果と課題

##### （1）福祉実習支援室の体制づくり

従来、福祉実習支援室を担当する助教教員と実習委員長との連絡会議を月1回実施し、実習事務や実習費の有効な使途に関わる情報交換を図っている。実習担当助教教員による事務との連携、また業務円滑化に向けた努力や創意工夫により、今年度も大きな問題もなく実習業務を実施することができた。また実習支援室は、実習先や所管行政窓口との文書や電話での窓口だけでなく、学生の実習、ボランティア、学習その他学生生活全般に関する相談窓口ともなっている。助教教員を中心とする実習担当教員、学部事務、大学事務との間で、実習事務の役割分担や内容について確認し、負担の偏りがないようにしていきたい。

##### （2）円滑な実習指導体制の継続および実習先の安定的確保

平成29年度から30年度にかけて、実習担当教員（社会福祉士、介護福祉士養成担当）の異動により欠員があった中で、学生への影響を最小限にするため、指導体制を組み直し従来のきめ細やかな少人数制の実習指導を継続していくことが最大の課題であったと言える。また社会福祉学部の実習の特性を鑑みつつ、卒業生を中心とした有資格者に対し、実習指導者講習会への参加の呼びかけや実習依頼訪問等による新規開拓により、実習指導者を育成しつつ、実習施設（特に県内施設）の安定的確保を図ることが継続的な課題である。

##### （3）厚生労働省の福祉士養成課程に関わる規定・指導への対応

平成30年度末を目途に取りまとめられる予定であった、社会福祉士のカリキュラム改正については、予定が遅れており、具体的な内容は未だ示されていない。今後その改正内容に伴い、3福祉士のカリキュラム全体を視野に入れて、配属実習の時期・実習先・内容について総合的に検討することが必要である。

# 就 職 委 員 会

田 中 き よ む

## 1 社会福祉学部の就職活動支援

### （1）就職ガイダンス等の実施

- ・オリエンテーション（2018年4月5日）
- ・家庭裁判所調査官職場見学（2018年5月18日）

### （2）個別相談等

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携しつつ、ゼミ担当教員・学年担当が中心となり、個々の学生の就職希望先に応じて、4回生の進路相談、履歴書の添削、面接練習等を行った。近年、国家試験の合否によって内定取消になる場合もあるため、国試対策委員会とも連携し学生の意識づけを行いつつ、内定先への確認や相談を促すようにした。3回生以下の学生に対しては、就職ガイダンスへの参加を呼びかけた。

### （3）情報提供

学生・就職支援課ワクワク Work!!が行う情報提供以外に、学部生向けの求人票を2階談話コーナーに掲示し、各教員宛に相談があった求人情報もあわせ情報提供した。一昨年度から、スマートフォン等で求人情報を検索・閲覧できるwebシステムが導入されたため、学生は必要に応じて掲示とwebシステムを併用していた。

2・3回生に対して、就職活動や仕事などについて卒業生に話してもらうことで、今後の見通しを立てられる機会を設けた。3回生では、特に民間企業や公務員をめざす学生には、ワクワク Work!!に情報収集や相談に行くよう働きかけた。

4回生では、ゼミ担当教員を中心とした社会福祉学科の教員に対し、各学生の職業や就職先選択に悩む過程への支援を依頼した。学年担当も随時学生に声をかけ、進路の方向性や就職活動の進捗状況について情報収集するとともに、必要に応じて相談にのることができるようにした。また、履歴書の書き方や面接のマナー等について、学部教員やワクワク Work!!に相談するよう促した。

## 2 進路状況

就職希望者：67名

就職内定先：

① 公務員等	8名 (11.9%)	② 医療機関	14名 (20.9%)
③ 社会福祉協議会	6名 (9.0%)	④ 福祉施設等	28名 (41.8%)
⑤ 民間企業	10名 (14.9%)	⑥ 進学	1名 (1.5%)

卒後勤務地：高知県内 31名 (47.0%)，高知県外 35名 (53.0%)

## 3 今後の課題

学生への情報提供や就職支援に関しては、今後も学部教員およびワクワク Work!!との連携が重要である。

# 広 報 委 員 会

遠 山 真 世

## ○本年度の取り組み

本年度の広報委員会は、遠山、河内講師・大熊助教・雑賀助教が担当した。

### （1）「大学案内」の編集・製作

2020年度版「大学案内」の作成に伴い、社会福祉学部の紹介ページでは、国家試験合格率および就職状況について最新情報へ更新し、掲載学生や卒業生についても一新した。

### （2）オープンキャンパス：8月5日（日）

当初の予定では7月29日（日）の開催だったが、台風のため延期となり8月5日（日）に開催された。社会福祉学部では、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、体験授業（田中きよむ教授・稲垣助教）、ゼミ室訪問、介護体験、サークル紹介、学部棟見学ツアーなどのプログラムを実施した。参加者数は延べ212名であった。

### （3）在学生による出身高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを継続して実施している。本年度は1回生6名・2回生1名・3回生1名の計8名が出身高校を訪問して、学部での学習や大学生活などについてPRを行った。

### （4）キャンパス訪問への対応

高校生や高校進路指導教員による学部訪問7校に対応した。学部紹介、介護実習室の見学、訪問校出身学生によるメッセージ、事例検討のグループワーク体験などを行った。

### （5）学部パンフレットの更新

昨年度から企画していた学部パンフレットを更新した。

### （6）学部ホームページの更新

学部ホームページを更新するとともに、計21件の「新着情報」を掲載した。

### （7）学部PR動画の作成

本年度は学部PR動画を作成することができた。学生の声や授業の様子、社会福祉の各分野で学べること等をインタビュー形式で撮影し、短い時間で視聴できるショートバージョンと、より詳しい内容を視聴できるロングバージョンも作成した。

## ○今後の課題

昨年度はオープンキャンパスの体験授業で教室に入れない来場者が多数出たことから、今年度は2つの体験授業を同時間帯に並行して開催したところ、2授業ともバランスよく満席に近い状況で聴講していただくことができた。次年度も同様の形で開催したいと考えている。

また、本年度は充実した学部PR動画を作成することができたので、次年度以降いろいろな場面で活用し、入試広報部会や介護人材確保事業部会と協働しながら、高校生・高校教員・保護者等に学部の魅力を発信し、受験者確保に取り組んでいきたいと考える。

# 介護人材確保部会

河内 康文

## 1. 集合型研修 県大生と行く職場見学ツアー

○開催日時：平成 30 年 7 月 28 日（土曜日） 10：00～15：00

○開催場所：介護老人福祉施設 洋寿荘 障害者支援施設 アドレス・高知  
高知県立大学池キャンパス 看護福祉棟 F110

○講師：河内康文

○対象：高校生と保護者 ○参加者数：52 人（スタッフ等含む）

### （1）事業概要

高校生とその保護者等に対して、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。大学教員と学生及び高校生が介護現場を訪問し、専門職の役割やキャリアについて具体的事例から学ぶ。

### （2）活動成果

アンケート集計結果からは、すべての参加者が福祉・介護のイメージが良くなったという回答があった。また、同アンケートからは、「介護施設の職場体験に行って話を聞くなかで自分のイメージと異なる部分がたくさんあり、前より興味を持つことが多くなった」、「見学させていただいて、今までの介護の印象ががらりと変わった感じがして、福祉・介護についても調べていきたいなどと思ったし、興味を持ちました」などの記述が見られた。

### （3）活動評価

実際に介護現場に行くことで、本事業の趣旨が理解しやすく、福祉介護のイメージの転換ができたといえよう。また、高知県立大学の卒業生が活躍する職場を訪問することにより、福祉・介護分野でのキャリアについてもイメージが構築できたと思われる。

参加者は、高校生が主であった。今後は、保護者がより参加できるような内容や広報の在り方の検討が必要である。また、時期/場所については、本企画が今年度初めての試みであったため、より参加がしやすい日程や介護施設との調整などが課題になる。

### （4）当日の様子



大学生による発表



熱心に話を聞く高校生



高校生と大学生の交流



介護施設の見学

## 2. 集合型研修 卒業生と行く職場見学ツアー

- 開催日時：平成 30 年 9 月 30 日（日曜日） 9：30～16：30
- 開催場所：梶原町複合福祉施設
- 対象：高校生と保護者（申込希望者：29 名）
- ※台風 24 号の接近により開催中止

## 3. 集合型研修 高校生と保護者のための公開講座

- 開催日時：平成 30 年 11 月 11 日（日曜日） 11：00～14：45
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス 本部・健康栄養学部棟 A306 等
- 講師：社会福祉学部：横井輝夫教授，中寫洋准教授（中京大学），河内康文講師  
ゲスト講師：福島富雄氏（脳卒中リハビリテーション研究所）
- 対象：高校生と保護者 ○参加者数：156 人（延べ人数，スタッフ等含む）

### （1）事業概要

高校生とその保護者等に対して，大学教員が福祉・介護領域の学問的な講義を総論的に行なった．その後，福祉・介護領域の学際的な内容と理解を目的として，高校生の関心に  
応じた選択制の各論的演習（2 コース）を行なった．

### （2）活動成果

アンケート集計結果からは，「これから先の時代には生活を援助する社会福祉士がもっと  
と大事になるということがわかりました」，「ダブルケアやヤングケアラーというものがある  
ことを知りました．もっといろんなことを学びたくなりました」，「人間関係は本当に大  
切で 1 人 1 人の助け合いがあるからこそ皆が幸せに暮らしていけるとわかりました．大学  
は本当にわかりやすく楽しく学べました」などの記述が見られた．

### （3）活動評価

当日は，大学祭期間の開催となった．高校生と保護者は，大学での社会福祉に関する講  
義・演習の実際と，学生の活気あふれる大学の雰囲気を理解できたと思われる．

（４）当日の様子



「人生の過程を考える」



熱心に講義を聞く高校生



「ダブルケアの観点から見た子育て困難とその支援」



「片麻痺は不自由だけど不幸ではない」

4. 集合型研修 新高校生 2・3年生のための入門講座

○開催日時：平成 31 年 3 月 25 日（月曜日） 10：30～12：00

○開催場所：高知県立大学本部・健康栄養学部棟 A 306

○講師：河内康文講師

○対象：高校生と保護者および教員 ○参加者数：56 人（スタッフ等含む）

（１）事業概要

高校生とその保護者等に対して，大学教員が福祉・介護領域の学問的な講義を総論的に行なった．その後，福祉・介護領域の学際的な内容と理解を目的として，高校生の関心に応じた各論的演習を行なった．

（２）活動成果

アンケート集計結果からは，「福祉について詳しく知らなかったけど，この講座を通して高知県立大学ではどのような学びをするのかを知る良いきっかけになりました」，「福祉分野のイメージが変わった気がします」，「人の幸せを考えて色々な取り組みを行うのはすごいなと思ったし，興味も持ちました」などの記述が見られた．

（３）活動評価

新 2・3 年生を対象とした講座は 2 年目あったが，参加者から概ね好評であった．今年度は，昨年度に実施した永国寺キャンパスではなく池キャンパスで開催した．昨年度は，30 名の参加であったが今年度は 50 名の参加があった．

## 委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

### （４）当日の様子



河内講師による入門講座



大学生によるプレゼンテーション



大学生によるプレゼンテーション



大学生と高校生のフリートーク

### ５．訪問型研修（計８回）

○開催日時：場所

(1)	平成30年10月19日（金曜日）	16：00～17：00	：高知南高等学校
(2)	平成30年10月22日（月曜日）	16：00～17：00	：嶺北高等学校
(3)	平成30年10月22日（月曜日）	16：50～17：50	：丸の内高等学校
(4)	平成30年10月29日（月曜日）	16：00～17：00	：岡豊高等学校
(5)	平成30年10月29日（月曜日）	16：15～17：15	：山田高等学校
(6)	平成30年10月31日（水曜日）	16：20～17：20	：高知商業高等学校
(7)	平成30年11月2日（金曜日）	16：00～17：00	：清水高等学校
(8)	平成31年1月11日（金曜日）	16：10～17：00	：中村高等学校

○講師：社会福祉学部：西内章教授（８）

河内康文講師（１）（４）（７）

片岡妙子助教（３）（５）（６）

大熊絵理菜助教（２）

社会福祉学部学生

○対象：高校生・高校教員

○参加者数：計108人（講師・スタッフ等含む）

### （９）事業の概要

高校生に対する社会福祉の概要理解を目的に、高知市外の高等学校に訪問し、大学教員が理論、学生が大学での学びの実際を説明した。



## 委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

### (10) 活動成果

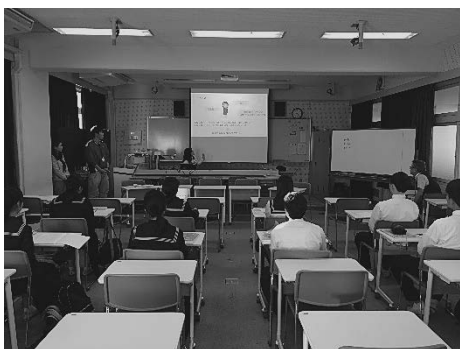
アンケート集計結果からは、「とても分かりやすい内容だったし、福祉や介護のイメージがもてたので、とても楽しかったです」、「この講座を通して福祉は人の気持ちに寄り添い支えることができる素晴らしいものなのだと感じました」、「人と関わることで自分が成長する体験の場や経験することがあるので、その分野の仕事にますますつきたいと思いました」などの回答が見られた。

### (11) 活動評価

高校生と年齢が近い大学生が大学で実際に学んでいる内容を伝え、大学教員が理論的な側面を裏づけすることにより、より高い学びの効果が得られたと思われる。

本事業が3年目となり、高校生時に受講した生徒が本学学生となりスタッフとして参加している。発展的に事業の定着および内容の充実を図るとともに、さらなる対象校の検討が今後の課題になると考える。

### (12) 当日の様子



大学生による講義



大学生とのグループワーク



シンポジウム形式の講座



アドバイスをする大学生



社会福祉の事を  
わかりやすく  
学びます。

県大生と行く  
職場見学ツアー  
2018

7.28 sat

卒業生と行く  
職場見学ツアー  
2018

9.30 sun

高校生と保護者のための  
公開講座  
2018

11.11 sun

新2・3年生のための  
入門講座  
2019

3.25 mon

オープンキャンパス  
7月29日[日]  
9:30 - 16:00  
会場：池キャンパス



高知県立大学 社会福祉学部

<p style="text-align: center;">体験 1</p>  <p style="text-align: center;">県大生と行く <b>職場見学ツアー</b> 「高齢・障害施設編」</p> <p>2018年 <b>7月28日 [土]</b> 9:30-15:00</p> <p>池キャンパス 高知県立大学 看護福祉棟 F110 集合 〒781-8515 高知県高知市池2751-1</p> <p>教員・県大生と一緒にOB・OGの職場「高齢・障害施設」を見学します。</p>	<p style="text-align: center;">講座 1</p> <p>2018年 <b>11月11日 [日]</b></p> <p>池キャンパス 高知県立大学 本部・健康栄養学部棟 3F A306 1フロビー受付 〒781-8515 高知県高知市池2751-1</p> <p>当日は、紅葉寮(大学院)を池キャンパスで開催します。</p> <p>関心のある講座を選択して受講してください。</p> <p>特別講義 11:00-12:00</p> <p><b>A</b> 人生の過程を考える 横井 輝夫 先生(社会福祉学部)</p> <p>選択講義 1部 / 13:00-13:45 2部 / 14:00-14:45</p> <p><b>B</b> ダブルケアの観点から見た 子育て困難とその支援 中島 洋 先生(社会福祉学部)</p> <p><b>C</b> 片麻痺は不自由だけど 不幸ではない 河内 康文 先生(社会福祉学部)</p> <p>同日開催 公開講座 社会福祉学部リカレント教育講座 「ストレスとつきあうコツ」 13:00-15:00 玉村 麻紀 先生(社会福祉学部)</p> <p>一般の方も対象とした公開講座です。 高校生や保護者のみなさまもご自由にご参加ください。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">高校生と保護者のための <b>公開講座</b></p>
<p style="text-align: center;">体験 2</p> <p>中山間地域:「梶原町複合福祉施設編」</p> <p style="text-align: center;">卒業生と行く <b>職場見学ツアー</b></p>  <p>2018年 <b>9月30日 [日]</b> 9:30-16:30</p> <p>池キャンパス 高知県立大学 本部・健康栄養学部棟1フロビー集合 〒781-8515 高知県高知市池2751-1</p> <p>昼食を持参してください。</p>	<p style="text-align: center;">講座 2</p> <p style="text-align: center;">新2・3年生のための</p> <p>2019年 <b>3月25日 [月]</b> 10:30-12:00</p> <p>池キャンパス 高知県立大学 本部・健康栄養学部棟 3F A306 〒781-8515 高知県高知市池2751-1</p> <p>教員・県大生とコース別に社会福祉の入門的な内容を体験により学びます。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"><b>入門講座</b></p>

事前のお申し込みが必要です。  
締切り / 2週間前に必着。参加費無料

別紙受講申込書に、必要事項をご記入の上お申込みください。  
ファックスの場合 / Fax.088-847-8670  
郵送の場合 / 高知県立大学 〒781-8515 高知県高知市池2751-1  
受講申込書の無い方は、学校名、学年、お名前、希望講座を  
明記の上、右のQRコードからメールでお申込みください。  
※保護者の皆様はお申込み不要ですので、ご一緒に参加ください。



高知県立大学 健康長寿センター

お問い合わせ Tel.088-847-8700 企画連絡係

場所の詳細は、高知県立大学→交通アクセスをご覧ください。  
<http://www.u-kochi.ac.jp/>  
駐車場は南駐車場をご利用ください。

# キャリア支援委員会

杉原 俊二

キャリア支援委員会は、委員長を杉原、遠山講師、雑賀助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。

## 1. 活動内容

### ①日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第51回高知大会の準備

今年度は、四国学院大学が行った第50回香川大会について、高知県立大学が当番校となることが決まった。その準備をキャリア支援委員会が中心となって引き受けることになった。これは杉原が同学会中国・四国地域ブロックの役員をしていることと密に関係がある。

杉原が役員に就任する以前から、すでに当番校の順番が決められており、本来であれば2019年度は岡山県の川崎医療福祉大学が当番校となる予定であった。ところが、その大学が別の学会の学術集会の開催をすでに引き受けており、当番校を辞退したいとの申し出があった。本学部は2020年度の当番校となっており、1年繰り上がる形になるが、引き受けてくれないかという強い依頼があった。

本学部を持ち帰り、学部長と相談したところ、引き受けることになった。また、学部の業務として、それにあたることができるようにもなった。すでに準備は10月からスタートしており、来年度の7月13日に開催される。多くの支援が必要であり、先生方や学生のバックアップを期待している。

### ②高知県立大学社会福祉学会（仮称）の設立準備

これは、社会福祉学部・人間生活学研究科社会福祉学領域の教員・在学生・卒業生を中心とした「学内学会」の設立することを決め、その準備に取り掛かっている。

昨年、学部創設から20年の節目の年となり、2017年10月8日に学部創立20周年記念事業が行われた。そこでは、卒業生・在学生・在職教員相互のネットワーク化、社会福祉研究や専門性・キャリア形成の進展、卒業生の実践活動の促進などを目標とするキャリア支援ができることを目標とした。一つの形になり、約300名の参加を得て成功を収めることができた。また、本学卒業生が大学院博士前期課程への進学を目指すための支援者、修了生が博士後期課程へ進学するための支援、博士後期課程修了生が共同研究をする基盤を作りたいと考えていた。

すでに看護学部には「学内学会」があり、それを手本にしながら、本学を会場としてリカレント教育の一環として、講演会と研究発表の場を設けたいと考えている。出来れば、2020年度に第1回大会を持ちたいため、学部内での調整を続けている。先生方のご協力をお願いする。

### ③リカレント研究会事業を中心としたキャリア支援の取り組み

前年度に引き続き実施した。

## 2. 今後の課題

キャリア支援委員会が組織されて3年目であり、前委員長の西梅先生から引き継いだ。全学の方では、就職活動に力を入れているが、社会福祉学部の場合は、就職と並行して、卒業生の卒後教育やキャリアアップも考えていく必要がある。できるだけ支援をおこないたい。

# 健康長寿センター

河内 康文

## ○活動内容

### 1. 健康長寿センター 運営委員会

全学での運営委員会として、平成30年4月から平成31年3月において会議を11回実施した。

### 2. 健康長寿センター運営委員

池田光徳（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（中寫〈前期〉・河内・片岡・大熊・福田〈後期〉）・総務部企画課健康長寿担当者

### 3. 平成30年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）

- ①社会福祉リカレント教育講座
- ②健康長寿センター体験型セミナー 社会福祉学部主催 本山町
- ③健康長寿センター体験型セミナー 体験ブース「認知症テスト体験」担当

## ○活動の評価と課題

①社会福祉リカレント講座については4名の教員による講座を行った。受講者アンケートには詳細な感想が多く寄せられており、各講座ともに好評であった。また受講者の多くはSW, CM, CW等福祉職であったが、一般参加や高校生もみられた。

②社会福祉学部主催による体験型セミナーを本山町で開催した。学部雑賀助教による講演と看護学部、健康栄養学部、社会福祉学部の3学部による体験ブースを実施した。事前に健康福祉課の担当者と打ち合わせを行い、町民の健康についての行動を活性化することを目的に行った。

③体験型セミナーの体験ブース「認知症テスト体験」では、体験を希望する受講者が多く、認知症に対する地域住民の意識の高さがうかがえた。

### ① リカレント教育講座

開催日	テーマ	講師	参加者
11/3	対人支援専門職のプレゼンテーション能力 - 医療ソーシャルワーカーの情報収集を題材にして -	大熊助教	42人
11/11	ストレスとつき合うコツ	玉利助教	31人
12/8	障害のある人のキャリア形成を考える - ピアサポーターに関心をもつ“あなた”へ向けて -	鈴木 准教授	24人
12/15	地域福祉に必要なこと - 介護保険制度改正から -	雑賀助教	26人

### ② 体験型セミナー

開催日	テーマ	開催場所	参加者
12/7	つながりの大切さ～認知症予防と防災の事例から～	本山町	30人

# 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

丸山 裕子

## ○看護・社会福祉連携部会について

### 1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

### 2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

## ○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 平成30年度は、昨年に引き続き共同研修会（上記事業3にあたる）を毎月1回、定期開催した。今年度は、高知医療センターソーシャルワーカーとの事例研究を通して、「個」ととらえる多様な視点について考察を深める機会となった。また、特に前期は多くの学部生の参加を得て、机上での学習とは異なる実際事例の検討体験は、実習やその後の大学における学びの統合にいかされていると考えている。
2. 今年度新規の取り組みとして、高知医療センターと連携している高知市内の医療機関（診療所及びクリニック）に関する情報を収集し、パンフレットの作成に着手した。
3. 平成29年度より「ソーシャルワーカー・キャリア・ラダー」作成の取り組みを行ってきたが、今年度は県立大学、医療センターともに人員配置などの諸事情により保留となっている。

## ○社会福祉連携部会における取り組みの課題

1. 事例検討を開催する際の課題としては、医療センター看護部及び県立大学看護学部事前に案内を行い、看護関係者の参加を促し、多様な視点からの検討を可能にするよう工夫を行う。また、引き続き、学生が参加可能な体制を整える。
2. 昨年度、作成した事例検討用フォーマット（案）を活用し、計画的に事例検討を進めつつ、より効果的な事例検討の方法を模索していく。
3. 高知市内医療機関のパンフレット作成に向けて、ソーシャルワーカーのみならず、事務部門の協力を得ながら、次年度の完成をめざしたい。
4. 「ソーシャルワーカー・キャリア・ラダー」の作成は、新人教育への活用を目的に新年度からの体制で再開する予定である。

平成30年度 看護・社会福祉包括連携事業計画（社会福祉部会）

色は終了した事業

1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

1) 学生の臨地実習

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1 前期	8/20～9/21 (社会福祉) 7/2～7/19 8/13～8/28 (精神)	社会福祉学部 3・4回生	4	相談援助実習による配属実習 医療相談室におけるソーシャルワーク実習
2 後期	8月8日	社会福祉学部 2回生	5	相談援助実習による見学実習 医療相談室におけるソーシャルワーク見学実習

2) 教員の臨床研修

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

1) 基礎教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	毎回参加予定	社会福祉学部 3回生	14名 順次参加	定例研修会(3. 教員コンサルテーションに該当)への参加
2				

2) 継続教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3) 大学院教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3. 教員によるコンサルテーションの実施

	実施日・期間	氏名or対象	参加人数	事業内容
1 前期	4月18日(水) 17:30～ 医療センター 2階 やいろちよう	●社会福祉学部教員 (大熊 絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・和田真奈美・丁野江里子・結城祐佳・渡邊愛友) ●事務職 (西原美穂・小島秀啓・門田賢太郎)	11名	①参加者自己紹介 ②本年度計画の確認 ※司会(川上)
2 前期	5月17日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・結城祐佳・渡邊愛友) ●事務職 (西原美穂) ●社会福祉学部学生 (田村歌穂・藤岡芽生・秋好菜絵理・長屋春香・川上ゆりか)	13名	①事例検討(丁野) テーマ『急性期からつなぐバトン』 ※司会(結城)



委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

3 前期	6月17日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・渡邊愛友・和田真奈美)</li> <li>●社会福祉学部学生 (田村歌穂・藤岡芽生・井上亜純・永野弘恵・川上ゆりか・兵頭七海)</li> </ul>	13名	<p>①事例検討(藤井) テーマ『子どもの強さと可能性を感じた事例』</p> <p>②NPO法人高知緩和ケア協会第17回研究発表会第23回豊かな命講演・報告(和田) テーマ『ソーシャルワーカーと看護師による退院・転院支援の取り組み』</p> <p>※司会(渡邊)</p>
4 前期	7月19日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (丸山裕子・大熊絵理菜)</li> <li>●医療センター職員 (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・渡邊愛友・和田真奈美・西原梓・竹内浩美)</li> <li>●事務職 (西原美穂)</li> <li>●社会福祉学部学生 (藤岡芽生・永野弘恵・伊藤綾夏・兵頭七海・長屋春香)</li> </ul>	16名	<p>事例検討(中山) テーマ『輸血の中止に寄り添う支援』</p> <p>※司会(西原)</p>
5 前期	8月16日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療センター職員 (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・渡邊愛友・和田真奈美・西原梓)</li> </ul>	7名	<p>事例検討(西原) テーマ『市町村との連携どうすれば……母の想いに寄り添うこと』</p> <p>※司会(丁野)</p>
6 前期	9月20日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●医療センター職員 (川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・渡邊愛友・和田真奈美・西原梓)</li> <li>●事務職 (西原美穂)</li> </ul>	8名	<p>事例検討(渡邊) テーマ『SWが関わるAさんの意向に沿う支援』</p> <p>※司会(和田)</p>
7 後期	10月18日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●医療センター職員 (川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・渡邊愛友・和田真奈美・西原梓・竹内浩美)</li> <li>●事務職 (西原美穂)</li> <li>●社会福祉学部学生 (兵頭七海)</li> </ul>	10名	<p>事例検討(和田) テーマ『誰が決めるの?～意思決定能力についての評価の相違～』</p> <p>※司会(中山)</p>
8 後期	11月15日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (丸山裕子)</li> <li>●医療センター職員 (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・渡邊愛友・和田真奈美・西原梓・竹村貴深)</li> <li>●事務職 (西原美穂)</li> </ul>	10名	<p>事例検討(川上) テーマ『表出のないクライアントに関わることの難しさを感じたケース』</p> <p>※司会(藤井)</p>
9 後期	12月20日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療センター職員 (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・渡邊愛友・和田真奈美・西原梓・竹村貴深)</li> <li>●事務職 (西原美穂)</li> </ul>	9名	<p>事例検討(渡邊) テーマ『ソーシャルワーカーの想像力を鍛えたい』前半</p> <p>※司会(竹村)</p>

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

10 後期	1月17日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●医療センター職員 (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・丁野江里子・渡邊愛友・和田真奈美・西原梓・羽方沙由美・竹村貴深)</li> <li>●事務職 (西原美穂)</li> </ul>	10名	①精神保健福祉学会 報告（藤井） ②事例検討（渡邊） テーマ『ソーシャルワーカーの想像力を鍛えたい』後半 ※司会（川上）
11 後期	2月21日(木) 17:30～ 医療センター 1階 医療相談室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●医療センター職員 (藤井しのぶ・川上めぐみ・丁野江里子・渡邊愛友・西原梓・羽方沙由美・竹村貴深)</li> <li>●事務職 (西原美穂)</li> <li>●社会福祉学部学生 (兵頭七海)</li> </ul>	10名	大学教員講義 『事例検討のまとめ』 ※司会（渡邊）
12 後期	3月14日(木) 17:30～ 医療センター 2階会議室やいろ 鳥	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (宮上多加子・大熊絵理菜)</li> <li>●医療センター職員 (藤井しのぶ・川上めぐみ・渡邊愛友・西原梓・竹内浩美)</li> <li>●事務職 (小島秀浩・西原美穂)</li> </ul>	9名	①平成30年度第1回看護・社会福祉連携部会 ②社会福祉部会の本年度の振り返り、次年度の計画確認

4. 臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	4月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●ソーシャルワーカー (川上めぐみ・丁野江里子)</li> <li>●社会福祉学部学生 (兵頭七海)</li> </ul>	未定	来年度に向けて高知市内の医療機関（診療所及びクリニック）に関する、情報を収集し、患者さんや家族が、住み慣れた地域で診療を受けることができるように支援する。収集したデータをどのように管理していくかは、現在検討中。
2				

5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

6. その他看護・社会福祉連携活動の実施

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

# 災害対策プロジェクト

雑賀 正彦

## ○本年度のとり組み

本年度も例年同様、法人災害プロジェクト担当として、学外連携部会に長澤紀美子教授、学内連携部会に中畠洋准教授（平成 30 年 8 月まで）、河内康文講師、雑賀正彦助教、福田秀敏助教（平成 30 年 10 月から）が参加し、DNGL の大学院生を加えたメンバーで構成した。主な取り組みは以下の通りであった。

### （1）災害対策プロジェクトの会議及び合同災害訓練打合せ会の開催・参加

合同災害訓練の計画・実施、研修会・避難訓練の計画・検討を平成 30 年 7 月より、月 2 回のペースで行った。あわせて、合同災害訓練の直前期には社会福祉学部、看護学部、DNGL で合同会議を行い、それぞれの役割と連携について協議しながら、マニュアルの改訂を同時に行った。

### （2）合同災害訓練の実施

平成 30 年度合同災害訓練は平成 30 年 10 月 6 日（土）8 時～12 時 30 分の予定であったが天候不良のため中止となった。

### （3）平成 30 年度避難所運営支援の目標に向けた準備

本年度は主に次の 3 つの目標を立てて避難所運営支援に携わる予定であった。

**目標 1**：学生は、（医療センター経由ではなく）大学に直接避難してくる避難住民の役割の設定及び避難後の待機時間に研修を実施し内容を検証する。

**目標 2**：軽傷者看護エリア（看護学部）、栄養アセスメント（健康栄養学部）との連携、情報共有のあり方を検証する。

**目標 3**：学外より、地域住民等（池住民・望海ヶ丘住民、外国人、障害者）が参加するため、それぞれの対応にあたっての課題を明らかにする。

## ○次年度に向けて

本年度の訓練は中止となったが、修正マニュアルを次年度に向けて再度検証を行い、より実用的なマニュアルにしたい。また、学外との関わりや参加者の多様化といった課題にも積極的に取り組んでいきたい。

# 総務・予算委員会

西梅 幸治

総務・予算委員会は、委員長を西梅が担当し、宮上学部長、加藤助教、田中助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。いずれも学部事務職員ならびに代替教員の協力を得て取り組んだ。

## 1. 活動内容

### ① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営

- ・ 開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計20回）。

### ② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備

- ・ 社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として、年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保を行った。
- ・ 4回生の国試準備・卒論作成を中心に、空き教室や福祉情報資料室を自主学習室として使用できるように整備し、使用簿で管理する体制を作った。
- ・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、情報処理部会とともにハードディスク管理及びウィルス対策ソフトの一括導入を継続し、メンテナンス業務の省力化を図った。
- ・ E401会議室、介護実習室にビデオカメラ及びテレビモニターを設置して、会議や授業の円滑化を図った。
- ・ 学長裁量経費にて、E102、103、F110教室の書画カメラの取り替えを行った。
- ・ 次年度の学会開催等に向け、学部内にトランシーバーを設置した。

### ③ 学部日常事務の対応

- ・ 寄贈資料・郵便物の整理、回覧などの仕事に対応した。

### ④ 『平成29年度社会福祉学部報』発行

- ・ 平成29（2017）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。

### ⑤ 学生教育用図書・資料等の充実

- ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通じて定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
- ・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書・DVDを選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。
- ・ 福祉情報資料室で保管している卒業論文の電子化による検索・活用の利便性の向上、学生閲覧用論文資料の充実を引き続き行った。

## 2. 今後の課題

学部棟内の設備・備品の整備や消耗品補充の対応などについては、予算の執行状況を常に確認しながら、計画的に整備していく必要がある。また教員数の減少に伴い、各委員会の役割分担の調整、教員と事務職員との業務分掌の明確化・効率化などについては引き続き検討していく必要があると考えられる。あわせて今後も、丁寧な学部運営の補助及び設備・備品管理と、学部で取り組むべき重点事項への適正な予算配分を行っていききたい。特に学生教育費の執行方法については、次年度も改善を図りたい。

# 国試対策支援委員会

西梅 幸治

## ○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、委員長を西梅が担当し、稲垣助教、大熊助教、加藤助教、雑賀助教、田中助教、玉利助教で構成した。後期からは、福田助教が加わった。

### （１）４回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤ソ教連などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要
4月	国家試験に関するガイダンス（4/6）
5月	学内模擬試験（過去問5/7、5/14）
6月	学内模擬試験（過去問6/8）
7月	学内模擬試験（過去問7/17）、個別面談 「受験の手引」解説（介護福祉士7/31）
8月～9月	「受験の手引」解説（社会福祉士・精神保健福祉士9/1・9/20）
10月	模擬試験（高知県社会福祉士会10/8） 模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟10/26・27） 受験対策直前web講座周知
11月	国試対策講座、個別面談
12月	国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談、学内模擬試験（12/21）
1月	国試対策勉強会（1/7-9）、個別面談、自己採点集計 介護福祉士国家試験（1/27）
2月	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（2/2～2/3）
3月	合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士3/15、介護福祉士3/27） 卒業後の手続きに関する説明（3/19）

### （２）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

委員会活動年度報告書（国試対策支援委員会）

（3）2018年度の国家試験合格率

1）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
96	59	61.5%	64	53	82.8%	32	8	18.8%

合格順位：全国 23 位（既卒含）、全国 22 位（新卒のみ）／194 校（総数での学校数）

合格基準点：89 点（満点 150 点）

全国平均合格率：28.9%

合格順位：全国 1 位／59 校（受験者 50 名以上・新卒）

2）精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
27	25	92.6%	26	25	96.2%	1	0	0.0%

合格順位：全国 8 位（既卒含）、全国 16 位（新卒のみ）／91 校（総数での学校数）

合格基準点：87 点（満点 163 点）

全国平均合格率：62.7%

3）介護福祉士の合格率について

総数（新卒）		
受験者数	合格者数	合格率
22	22	100%

合格基準点：72 点（満点 125 点）

全国平均合格率：73.7%

○今後の課題

今年度も、国試対策への意識づけを早期に行うために、「国試の日」（学内模擬試験）を5月から行い、全体で過去問を解く機会を3回行った。昨年度に引き続き、個別面談を前期・後期とも実施し、必要に応じて定期的に面談し相談・助言を行った。面談担当教員で目標設定のうえ、面談記録を共有しながら個別の学習状況を把握できるようにするとともに、学習方法について体系的なアドバイスができるようにした。

今年度は特に、就職活動や卒業論文との両立に苦勞し、国試の勉強時間を確保することが難しい学生もみられた。しかし学生たち相互の意識高揚とそれに向けた支援により、社会福祉士については、受験者50名以上（新卒）で全国1位、学部創設時から歴代2位の合格率となり、介護福祉士の合格率は100%、精神保健福祉士も合格率96.2%など好成績となった。資格取得だけが目標ではないが、学生が必要を感じる資格の取得へ向けて、今後も学部全体で国試対策に集中できる環境づくりに取り組む必要がある。さらに次年度以降は、新たな傾向を精査し、今後の支援に反映させていく必要があると感じている。

# IV

学生を中心とした活動





## 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士 国家試験に向けての取り組み

---

### 国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、苦手を感じているものや、勉強の行いにくいもので、対策講座を開講してほしい科目について学生にアンケートを実施し、要望の多かった8科目を先生方に講義をしていただきました。これまでの出題傾向を基に、統計データや新制度、法律、歴史など、テキストのみでは把握することが難しい部分を中心に講義をしていただきました。そのため、全体の流れの把握や重点を置いて勉強すべき点を捉えることができました。また、分かりやすくまとめられた資料は普段の勉強の一助となり、理解を深めることができたと感じました。講義後でも、質問に対応してくださり、曖昧になっている点を払拭することができました。

講義に出席できなかった学生もビデオや資料を使い、忙しい時期ではありましたが、効率的に学習に取り組むことができたのではないかと思います。講義を受けることで点が線となり頭の整理ができたと感じました。

### 国試対策勉強会について

本年度も、高知県の町にある宿泊・研修施設を利用して、国家試験に向けた2泊3日の勉強合宿を行いました。規則正しい生活の中で、自分のペースで勉強を進めていくことができる上、一人で勉強するのは違い、合宿に参加している仲間から刺激を与えられ、よりやる気を奮い立たせるきっかけにもなりました。合宿中は授業などはないため、勉強は自分のスタイルで進めることができ、分からない部分は友人同士で確認したりと、着実に知識が身についていきました。また、食事や休憩時間などは友人たちと思いきり会話を楽しむことがリフレッシュとなり、その時間が国試合宿の中での楽しみで、休憩と勉強の切り替えができる分、充実した勉強時間を過ごせました。合宿中、先生方も遠いところまでわざわざ足を運んでいただいたり、甘いお菓子や体が温まる飲み物など、たくさんの差し入れをいただきました。このように、先生方や施設の職員さん、共に勉強する仲間などのサポートがあったことで、とても充実した2泊3日になりました。

国試合宿を通して、改めて自分の勉強スタイルや容量などを再確認することができ、1か月後に控える国家試験に向けて気持ちを持っていくことができました。残り1ヶ月を無駄にしないためにも、ぜひ国試合宿に参加してみてください。

### 後輩の皆さんへ

大学生活を振り返って、大学4年間は本当にあつという間でした。大学生活の4年間では色々なことに挑戦し、充実した生活を送ることができると思います。そんな中4回生では、卒論、就活、実習、国試の勉強等を同時進行しなければなりません。好きな事ばかりを優先することもできなくなってしまうと思います。「しなければいけない事」に追われ、自分の時間を取ることも難しくなります。しかし、そのような大変な4回生だからこそ、スケジュール管理をしっかりと行い、時間に余裕を持たせることが重要となると思います。自分が落ち着く場所で卒論や勉強をしたり、友達と休憩をすることも大切な時間です。忙しい4回生を時間に追われすぎず、心に余裕をもって過ごすことで乗り越えることができると思います。時間に余裕を持つことで、より良い結果を残すことができると思います。家族、先生方、友達とのつながり、また自分を大切に、助け合いながら、この1年間を乗り越えていってください。

## 国際交流

### 慶南科学技術大学校（韓国）短期研修

2018年9月10日～9月16日の日程で、慶南科学技術大学校への短期留学研修（参加者計3名）に社会福祉学部から2名の学生（1回生2名）が参加した。



#### （学生による体験記）

私は、「韓国の文化や暮らし」、「韓国の福祉制度」を学びたいと思い研修に参加した。この研修で印象深いことが2つある。

1つ目は、韓国語の授業である。日本語の上手な先生や学生の方々ののおかげで、丁寧に分かりやすく教えていただくことができた。韓国の学生の方々は本当に日本語が上手で、日常会話は全て日本語で行うことができたが、最終日に近づくにつれ簡単な単語ではあるが、韓国語での会話もできるようになり、とても嬉しかった。

2つ目は、韓国の福祉施設訪問である。今回は障がい者施設を訪問した。障がい者福祉館では、作業所や体育館、食堂、入浴施設などが1つの施設に設備されており、多様なサービスを受けることができる。また体育館ではボールを使ったスポーツを楽しんでいる利用者の方の姿を見ることができた。韓国と日本で行っているサービスや社会福祉の種類や介護職に対するイメージなどの違いを知ることができたため、とても良い経験になったと思う。

この研修で学んだことを、今後の学習にいかせるように勉強に励み、自身をさらに成長させたいと考えている。また、国内だけでなく国外への興味関心も失うことなく、これからの毎日を歩んでいこうと思っている。

なお、上記すべての短期研修について、個々の参加学生の詳細なレポートを本学国際交流センターのホームページで読むことができる。関心のある方はぜひアクセスしてほしい。

<http://www.u-kochi.ac.jp/site/cie/shortstayreport.html>

## 学外イベントへの参加

### 障害者スポーツ大会にボランティアとして参加しました

2018年5月27日（日）、高知県立春野総合運動公園にて「第20回高知県障害者スポーツ大会」が行われ、社会福祉学部の1回生がボランティアとして参加しました。このボランティアは、毎年恒例行事になっています。

毎年開催されるこの大会は、県内から多くの方々が参加しており、学生にとって障害のある方とスポーツを通じて交流する貴重な機会となっています。また、会場での担当として、競技運営や表彰式のサポート、駐車場案内などの役割を担いました。誘導をしながら選手と交流したり、大きな声で競技を盛り上げたりと、普段とは違った学生の姿が印象的でした。天候にも恵まれ、障害者スポーツについて考えるきっかけにもなり、とても有意義な経験となりました。



### 第17回高知ふくし機器展に参加しました

第17回高知ふくし機器展が、高知県ふくし交流プラザで6月29日（金）～7月1日（日）の三日間にわたって開催されました。社会福祉学部の1～2回生がボランティアとして参加しました。このボランティアも毎年恒例行事です。

全国からたくさんの来場者がいるなかで、学生は、受付や福祉機器の体験コーナーなど、それぞれの担当部署で運営をサポートしました。また、最新の車いすや介助用品、自助具などを体験したり、実際に福祉機器を使用されている人のお話を聞いたりするなど、貴重な機会になりました。2回生のボランティアリーダーは、他の学校も含めた学生ボランティアの代表として開催までの準備やその後の振り返り等にも携わり、当日も学生ボランティアの統括役として活躍しました。



## 太 鼓 部

太鼓部は現在4年生4人、3年生2人、2年生4人の計10人で活動をしています。練習は週に2・3回、池キャンパスの体育館で行っています。演奏活動では、紅葉祭・入学式等の学校行事を始め、三里フェアや尾川祭りなど地域のお祭りや、福祉施設でのイベントに参加を通して地域の方々との交流を行っています。

昨年の活動を通して、毎年継続して依頼して下さる施設や地域のお祭りが増えてきていると感じました。この一つ一つの依頼が、太鼓部として人前で演奏する貴重な機会になっているので、依頼を頂くことを当たり前だと思わず、真剣に練習に取り組み本番に望んでいます。学校行事についても、入学式や紅葉祭だけでなく、オープンキャンパスや卒業式でも出演させて頂いており、学生や教員にも見て頂く機会があることを本当に嬉しく思っています。

一つの曲を仕上げる際に、叩き方や口伝だけでなく、「魅せる」演奏ができるように意識しています。そのためにも本番に向けて練習と反省を繰り返し、日々向上に努めていくことが必要となります。また、依頼演奏が終わったあとも、できるだけ演奏直後に反省会を行うようにし、各自が技術向上に努めています。所属している学部やコースもそれぞれ違うため、限られた時間でどのように曲を構成していくかで話し合いを行うことも多々あります。こうして曲が仕上がったとき、達成した時の感動は非常に大きく部員の一体感がより強くなります。また、和太鼓という演奏を通して地域の方に喜んで頂けること、地域に出て演奏をすることで地域との繋がりが生まれることは、活動をする上でさらに私たちの励みになっています。



太鼓部では個性豊かな部員と時に真剣に、時に楽しく太鼓を叩いたり、自分たちで企画を立てて親睦を深めたりしています。それらの経験は、充実した学生生活を送ることに繋がりが、大学を卒業した後も必ず役に立ちます。

太鼓部の良さをより多くの方に知ってもらい、これからも部員一同、精進していきたいです。

## 池手話サークル

私たち、池手話サークルは週1回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えそうな会話文を考え、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。主に昼休みに活動しているため、お昼ご飯を食べながら楽しく練習をしています。また、高知県聴覚障害者協会青年部（以下、手話青年部）の方と交流をしながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、3月に行われる耳の日記念集会です。今年度は、耳の日記念集会で「ありがとう」を手話コーラスで発表しました。手話青年部の方々と一緒に練習を行い、演出なども考えました。発表では、多くの観客の皆さんを前に青年部の方と一緒に手話コーラスをしました。温かい雰囲気の中で発表を終えることができました。また青年部の方々は、毎年交流会を行っており、今年度はソフトバレーを行い、昼食を食べながらの交流をして楽しみました。さらに、耳の日記念集会に向け、練習を兼ねた交流会も行いました。青年部の方々との交流は、手話の本を使うよりも大きな学びがあり、日常的に手話を用いている皆さんとの関わりから、多くの経験をさせていただいています。

手話サークルとして活動していくなかで、多くの方々との出会いがあり、手話でつながる楽しさを感じることができました。今後も、手話を通したつながりを大切にして活動していきたいと思います。

同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。現在は5月のボランティア参加に向け、練習に力を入れています。また手話サークルは社会福祉学部の学生を中心に活動しています。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思います。よろしくお祈りします。



# イケあい

2012年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター（以下：イケあい）は東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災サークルです。団体の目的は、災害時にスムーズに支援に入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンター（以下：災害VC）で中核となれる人材を育成すること、活動や情報の発信によって防災啓発を行うことです。

こうした目標を達成するために、たくさんの地域、団体と協力しながら活動しています。イケあいは、三里地区の住民の方々をよく活動させて頂いています。三里地区では、地域の方々と鍋を囲みながら、交流を深める DoNabe net in 高知の実施や、売店や地域住民の発表の場所であるイベント、三里フェアへの参加、災害VC 模擬運営などを行っています。地域と交流することも大切ですが、イケあいはその中でも防災を取り入れる工夫を考え、実践しています。

また、他大学の防災団体とも連携しています。「楽しく防災を学ぶ」をコンセプトに取り組んだ防災運動会「かつオリンピック」では、高知工科大学や高知大学の学生と共同し、防災について考える機会を作りながら連携を強めました。

学内の活動では、毎年医療センターとの合同災害訓練を行っています。そこでは、実際に災害VCを立ち上げ、運営を行います。企画段階から、先生方、大学院生、他団体と話し合いを重ね、改めてイケあいの役割は何かを考えながら取り組んでいます。合同災害訓練を通して、部員が災害VCについての知識を深めることにつながっただけではなく、部員以外にも災害VCの認知度を高め、災害時に活用できる体制づくりのきっかけにもなっているのではないかと感じています。

これからも「楽しいから始まる防災を大切に！」をモットーに、高知県で災害から生き抜くためにはどうすればいいのかを考え、地域に寄り添いながら活動していきたいと思えます。



# ハモ☆イケ

ハモ☆イケは高知医療センターでボランティアを行っている「ハーモニーこうち」と共にボランティア活動を行っているサークルです。2018年度のメンバーは社会福祉学部の4回生2名、3回生3名、2回生7名、1回生7名の合計19名で構成されていました。

主なボランティア内容は、

- ・正面玄関や花壇の清掃
- ・花の植替えや水やり
- ・入院患者の入院室までの案内
- ・外来患者の案内
- ・図書サービス
- ・バザーの準備、当日の手伝いや片付け
- ・バザーの反省会兼交流会
- ・クリスマスツリーの設置、片付け



などがあります。

同サークルに入会後は、まず車椅子・視覚障害者の手引きの研修と、高知医療センターの方々による研修を受けます。その後一人ひとりボランティアを行うに当たっての目標を決め、心構えを持って活動を始めます。

それぞれのボランティアは活動内容、時間帯、時期が異なるため、メンバーの予定に合わせて各自で積極的にボランティアに行くという、個人参加型のサークルです。そのため集団としての活動というよりも、個人あるいは数人の規模で活動を行っています。

ボランティアを通して、職員やボランティア関係者、患者の方々と交流することができ、自身の考えを深めることができます。また、医療チームの一員として活動を行うという責任を持つことで、責任感と協調性を高めることもできます。

2018年度は各自担当曜日を設定し、正面玄関の清掃や花の水やりを継続的に行うことにより、患者さんに気持ちよく来院していただけるよう取り組みました。また、前年度に続きクリスマスツリーを院内ロビーに設置することができ、患者さんや職員の方々にも喜んでいただくことができました。

3月に行われた高知医療センターでのハーモニーこうち総会では、部員4名が高知医療センター長から特別表彰を受け、ハモ☆イケ全体の活動についても評価をいただきました。

2019年度もメンバーひとりひとりが目標をかかげ前年度の反省を活かし、職員やボランティア関係者、患者の方々との交流を大切にしながら活動していきたいと思えます。

## かんきもん（土佐弁：元気者）

かんきもんは、子どもから高齢者まで障害の有無，住んでいる地域関係なく誰もが暮らしやすいコミュニティ，『地域共生社会』を目指し活動しています。

「援農」「YCPK」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」「シグマ」と6つの分野に分かれ，学生と地域の主体性により活動に励んでいます。

### ◇援農

四万十市や安芸市などの中山間地域を訪問し農作業をツールとし住民と交流を図りながら，農作物を使い地域貢献に取り組んでいます。日曜市や高知県立大学の学園祭で活動地域の特産品を販売し，地域の魅力を発信しています。

### ◇YCPK：(Young Crime Prevention in Kochi)

高知東警察署と連絡を取りながら，少年犯罪，防犯に対する意識の向上に取り組んでいます。また，高知県に留まらず，中四国，東京にて防犯に対する研修を行うなど学生が積極的に防犯に対する知識を高めています。

### ◇タウンモビリティ

市内中心商店街の一角を拠点とする移動支援のNPO法人「ふくねこ」に，他大学と協力しながら，障害者や要介護高齢者、赤ちゃん連れの母親などの買い物支援を行っています。

### ◇学習支援

土佐希望の家、土佐市公民館などで学習支援を行っています。土佐市では子どもの居場所づくりの一環として子どもやその保護者が参加できるイベントを企画運営するなど，学習以外の面でも交流を図ります。

### ◇傾聴

講師をお招きし傾聴の目的や方法、効果などを学んだ上で、グループホームや一人暮らしの高齢者・障害者の自宅を訪問し、コミュニケーションを図る活動をしています。

### ◇シグマ

女性と子どもの生活向上を目的に活動しています。DV防止のキャンペーンに参加することや，子ども達と自然の場で交流を図る活動を行っています。



四万十市西土佐大宮での田植え



YCPK 防犯フォーラムへの参加

～かんきもんでの活動を通じて、自分の興味・関心を広げ  
机上では学ぶことのない，楽しさを体感し自分自身の成長へと繋げてほしいです～



## P シスターズ

地域活動サークル「P シスターズ」です。P シスターズは、地域住民の考えや想いに寄り添いながら、地域住民の主体性を活かした活動を行っています。主な活動地域は、安芸市東川地区・三原村・土佐清水市斧積地区・津野町船戸地区・仁淀川町の5市町村です。

### ◇安芸市東川地区

地域で行われる運動会への参加や、伝統継承として獅子舞を踊ること、特産のゆずを使用したゆずジュースの製作等を行っています。

### ◇三原村

一昨年に65年ぶりに復活した総社祭りで行われる、太刀踊りを住民から直接教えてもらい、本番では地域の子どもと一緒に披露しています。

### ◇土佐清水市斧積地区

毎年9月に行われる地域のワークショップにファシリテーターとして参加し、住民の話を聞くとともに、交流を深めています。また、住民がボランティアで行うモーニング喫茶のお手伝いもさせてもらっています。

### ◇津野町船戸地区

地域の特産である「四万十源流茶」をPRしたいという住民の声を広げ、お茶の風味を活かしたラスクと一緒に制作し、高知県立大学の大学祭で販売しました。その他にも、地域で行われるイベントに参加しています。

### ◇仁淀川町

社会福祉協議会が地域住民と一緒にを行うワークショップに参加させてもらい、課題解決について考えています。また、地域で採れる「サルナシ」という実を使ったアイデアを出し合い、試作を行っています。



四万十源流茶を使用したラスクの販売



獅子舞の披露

P シスターズは、SNS でも活動の様子を公開しています。ぜひ、ご覧ください。

Facebook : @Psisters2018

Twitter : @\_P\_\_sisters

## Society For Everyone

高知県立大学国際協力サークル Society For Everyone は、国際協力について考える団体です。私たちは、イギリスに本拠地を持つ、Oxfam という NGO 団体の理念に基づいて活動しています。

Oxfam は「貧困のない公正な社会の実現」を目指しており、募金活動や人道支援、チャリティーコンサートなど、様々な活動をしています。しかし、Oxfam の活動は日本ではまだあまり浸透していないほか、日常生活において貧困の現状について情報を得られる機会は少ないです。



そのため SFE では、国際的な現状や課題についての気づきをより多くの人に起こすことを目標に活動しています。貧困を抜け出し、豊かな生活を得るためには、世界中の人が参加する協力体制が必要です。オックスファム・クラブとして食糧問題を体感、貧困問題を体感し、高知というコミュニティから変革を図っています。

昨年度は、世界の教育の現状について考える世界一大きな授業や学際での南国市で育てたサツマイモをつかったサツマイモアイスの販売、エイズ蔓延の防止やエイズ患者に対する差別・偏見をなくすことを目的としたエイズデーでのフォトアクション、生協でのフェアトレードチョコレートの販売など様々な活動を行ってきました。

現在部員数は4年生5名、3年生7名、2年生8名、1年生1名、工科大生2名の計23名で、高知県立大学両キャンパスと香美キャンパスのそれぞれで活動しています。

今年度も、自分たちにもできる身近なところから国際協力をし、様々な活動を通して楽しく学びながら国際協力について考え、また広報をして周りにも広めていけるようにしたいと思います。



# ボランティア活動

玉利 麻紀

## ○本年度の取り組み状況

学部教員、福祉実習支援室を通じてボランティアの情報を提供するとともに、学生が参加した実績について情報集約を行った。

## ○本年度のボランティア参加状況

日時	種別・主催者・企画名	内容	人数
5月4日	仁淀川町別枝地区	地域交流拠点イベントボランティア	4
5月12日	津野町船戸地区	体験型観光（茶畑ウオーキング）ボランティア	8
5月19日	特別養護老人ホーム	環境整備	2
5月20日	四万十市西土佐地区	観光（バラまつり）ボランティア	4
5月20日	土佐市	障害児地域交流付き添いボランティア	3
5月27日	高知県社会福祉協議会 第19回障害者スポーツ大会	運営補助・競技補助	68
5月27日	特別養護老人ホーム	施設祭の運営補助および入所者の付添介助	5
6月5日	土佐市	ゆうやけ食堂における世代間交流・傾聴ボランティア	2
6月8日	南国市 デイサービスセンター	地域交流ボランティア	8
6月29日～ 7月1日	高知福祉機器展バリアフリーフェスティバル	バリアフリーフェスティバル補助	73
7月3日	土佐市	ゆうやけ食堂における世代間交流・傾聴ボランティア	2
7月14日	障害者支援施設	納涼祭の運営補助および入所者の付添介助	1
7月15日	児童養護施設	夏祭り	8
7月16日	介護老人福祉施設	夏祭り	1
7月21日	社会福祉法人	納涼祭	4
7月	高知県立大学 傾聴ボランティア講習会	傾聴ボランティア講習会	16
7月	佐川町佐川地区	地域交流拠点「夢まちランド」イベントボランティア	4
8月1日	高知市旭地区	地域の夏祭りボランティア	5
8月4日	社会福祉法人	夏祭り	1

学生を中心とした活動（ボランティア活動）

日時	種別・主催者・企画名	内容	人数
8月5日	仁淀川町別枝地区	地域交流拠点イベントボランティア	5
8月7日	土佐市	ゆうやけ食堂における世代間交流・傾聴ボランティア	4
8月13日	土佐町地藏寺地区	地域の夏祭りボランティア	3
8月15日	四万十市西土佐地区	地域の夏まつりボランティア	5
8月18日	介護老人福祉施設	布師田納涼祭	2
8月31日	三原村	学生創作三原村元気体操 CD の贈呈	2
9月17日	津野町船戸地区	学生と地域住民の創作菓子「源流茶ラスク」試作	2
9月22日～ 23日	レクリエーション大会	高知大会の運営補助	6
9月23日～ 24日	土佐清水市斧積地区	地域福祉計画地域版ワークショップへの参加協力	1
10月7日	安芸市東川地区	地域運動会ボランティア	2
10月14日	障害者施設	施設祭の運営補助および入所者の付添介助	3
10月16日 ～19日	日高養護学校	修学旅行ボランティア（高校生）	1
10月17日 ～19日	山田養護学校	修学旅行ボランティア（中学生）	3
10月18日 ～19日	若草養護学校国立高知病院 分校	修学旅行ボランティア（高校生）	2
10月20日	安芸市東川地区	地域伝統文化（獅子舞）継承に向けた練習	3
10月30日	高知市瀬戸地区	地域福祉活動（居場所づくり）に向けたアンケート、ワークショップへの参加協力	2
11月1日	若草養護学校土佐希望の家 分校	修学旅行ボランティア（高校生）	1
11月1日～ 2日	日高養護学校	修学旅行ボランティア（小学生）	2
11月4日	安芸市東川地区	地域伝統文化（獅子舞）継承の本番	5
11月4日	介護老人福祉施設	地域感謝祭の運営補助および入居者の付添介助	4
11月6日～ 9日	山田養護学校	修学旅行ボランティア（高校生）	2
11月8日～ 9日	若草養護学校土佐希望の家 分校	修学旅行ボランティア（中学生）	2
11月11日	三原村	地域伝統文化（太刀踊り）の継承	5

学生を中心とした活動（ボランティア活動）

日時	種別・主催者・企画名	内容	人数
11月25日	日本介護福祉士会 第24回中国・四国ブロック 研修高知大会	受付等研修の運営補助	2
11月29日	高知市瀬戸地区	地域福祉活動（居場所づくり）に向けたアンケート、ワークショップへの参加協力	2
12月4日	土佐市	ゆうやけ食堂における世代間交流・傾聴ボランティア	4
12月7日	津野町船戸地区	学生と地域住民の創作菓子「源流茶ラスク」試作	4
12月25日	デイサービスセンター	クリスマスイベントボランティア	3
12月	仁淀川町吾川地区	地域福祉計画地域版ワークショップへの参加協力	2
2月23日	高知市潮江地区	ホームレス支援食事交流会のサポート	4

今年度は延べ307名がボランティアに参加した。ボランティア先は高齢者施設や児童養護施設、障害者支援施設、地域活動等であった。ボランティア内容は、地域や施設のイベント等の運営補助や地域交流が多く見られた。地域におけるボランティアでは、学部教員の引率によるものが多く、地域福祉に関連するものも認められた。

例年1回生が参加している障害者スポーツ大会及び福祉機器展には、1回生のほぼ全学生が参加した。感想からは、ボランティアを通して障害への理解を深められる機会となった等の声が聞かれた。また、実習先となっている施設へのボランティア参加もあり、単発的なボランティア活動だけでなく、定期的に行うボランティア活動もみられた。

## 特別支援学校修学旅行ボランティア

本年10月～11月、日高養護学校、山田養護学校、高知若草養護学校土佐希望の家分校、高知若草養護学園立高知病院分校からの依頼で、本学部の学生がボランティアとして修学旅行に同行しました。この修学旅行は、知的障害や身体障害などさまざまな障害のある児童及び生徒を対象としたもので、7回の修学旅行に13名の学生がボランティアとして参加しました。体験教室への参加や、公共施設の見学、レジャー施設での活動など、特別支援学校を飛び出して児童及び生徒と一緒に様々な町や場所に赴きました。

このボランティアに参加するまでは、学校を出る外出に同行し、介助を行うという経験がなかったため、自分自身の介助の仕方やサポートの行い方に自信がなく、学生の自分にはあるのだろうか、修学旅行という大事な行事を楽しんでもらうのはどうしたら良いのか、不安が尽きませんでした。

しかし、事前説明の日に、教職員の方々や生徒の皆さんと交流する場を設けていただき、児童及び生徒の皆さんとの関わりを深めることや、介助についての説明を受けることができたため、不安なくボランティアの日を迎えることができました。また、修学旅行当日も、先生方やご家族の方のサポートのおかげで、無事に修学旅行ボランティアを行うことができただけでなく、私たち自身も楽しんで修学旅行に参加することができました。

このボランティアを通じて、普段はあまり関わるできない小・中・高校生と関わることもできたことに加え、様々な場所に赴き旅行を共にするという、とても貴重な経験をすることができました。特に、実際に同行して介助を行うことで、どのようなことに配慮しなければいけないのか、どういった支援が必要であるのかということとその場で捉え、行動に移していくという、支援者として基本的な姿勢を学ぶことができたと感じました。

ボランティアに参加し、先生方や児童及び生徒の皆さんと関わることで、様々な発見や気づきがあったため、改めて福祉や支援に対する自分自身の考え方を見つめ直し、深めていこうと思いました。



V

卒業論文題目一覧(2018年度)





平成30年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

教員氏名	題 目
河内 康文	MSWの感情労働に関する研究 —臨床場面での自己覚知に焦点をあてて—
	児童養護施設で勤務する児童指導員のストレスに関する一考察
	生活支援コーディネーターの活動に関する一考察 —介護予防サービスの充実に向けて—
	高齢者施設での働きやすい福利厚生に関する研究 —大学生に対するグループインタビューに基づく分析—
	障害児のいるひとり親家庭における現状や課題を明確化するための研究 —必要とされる支援や制度に焦点を当てて—
	介護負担感と音楽の関係性についての一考察 —在宅介護を行う重症心身障害児者家族に焦点をあてて—
杉原 俊二	非行少年の立ち直り支援の現状と課題
	外国人技能実習生の現状と課題 —地域の中で生活するには—
	生活困窮者世帯の子どもへの学習支援に関する研究 —子どもの居場所づくりに焦点を当てて—
鈴木 孝典	高齢者の受診を阻害する要因について —糖尿病に罹患した高齢者に着目して—
	障がいのある人にとって創作活動が自己の表現活動になるプロセス NICUを利用した児の母親に対するMSWの支援の内容と課題 —NICU専従のMSWの支援に着目して—
田中 きよむ	祭の復活とその後の継承に関する研究 —三原村の総社祭に焦点をあてて—
	避難行動要支援者に対する個別支援のあり方に関する一考察 祭の復活とその後の継承に関する研究 —三原村の総社祭に焦点をあてて—
	避難行動要支援者に対する個別支援のあり方に関する一考察
	大学生の地域活動と地域の自立概念に関する一考察
	ひきこもり当事者・家族にとっての居場所づくりの意義と考察
	施設で暮らす重度知的障害者の“その人らしい生活”の実現に向けて —施設職員の役割と限界—
遠山 真世	発達障害のある子どもへの障害の「告知」 —保護者の不安や葛藤の過程に着目して—
	発達障害児の父親支援の現状と課題について
	障害者のきょうだいが交際・結婚する際に抱える苦悩に関する研究
	赤ちゃんポストの導入に影響を与えたもの —蓮田大二氏へのインタビュー調査と文献研究から—
	子どもの居場所づくりに関する考察 —子ども食堂に焦点をあてて—
	高知市の障害者の移動に関する実態調査 —移動支援を行うNPO法人へのインタビューから—
長澤 紀美子	養護老人ホームの職員による生活支援が入居者に与える影響 —生活支援コーディネーターによる支援を通じた一考察—
	養護老人ホームにおける統合失調症を有する入所者が抱える生活課題への支援について —生活相談員の役割と求められる支援技術や知識に焦点を当てて—
	父子家庭で育つ娘が思春期に必要な支援に関する一考察 —ナラティブによる回想を通して—
	養子縁組里親に対する支援機関の役割 —求められるパーマネンシー保障のあり方—
西内 章	地域における民生委員の認知に関する研究 —地域住民から信頼されている民生委員の意識—
	災害におけるボランティア団体の活動と課題の研究 —災害ボランティア報告書の分析をもとに—
	中学校の通常学級における「配慮や支援が必要な生徒」への支援 —教員とスクールソーシャルワーカーへの調査をもとに—
	母子家庭等就業自立支援センターにおける父子家庭支援の研究 —A市の母子家庭等就業自立支援センターの取り組みをもとに—
	中山間地域における移住者支援に関する研究 —移住者が地域に馴染むプロセスの検討—
	子育てにおける両親の養育態度に関連する概念の研究 —虐待を受けた子どもの手記分析を中心に—
退院前の在宅訪問における多職種連携に関する研究 —医療ソーシャルワーカー・看護師・リハビリ専門職の取り組みから—	

西梅 幸治	発達障害のある子どもをもつ母親に対する自己肯定感に着目した支援 —放課後等デイサービスの実践に焦点化して—
	要約筆記サービス利用者のエンパワメントに向けた支援方法と課題 —要約筆記者によるコミュニケーション支援場面に着目して—
	社会的養護における虐待を受けた子どもへの支援方法 —思春期の子どもの自己肯定感向上に着目して—
	出生前診断過程における意思決定支援の必要性と課題 —出産経験のある女性へのインタビュー調査から—
	発達障害のある子どもを持つ母親の子育てに対する意識の変化 —学齢期までの子育てを通じた意識変容プロセスに着目して—
	医療ソーシャルワークにおける家族支援に関する研究 —認知症高齢者の退院支援場面に焦点化して—
福間 隆康	中山間地域の買い物弱者支援における一考察 —移動販売の経営方法に着目して—
	フードバンク活動と生活困窮者支援 —フードバンクのインタビュー調査から—
	社会福祉活動における啓発イベントに関する一考察 —認知症啓発イベント「RUN伴」の活動に着目して—
	気分障害患者の復職支援に関する一考察 —レジリエンスの視点から—
	知的障害者の累犯防止に関する一考察 —矯正施設を対象とした質的調査より—
	地域の持つ課題解決力に関する研究 —被災の経験がもたらしたもの—
丸山 裕子	低所得世帯の子どもへの学習機会の提供と課題 —学習支援室での活動を通して考える機能と役割—
	母親の子育てを支える環境づくりに関する一考察 —子育て主体である母親に焦点を当てて—
	ソーシャルワークの視点から考える再非行少年への立ち直り支援
	育児不安を抱える母親への支援に関する一考察 —虐待予防の視点から—
	社会的養護にある愛着に問題を抱える被虐待児に関する一考察 —「伝わる愛情」に着目して—
	特定妊婦への継続的支援に関する研究 —ソーシャルワーカーが捉える特定妊婦の問題と介入方法—
宮上 多加子	利用者主体の地域生活支援におけるソーシャルワーカーの役割と課題 —社会的入院を切り口にして—
	要介護高齢者が利用している特殊寝台の満足感 —利用者との職員の聞き取り調査から—
	生涯学習社会における福祉教育と地域づくり —先進地域の事例検討を通して—
	高齢者の住環境の課題と住宅改修の現状
	フレイル（心身機能の低下）の状態にある高齢者への支援 —在宅生活における支援に着目して—
	高齢者による犯罪の予防と再犯の防止 生涯学習社会における福祉教育と地域づくり —先進地域の事例検討を通して—
三好 弥生	福祉の対象者における自己肯定に関する研究 —QOLと関連付けて—
	家庭的養護に関するプログラムの比較と再検討 —日本の児童福祉現場における実践の活用に向けて—
	タブレットを用いた要介護高齢者のコミュニケーション支援に関する考察 —ICTを活用した要介護高齢者支援の可能性と限界—
	地域で最期まで生活する一人暮らし高齢者への支援 —「見守り支援」「居住支援」「看取り支援」のインフォーマルサービスに着目して—
	要介護者の支援の在り方を問う —障害者の装い支援の現状からケアの本質を再考する—
	認知症高齢者の介護実践に関する研究 —パーソンセンタードケア理念をもったうえで 認知症の人と関わっている時の介護職に生じる困難さ及び思いに着目する—
横井 輝夫	ソーシャルワーカーの暗黙知
	日本における児童養護施設入所児のアタッチメント形成の課題の探索 —研究動向と社会的養護の歴史性から—
	発達障害のある子どもを育てる母の心理社会的適応の様相 —重症心身障害児を育てる母の心理社会的適応との相違を通して—

# 編集後記

社会福祉学部報第21号をお届けします。

本学部報は、平成30年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績などをまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。今年度は、学部創設以来21年目を迎えました。昨年度末に、学部教員の退職が相次いだこともあり、教員が少ないなかで学部を運営していく厳しいスタートになりました。教員の入れ替わりが激しいなかで、学生たちへの負担も大きかったとも感じています。

しかしそのようななかでも今年度は、学生たちの自助努力の成果もあり、社会福祉士の合格率が82.8%（新卒のみ）となり、受験者50名以上（新卒）では全国1位の結果となりました。この結果は、学部創設時から歴代2位の合格率であり、70名定員となつてからは初めて合格率80%を越えました。また精神保健福祉士の合格率は、96.2%（新卒のみ）であり、介護福祉士の合格率についても100%という輝かしい成果に結びつきました。国家試験の合格率は、一つの指標に過ぎませんが、改めて学生たちが自身の力を独自に培っていく過程の重要性を実感した1年にもなりました。

本学部は、開設以来、学生たちが学びをとおして自身の力を育んでいくという気風があるように思います。その気風を大切にしながら、地域の関係機関や多くの関係のある皆様のご支援ご協力のもと、高知県はもとより国内外で活躍する社会福祉専門職を養成するという使命を果たしてきました。新元号となり国を挙げて新しいスタートとなる次年度も、より良い教育・研究体制や専門職養成のあり方を模索しながら、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思ひます。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

社会福祉学部総務委員会 西梅 幸治

## 高知県立大学社会福祉学部報

第21号

発行日：2019年6月1日

発行者：宮上 多加子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部  
〒781-8515 高知県高知市池2751-1  
Tel 088-847-8700（大学代表）  
Tel 088-847-8757（学部代表）  
Fax 088-847-8672（学部専用）





